

393は胴部が下膨れを呈す形態で、脚が付く無頸壺の可能性ある。摩滅がひどく調整は不明。

SK1084 (Fig.106, PL.74)

H-17区で検出した不整形土坑。規模は直軸長1.29m、短軸長0.97m、深さ0.15mを測る。底面は南東隅がテラス状を呈す。埋土は黒色粘質土を呈し、中間に炭化物や焼土ブロックを含んでいた。特に土器片が集中するあたりに多く含む。

出土遺物 (Fig.111, PL.90) 弥生時代前期の土器や黒曜石剥片などが出土している。

394は丹塗土器壺口縁から胴部片で、復元口径22.4cmを測る。頸部と胴部外面に軽い段を有す。調整は胴部外面から口頸部内面迄ヘラミガキ、胴部内面はハケ目。395は刻目突帯文土器壺口縁部細片。口縁は内傾し、屈折部に突帯を持つ。調整は内外面条痕である。

SK1085 (PL.74)

H-19区で検出した不定形の細長い土坑。規模は長軸長2.27m、短軸長0.83m、最大深は0.2mを測る。北と南端はテラス状を呈す。底面は部分的にピット状に落ち込む。埋土は黒色粘質土で、中・下層には灰・炭化物、焼土ブロックを多く含む。

出土遺物 (Fig.111・119, PL.90) 弥生時代前期初頭の土器や黒曜石剥片などが出土している。

396はミニチュアの小さ。最大胴径は7.0cm、残存器高5cmを測る。外面にはヘラによる沈線文が入る。調整は外面ヘラミガキ、内面と底部はナデ。397は口縁部と胴部に二重の刻目突帯を持つ。1/2片で、調整は外面条痕、内面は板ナデ、外底部はケズリ。刻目はヘラによる。399は刻目突帯文土器口縁部細片。内外面条痕調整である。

S31は黒曜石のスクレーパー。最大長2.5cmを測る。黒曜石である。

SK1087 (Fig.106)

F-14区で検出した長方形の土坑。長軸長0.9m、短軸長0.7m、深さ0.25mを測る。壁は内傾する。埋土は黒色粘質土で、下層は粘性が強くなる。**出土遺物**はなかった。

SK1112 (Fig.106, PL.74)

G-13区で検出した不整形の土坑。規模は長軸長1.10m、短軸長0.85m、深さ0.6mを測る。埋土は黒色粘土で、SD1139に切られる。壁面は一部袋状を呈す。底面密着で土器が出土している。湧水があり井戸の可能性ある。

出土遺物 (Fig.112, PL.90) 弥生時代後期後半の土器、木製品などが出土している。

400は壺胴部1/3片で頸部にヘラによる刻目突帯が付く。調整は内外面ハケ目で、外面一部ナデ。401は壺胴部。底部は凸レンズ状を呈す。調整は外面ハケ目、内面はナデとハケ目。外面には黒斑がある。402は壺底部3/4片。調整は内外面ハケ目で外面はタタキ後ハケ目を加え、二次的の火熱を受ける。外底部もタタキ後ナデ。403は口縁部が大きく開く鉢1/6片。調整は口縁部外面ハケ目で、内面にかけてはヨコナデ。体部は外面ケズリ後ナデ、内面はハケ目。404は高坏の脚部1/8片。器表面は摩滅するがヨコナデ。405は器台1/4片。外面ハケ目、内面はナデとハケ目。406は杵形の支脚頂部。調整は外面タタキで、内面シボリ痕が残る。頂部に径1.3cmの孔が空く。

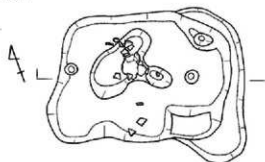
SK1113出土遺物 (Fig.112) 407は壺の口縁部1/8片。跳ね上げ口縁で、調整はハケ目、外面にはススが付着する。

SK1120 (Fig.106, PL.75)

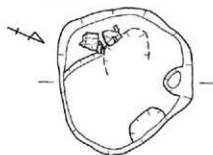
H-17区で検出した楕円形の土坑。規模は長軸長0.62m、短軸長0.5m、深さ0.5mを測る。底面はピット状に二段に深くなる。上層に408が出土している。埋土は黒色粘質土である。

出土遺物 (Fig.112) 弥生時代後期の土器が出土している。

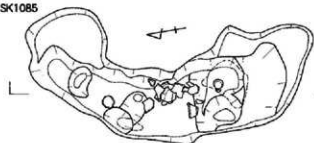
SK1071



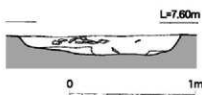
SK1075



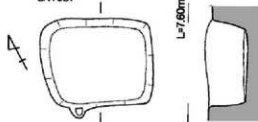
SK1085



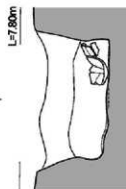
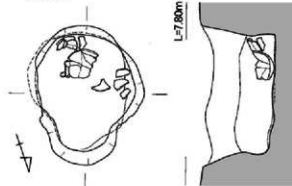
SK1084



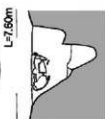
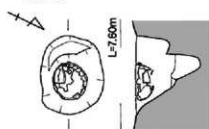
SK1087



SK1112



SK1120



L=7.80m

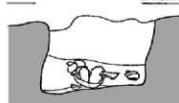


Fig.106 土坑 1 (1/30)

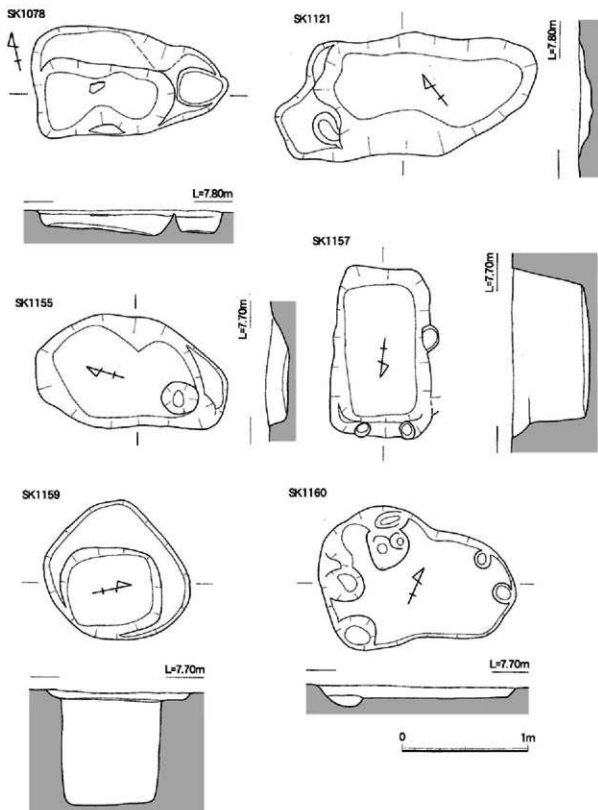


Fig.107 土坑2 (1/30)

408は壺胴底部。扁球の胴部で中央に台形の突帯が付く。頸部も突帯があったと思われるが剥離している。調整はヘラミガキで、外面はハケ目後ミガキ。焼成やや不良。

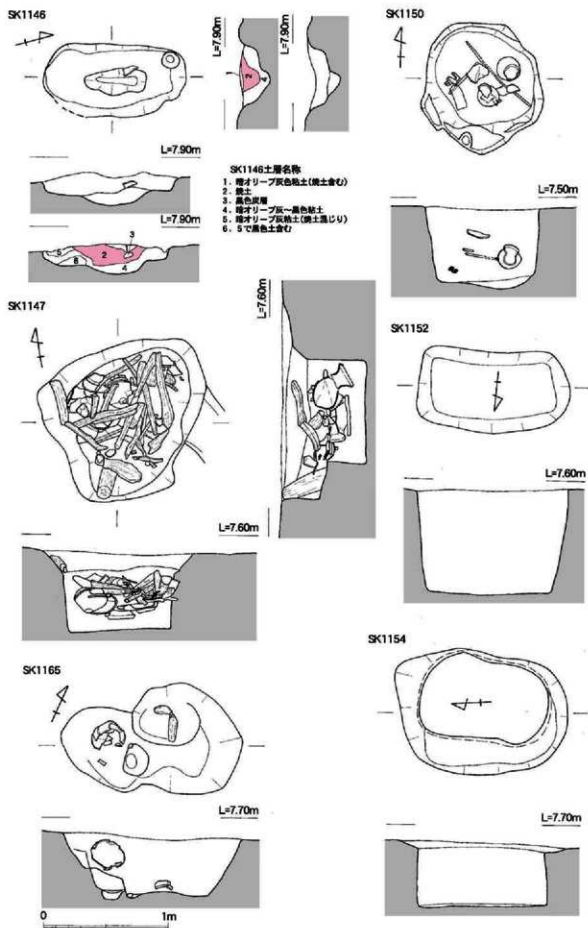
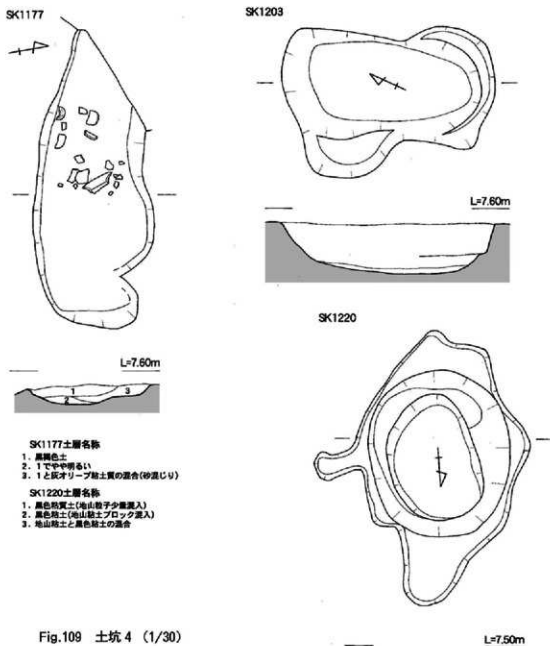


Fig.108 土坑3 (1/30)



SK1177土層名称

1. 黒褐色土
2. 1でやや明るい
3. 1と灰オリーブ粘土質の混合(砂質じり)

SK1220土層名称

1. 黒色粘質土(海山砂子少量混入)
2. 黒色粘土(海山粘土ブロック混入)
3. 地山粘土と黒色粘土の混合

Fig.109 土坑4 (1/30)

SK1121 (Fig.107)

H-13区で検出した不定形の土坑。規模は長軸長2.10m、短軸長0.96m、深さ0.1mを測る。埋土は黒色粘質土で明灰黄色シルトブロックが混入する。出土遺物は弥生時代後期土器が少量出土している。

SK1146 (Fig.108)

G-13区で検出した隅丸長方形の土坑。規模は長軸長1.02m、短軸長0.45m、最大深さは0.24mを測る。中央部に焼土がV形に集中堆積した部分があり、炉として使用された可能性がある。

出土遺物 図示出来ないが、弥生土器片や黒曜石剥片が少量出土している。

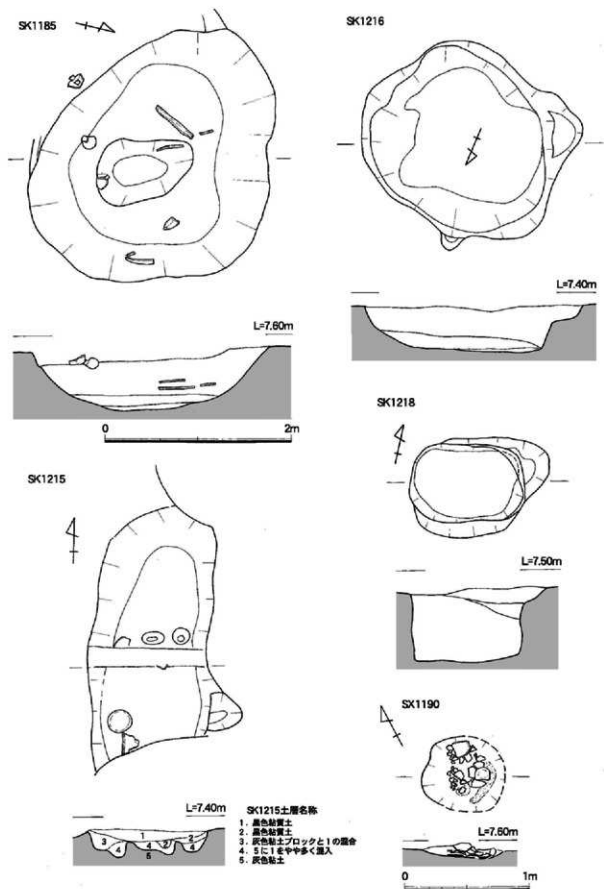


Fig.110 土坑5 (1/30・1/40)

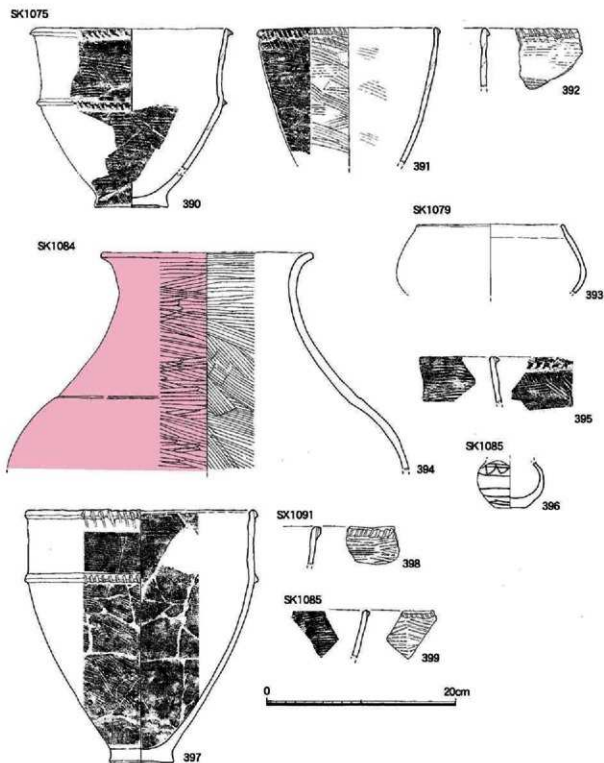


Fig.111 SK1075・1079・1084・1085、SX1091出土土器 (1/4)

SK1147 (Fig.108, PL.76)

G-14区で検出した不整円形の土坑。SD1119がこの遺構に接続する。この遺構の南東隅にはSB1403の柱根が残っていた。規模は長軸長1.47m、短軸長1.27m、深さは0.65mを測る。壁面はほぼ直立する。埋土は黒色粘質土から粘土で、下層粘性が強くなる。また中層あたりには、完形の壺などとともに、

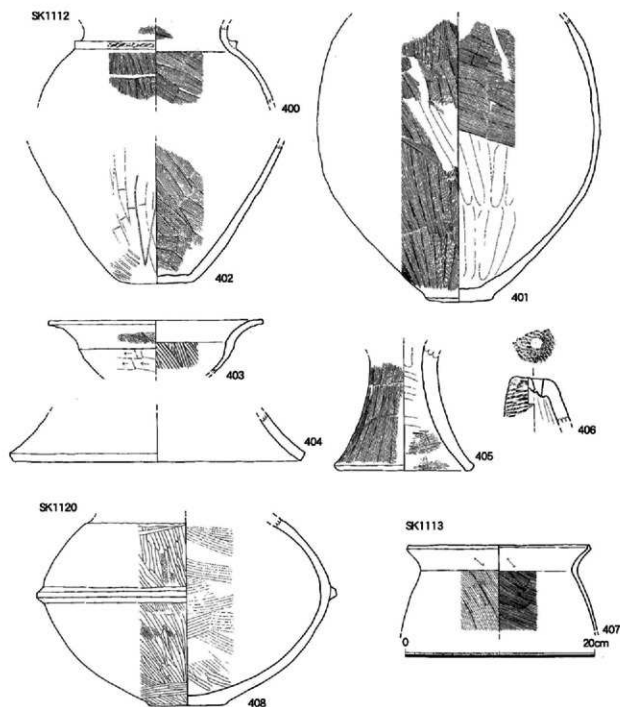


Fig.112 SK1112・1120出土土器 (1/4)

焼けた自然木や加工材、木製品などが集中して出土している。湧水があることから井戸又は貯木施設の可能性もある。樹種同定を行なった試料の結果を見た限りでは、クスノキ、クスギ、コナラ、シキミ、アツブキ、ツブラジイ、ヤナギなどの種類がある。また土壌分析からは水陸両性の珪藻化石が検出されているが、水性珪藻化石が優越しており、この遺構に水が溜まっていたことが分かる。また多量のメロン類の種実なども検出されている。

出土遺物 (Fig.113・114・119・120, PL.90・94・101) 弥生時代後期中頃から後半の土器や木製品

が出土している。

409～412は複合口縁壺。409・410は頸部に三角突帯、胴部に刻目突帯が巡る。409はほぼ完形。410は頸部以下完存。胴部の刻目は409がハケ目工具の木口、410がヘラによる。調整は口縁部ヨコナデ、頸部から胴部は内外面ハケ目、409・410の胴部から底部はナデとハケ目。411は復元完形で頸部に三角突帯が巡る長胴の形態。調整は内外面と外底部はハケ目で、口縁部外面はヨコナデ。409～411いずれも外面には黒斑がある。412は口縁部1/12片。調整は口縁部ヨコナデ、頸部はハケ目である。413～418は甕。413は口縁部1/5片。調整は外面タタキ後ヨコナデ、内面はハケ目。414は1/4片で、調整はハケ目で、口縁部外面はヨコナデ。外面ススが附着する。415～418は口縁端部が跳ね上げの形態。415は1/6片、416は破片で1/2片、417・418は1/2片。調整はいずれも内外面ハケ目で、口縁部はヨコナデとハケ目。416・417外面にはススが附着する。419は形態から壺の底部か。調整は内外面ハケ目。420は高坏坏部1/12片。器壁は摩滅するが、外面ヘラミガキ、内面ハケ目がかすかに残る。421～423は鉢。421は口縁部が屈折して開く器形。口縁部は1/2欠損。調整は体部外面ハケ目、下半と内面は丁寧なミガキ。422は口縁部1/10片。調整は内外面ハケ目。423は深底の1/8片。調整は外面ハケ目とナデ、内面はナデ。

S32は砥石片。残存長17.1cm、残存幅6.2cmを測る。上面と左右側面が使用で擦られている。粘板岩である。S33は砥石製の丸石。最大長2.3cm、幅1.9cmを測る。表面は擦られている。

W58は削り加工のある棒状の不明木製品。中央部で段が付くように加工している。残存長17.8cm、径2.9×2.1cmを測る。表面は火を受け炭化している。W59は槽で欠損がひどい。全長37.0cm、最大幅17.9cm、最大高6.4cmを測る。一木を削り込んで削り抜き仕上げしている。加工痕は明瞭でない。W60は棒状の材で先端は欠損する。残存長42.6cm、最大径6.1×6.6cmを測る。部分的に炭化面があり、樹皮も残る。櫛のようなものか。

SK1150 (Fig.108, PL.75)

F-19区で検出した不整形の土坑。規模は長軸長1.05m、短軸長0.95m、深さ0.65mを測る。南側にテラス状の高まりを持つ。埋土は灰褐色から黒褐色粘土を主体とし、上層では炭化物がレンズ状に落込んでいた。土壌分析では陸生の珪藻化石やメロン類の種実が検出できた。

出土遺物 (Fig.114・115, PL.91・101) 弥生時代後期頃の土器が出土している。

424～426は壺。424は直口壺でほぼ完形。精製の土器で調整は外面ハケ目後ヘラミガキ、内面はナデ。425は広口の壺で口縁部1/3を欠く。精製土器で、口縁部外面はヨコナデ、胴部から内面はミガキである。426は複合口縁壺1/6片。調整はハケ目。427は深底の鉢1/8片。428～430は底部。428は1/3片。429は壺の底部2/3片。調整はハケ目とナデ。430の外底部には十字のヘラ描き沈線が入る。431は口縁が大きく開く器台1/2片。調整は外面ハケ目、内面はハケ目とナデ。

W57は家具などの組み合わせ式の把手である。全長12.5cm、残存幅8.7cm、高さ5.4cmを測る。板目材の使用で、丁寧なケズリ仕上げである。

SK1152 (Fig.108, PL.76)

G-20区で検出した長方形の土坑。規模は長軸長1.20m、短軸長0.6m、深さ0.86mを測る。壁はほぼ直立する。土坑底からは湧水があった。埋土は黒色粘質土で、下層ほど粘性が強くなる。埋土からは陸生珪藻化石などが土壌分析で検出された。

出土遺物 図示出来ないが、弥生時代前期から後期にかけての土器片が少量出土している。

SK1154 (Fig.108)

G-20区で検出した隅丸長方形の土坑。規模は長軸長1.30m、短軸長0.66m、深さ0.46mを測る。埋

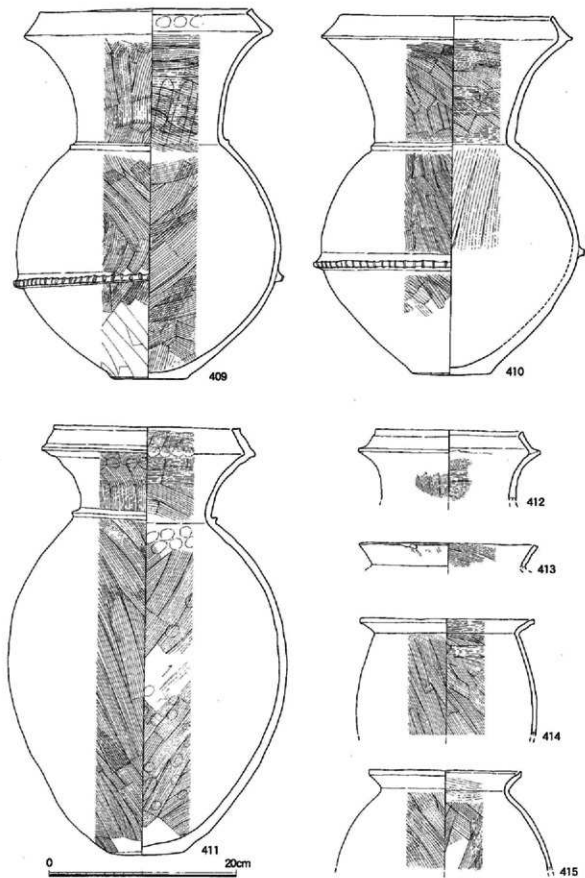


Fig.113 SK1147①出土土器 (1/4)

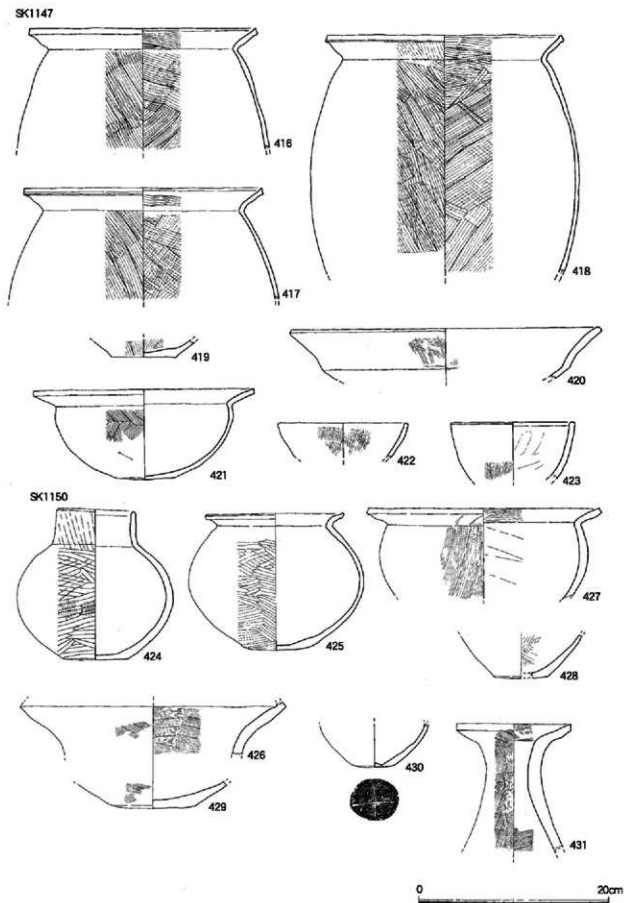


Fig.114 SK1147②・1150出土土器 (1/4)

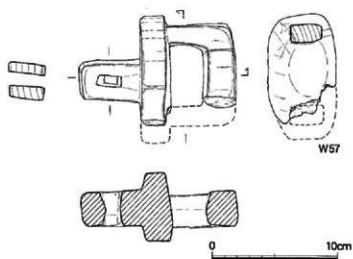


Fig.115 SK1150出土木製品 (1/3)

433・434刻目突帯文土器甕細片。433は口縁部、434は屈曲部。調整は、434は外面条痕で内面はナデ。433は内外面ナデ。435は小型甕の口縁部1/8片。調整はヨコナデ。

SK1157 (Fig.107, PL.76)

F-21区で検出した長方形の土坑。規模は長軸長1.33m、短軸長0.80m、0.58mを測る。側壁はほぼ直立する。埋土は、上層は黒色粘質土で灰色粘土ブロックを含み、下層は腐植土に近くなる。底部近くは地山粘土ブロックを含む。埋土には陸生珪藻化石を含んでいた。

出土遺物 (Fig.116・119, PL.95) 弥生時代中期から後期の土器や黒曜石剥片が少量出土している。

436・437は逆L字形口縁の甕。1/4片と1/12片で、調整は、436は外面ハケ目、内面はナデ。437は外面ハケ目後ナデ、内面はナデで、口縁端部にススが付着する。438は鉢1/8片。調整は外面粗いハケ目、口縁から内面はナデ。439・440は支脚頂部と底部。調整は指押さえナデ、ハケ目である。441は蓋の摘み。調整はナデ。442は外面丹塗りの大型高坏1/8片。坏部との接合部には実帯が付く。筒部は中実でヘラミガキである。内面はシボリ痕が残る。

B1・B2はガラス小玉。直径は0.4cm・0.5cm、厚さ0.2cm・0.15cm、孔径は0.15cmを測る。色調はスカイブルー、濃紺色である。

SK1159 (Fig.107)

F-21区で検出した土坑。遺構面から5cm程下げた面で二段掘状に深くなる。規模は長軸長1.11m、短軸長1.10m、深さ0.9mを測る。埋土は黒色粘土で灰オリブ地山粘土ブロックを含むが、下層ほど腐食物を含み泥土化している。湧水がある。土壌分析で陸生珪藻化石やメロン類の種実を検出した。

出土遺物 (Fig.116, PL.91) 弥生時代中期後半から後期頃の土器が出土している。

443・444は弥生時代後期の甕。443は1/8片。調整は外面粗いハケ目後ナデ、口縁部内面はヨコハケ目で内面はナデ。444は口縁から胴部1/4片で、調整はハケ目で、口縁部外面はヨコナデを加える。ススが付着する。445は底部。摩滅し調整は不明。

SK1160 (Fig.107)

F-21区で検出した不定形状の土坑。規模は長軸長1.55m、短軸長1.13m、深さ0.08mを測る。底面はビット状に凹凸がある。埋土は黒褐色粘質土である。

出土遺物 (Fig.116・119, PL.95) 縄文時代晩期末から弥生時代後期の土器や、黒曜石剥片などが

土は上層は黒色粘質土、下層は黒色粘土である。

出土遺物 (Fig.116) 弥生時代後期の土器片が少量出土している。

432は複合口縁壺細片。調整はヨコナデ。

SK1155 (Fig.107)

F-21区で検出した不整楕円形状の土坑。規模は長軸長1.55m、短軸幅0.89m、深さは0.15mを測る。埋土は黒色粘質土で、下部に炭化物を多く含む。

出土遺物 (Fig.116) 弥生時代前期初頭と後期の土器、黒曜石剥片が少量出土している。

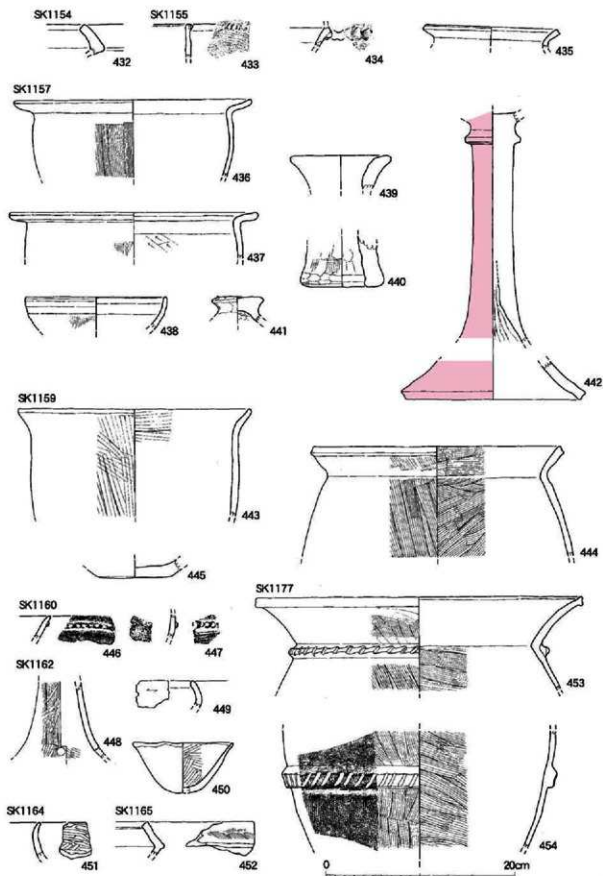


Fig.116 各土坑出土土器 (1/4)

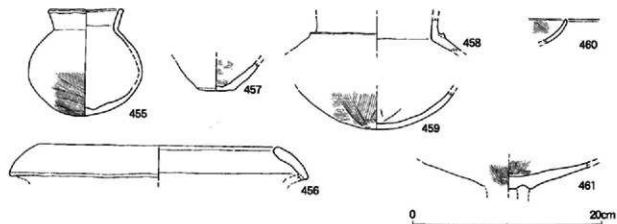


Fig.117 SK1185出土土器 (1/4)

出土している。

446・447は刻目突帯文土器。446は山形を呈す浅鉢口縁部細片。口縁下に突帯を持つ。調整はミガキである。447は甕屈曲部細片。調整は内外面条痕である。

B3はガラス小玉で、直径0.4cm、厚さ0.15cm、孔径0.15cmを測る。色調は濃紺色を呈す。

SK1162出土遺物 (Fig.116・119, PL.95) H-20区のSD1181、SB1318内で検出した土坑で弥生時代後期土器が少量出土している。

448は高坏脚部。外面ハケ目後ヘラミガキ、内面はナデでハケ目。下に円孔が空く。449・450は鉢。449は埴型の鉢細片。調整はヨコミガキ。450は口縁が開く鉢1/4片。調整は外面ヘラナデかミガキ、内面はヘラミガキ。

B6はガラス小玉。直径0.4cm、厚さ0.15cm、孔径0.2cmを測る。色調は濃紺色を呈す。

SK1164出土遺物 (Fig.116) G-21区で検出した不整形の土坑。451は弥生時代前期初頭の壺口縁部細片。外面丹塗り、調整はヘラミガキ。

SK1165

H-19区で検出した不定形の土坑。西側と北側で柱穴と切り合い、不整形な形状を呈す。規模は1.43m、短軸長0.88m、最大深さ0.5mを測る。北側柱穴底には礎板があった。埋土は黒褐色粘質土で炭化物を含む。

出土遺物 (Fig.116・119, PL.95) 弥生時代後期土器が少量出土している。

452は弥生時代後期後半の複合口縁壺細片。調整はヨコナデで外面ハケ目を加える。

B7はガラス小玉。直径0.3cm、厚さ0.15cm、孔径0.15cmを測る。色調は濃紺色を呈す。

SK1177 (Fig.109, PL.76)

H-19区で検出した長方形の土坑。西側は攪乱を受ける。規模は長軸長2.36m、短軸長0.96m、深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色土で下ほど粘性を帯びる。底面は風倒木の痕跡があったのか、深く掘れた。

出土遺物 (Fig.116, PL.91) 弥生時代後期後半土器が少量出土している。

453は壺口縁部1/4片。頭部には刻目突帯が巡る。調整はハケ目とヨコナデ。454は胴部小片。胴部中央下に刻目突帯が一条巡る。調整は内外面ハケ目。

SK1185 (Fig.110, PL.77)

H・I-19区で検出した円形土坑。規模は長軸長2.92m、短軸長2.43m、深さ0.62mを測る。埋土は黒

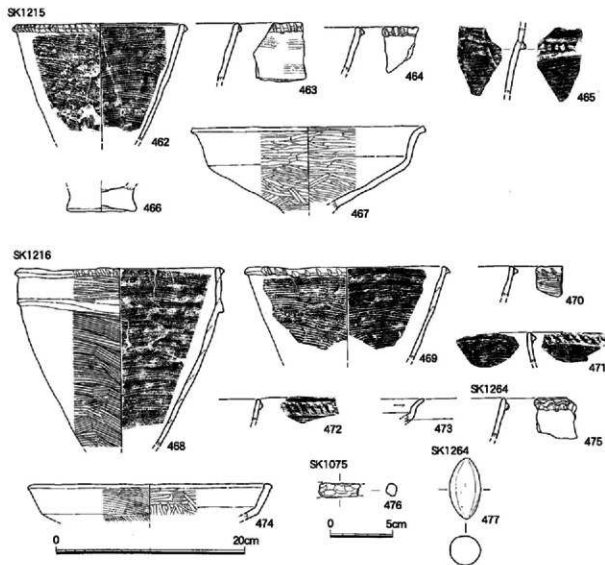


Fig.118 SK1075・1215・1216・1264出土遺物 (1/4・1/3)

色粘土又は粘質土で地山ブロックを混入する。

出土遺物 (Fig.84・117, PL.91・100) 弥生時代後期後半の土器が出土している。

455は弥生時代終末頃の小型壺で、口縁部を一部欠く。調整は外面下半がハケ目、その他はナデ。外面ススが付着する。456は複合口縁壺の口縁部1/12片。調整はナデ。457は底部片。調整はナデで、外面ススが付着する。

W50は薄い板状の木製品。全長25.5cmを測る。円孔が5か所あるが、2か所は未完通。底は狭くになっており、錐などの工具で穿ったものか。下端は細く削って尖らしている。

SX1190 (Fig.110)

H-20区で検出した浅い窪み。図右側は調査時掘り過ぎたので正確ではないが、規模は長軸長約0.65m、短軸長0.6m、深さ0.08mを測る。土器片が底面にまとまって出土した。埋土は黒色粘質土で、灰白色粘土や炭化物を含んでいたが、特に図右側には灰白色粘土が土器の上面全体を覆っていた。

出土遺物 (Fig.117) 弥生時代後期終末頃の土器が出土している。

458は壺頸部1/7片で頸部に突帯が巡る。調整は工具ナデであるが、砂粒が動く。459は丸底の底

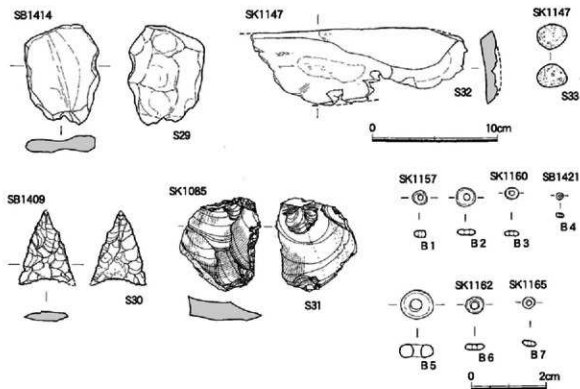


Fig.119 各土坑出土石器・玉類 (1/3・1/1)

部。調整はハケ目、内面はナデ。460は鉢口縁部細片。やや摩擦するがナデで、外面はハケ目がかすかに残る。461は高坏坏部。表面は摩擦が進むが、調整はハケ目。ススが付着する。

SK1203 (Fig.109)

G-22区で検出した長方形の土坑。規模は長軸長1.70m、短軸長1.18m、深さは0.4mを測る。西側と南側にはテラス状の高まりを持つ。埋土は黒褐色粘質土で、地山ブロックを混入する。

出土物 (Fig.123) 弥生時代中期から後期土器片が少量出土している。

493は底部1/2片で、調整はハケ目とナデ。

SK1215 (Fig.110)

I-16区で検出した細長い溝状の土坑。両側を他遺構に切られ不明。確認規模は2.5m、幅は0.92m、深さ0.08mを測る。埋土は黒色粘質土である。底面は凹凸がある。

出土物 (Fig.118, PL.91) 弥生時代前期初頭板付I式古段階土器や黒曜石剥片が出土している。

462~465は刻目突帯文土器甕。462は胴下半を欠く。調整は条痕で、刻目はヘラによる。463・464は口縁部細片。463は外面条痕内面ナデ。464の調整はナデ。465は胴部屈曲部細片。刻目突帯が付く。調整は内外面条痕。刻目は463・465はヘラ、464は棒状工具による。466は底部1/2片。調整は外底部ケズリ、その他はナデ。467は黒色磨研の高坏坏部1/4片。

SK1216 (Fig.110, PL.77)

G-10・11区で検出した不整形の土坑。規模は長軸長1.60m、短軸長1.56m、深さ0.34mを測る。埋土はオリブ黒色粘土と灰色粘質シルトなど地山ブロックの混合土である。

出土物 (Fig.118, PL.91) 弥生時代前期初頭土器が出土している。

468~473は突帯文土器。468は胴部に屈曲を持つ甕。口縁から胴部1/6片で口縁部と胴部に突帯が巡る。口縁部は刻目突帯である。調整は内外面条痕で、外面にはススが付着する。469は1/2片。

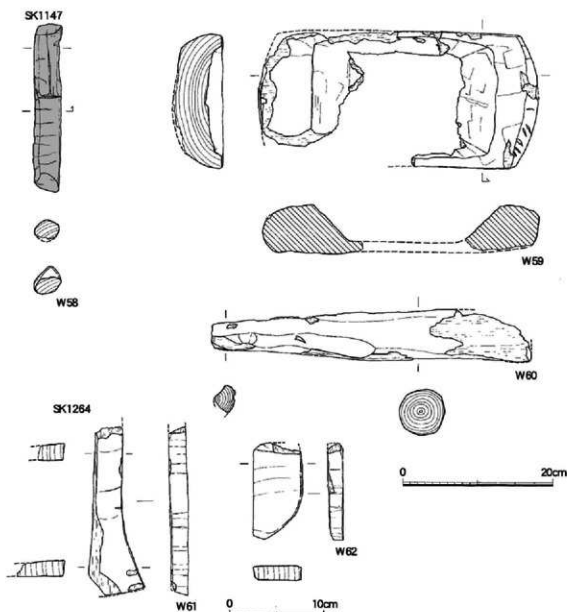


Fig.120 SK1147・1264出土木器(1/4・1/5)

ヘラによる刻目で、調整は条痕である。外面ススが付着する。470～472は口縁部細片。調整は472がナデの外は、条痕とナデ。刻目はヘラによる。473は浅鉢細片か、研磨調整である。474は高坏口縁部1/8片。調整は外面ハケ目、内面ミガキ。

SK1218 (Fig.110)

G-11区の微高地落ち際で検出した隅丸長方形の土坑。規模は長軸長1.10m、短軸長0.90m、深さ0.60mを測る。埋土は黒色粘土に青灰色から灰色地山粘土ブロック混入。

出土遺物 図示出来るものはないが、弥生土器細片が少量出土している。

SK1220 (Fig.109)

E-20区で不定形の汚れた遺構面から一段下がった所で検出した楕円形を呈す土坑。規模は長軸長1.33m、短軸長1.08m、深さは0.58mを測る。断面を見ると壁面は袋状を呈す。埋土は凸レンズ状に落込み、黒色粘質土から粘土で下は粘性強くなる。下は地山粘土ブロック混入。

出土遺物 図示出来るものはないが、弥生土器片が少量出土している。

⑤ 低地部水田遺構と関連遺構

SS1261 (Fig.121, PL.78~80)

調査区南側8~12ライン低地部で検出したものである。埋土は黒色粘土で地山粘土ブロックを混入する。上面に洪水砂などは被っていないが、水田を区画する畔のような高まりと、杭枕SX1246・1247を検出しており、足跡などは確認できていないものの、水田の可能性があるとということで報告する。第6次調査区と第8次調査区微高地上の集落間の低地部に営まれた水田であろうか。

出土遺物 (Fig.78, PL.95) 銅鏡が1点と弥生土器細片がわずかに出土するのみである。

M2は銅鏡で、全長4.6cm、最大幅1.3cmを測る。先端部はケズリ込んでおり、使用によるのか傷んでいる。錆はなく保存状態は良い。

SK1264 (Fig.122, PL.80)

G-8区の水田と思われる部分で検出した不定形の浅い土坑。規模は長軸長2.15m、短軸長2.0m、深さは0.22mを測る。埋土は黄白色粗砂で、水田に伴う遺構の可能性はある。土坑内から木製品などが出土している。

出土遺物 (Fig.118・120, PL.91・101) 刻目突帯文土器細片や木製品が出土している。

475は刻目突帯文土器細片。調整はナデで、棒状工具による刻目である。外面ススが付着する。477は投擲。調整は丁寧なナデ。

W61・W62は不明木製品。W61は右側面を弧状に削り込んだ板状の製品。表面は丁寧な削り加工であるが、左側面は欠損している。残存長17.9cm、最大幅5.8cm、厚さ1.8cmを測る。W62は表面は傷みがあるが、右側面をカーブ状に丁寧な削り込んだ板材。全長10.2cm、幅5.2cm、厚さ1.6cmを測る。樹種はアカガシの板目材である。

SX1246・47出土遺物 (Fig.128, PL.79・80) W71はSX1246杭枕の杭。残存長37.7cmを測る。先端部は削って尖らず。先端部は潰れる。W72はSX1247出土で、柱材転用したと思われる杭。残存長30.7cmを測る。先端部から22cm上部に方形のほぞ孔がある。

⑥ その他の遺構出土遺物 (SX) (Fig.105・123, PL.91・92・94・101・102)

遺構面の汚れや風倒木痕などの自然痕跡、明瞭でない遺構 (SX) からの出土の遺物を報告する。

478~480は遺構面の浅い窪みSX1080出土。いずれも突帯文土器の甕の口縁部や胴部の細片。調整は478が条痕、480がハケ目である。398はSX1091出土。刻目突帯文土器口縁部細片。内外面条痕調整。481・482はSX1116出土。481は甕口縁部1/2片。調整は内外面ハケ目。482は器台口縁部1/6片。調整は外面ハケ目、内面は剥落し調整は不明。483は遺構面の窪みであるSX1117出土の複合口縁壺1/8片。摩擦し調整は不明。484はSX1122出土の底部。調整は摩擦するが、内面ハケ目、外面ハケ目。485・486はSX1153出土。485は甕口縁部1/8片。調整はヨコハケ目とナデ・ハケ目。486は支脚か。調整は外面板ナデ。内面はナデ。487~489はH-21区 SX1194出土。487は長頸壺の口頸部。調整は外面ハケ目後ヘラミガキ、内面板ナデ後ヨコナデ。488は高坏坏底部。調整は器壁は摩擦するが、ヘラミガキか。489は口縁部がわずかに外折する鉢1/4片。器表は摩擦が進むが、調整はナデか。弥生時代後期中頃のもの。490・491はH-21区 SX1195出土の刻目突帯文土器口縁部細片。器壁の調整は板ナデ。492はSX1081出土。底部1/2片。器壁は摩擦し、調整は不明。弥生時代前期のもの。494はSX1237出土。壺の底部1/3片。器壁は摩擦し、調整不明。495~499はSX1242出土。495は小型壺口縁部1/4片。調整はナデで、口縁部に径0.5cmの円孔が1カ所残る。496は壺、鋤先状口縁1/10片。調整はナデ。497・498は甕底部。いずれも1/3片。調整は497はハケ目とナデ、498はハケ目。499は

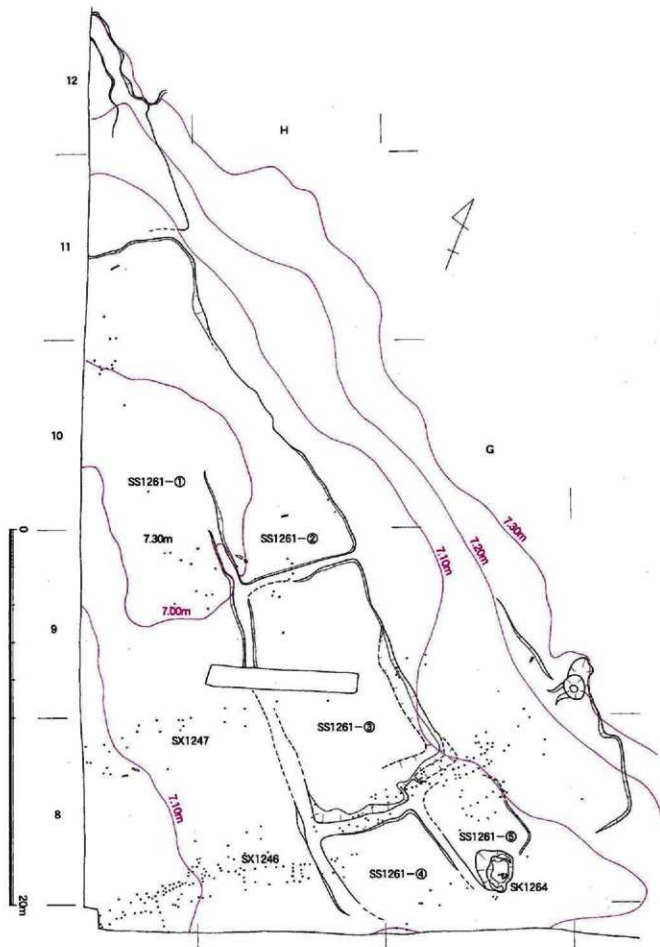


Fig.121 南西側水田遺構検出状況 (1/200)

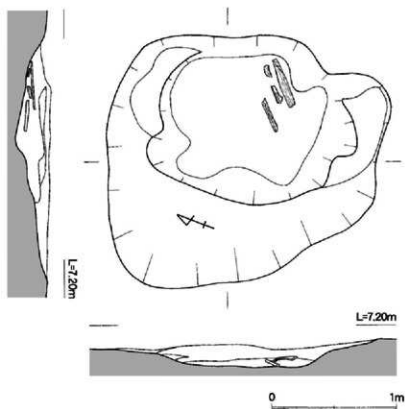


Fig.122 SK1260 (1/30)

土製品の把手。調整は指ナデ、押え仕上げ。

S26はSX1130出土の打製石斧か。全長は11.55cm、最大幅8.0cmを測る。石材は滑石片岩か、蛇紋岩で、縁辺に粗い調整を加える。S27・S28は黒曜石の剥片鏃。鏃身長1.83cm、2.90cmを測る。S27はSX1228出土、S28はSX1231出土。

⑦ ピット・柱穴出土遺物 (SP) (Fig.124~127、PL.91・102)

主なものを図示する。時期は弥生時代前期初頭から古墳時代前期初頭頃である。

500・501はSP 9 出土。500は如意形の甕口縁部 1/10片。口縁端部に刻目が付く。調整は外面タテハケ目、口縁から内面はヨコナデからナデ。外面ススが附着する。501は突帯文土器甕 1/4片。口縁部と胴部に刻目突帯が付く。調整は外面条痕、内面はナデと板ナデ。502はSP45出土。丸底の甕底部。外面ハケ目後板ナデ、内面板ナデ上げ。503はSP78出土。壺口縁部 1/8片。調整は内外面ハケ目後ヨコヘラミガキ。外面部分的に赤色顔料が残る。504はSP126出土。弥生時代初頭の壺か鉢底部片で、調整は板ナデとナデ。505はSP147出土。板付I式甕口縁部細片。口縁部端部に刻目が付く。506はSP168出土。突帯文土器の上げ底の底部。調整は外面条痕か板ナデ、底部はハケ目と板ナデ。507はSP337出土。突帯文土器の小型甕で口縁部は 1/5片。底部は高台状で上げ底。口縁部にヘラによる刻目が付く。調整は板ナデとナデ。508はSP339出土。刻目突帯甕口縁部細片。外面雑なハケ目、内面ヨコヘラミガキ。509はSP361出土。やや平底気味の底部で、調整は内外面ハケ目とナデ。510はSP378出土。上げ底の底部。調整はナデ。511はSP384出土。底部で、調整はナデ。512はSP390出土。

壺の口縁部細片。調整はハケ目とナデ。30はSP426出土。鋤先状口縁の壺細片。調整は内外面ハケ目。弥生時代中期後半頃のもの。515はSP432出土。大型の甕口縁部1/10片。調整はナデで、外面丹塗り痕が残る。516はSP469出土。甕の口縁部1/9片。調整は外面から口縁部内面はハケ目、胴部内面はナデ。外面ススが付着する。517はSP486出土。壺胴部1/2片で、頸部と胴部下部に刻目突帯が1条ずつ巡る。頸部の刻目は×字状である。調整は胴部内外面ハケ目、外底部はナデ。518はSP546出土。蓋2/3片で、調整は外面ヘラミガキ、内面は丁寧なナデで工具痕残る。外面丹塗り。519はSP552出土。甕口縁部1/12片。調整は口縁部ヨコナデ。520はSP557出土。甕口縁部1/5片。調整は胴部外面ハケ目、口縁から内面はナデ。521はSP565出土。底部で調整は外面板ナデ、内面はハケ目、底部はナデ。522はSP568出土。突帯文土器口縁細片。調整は外面条痕、内面はナデ。524・525はSP593出土。甕の底部。524は1/2片で調整はナデか板ナデ。525は外面ナデで内面はハケ目。526はSP634出土。手握の鉢1/2片で器形は歪む。復元口径7.5~8.0cmを測る。527はSP668出土。筒型器合の口縁部か。1/5片で、調整は外面タテヘラによる暗文、内面はナデ。内外面丹塗り痕跡が残る。528はSP674出

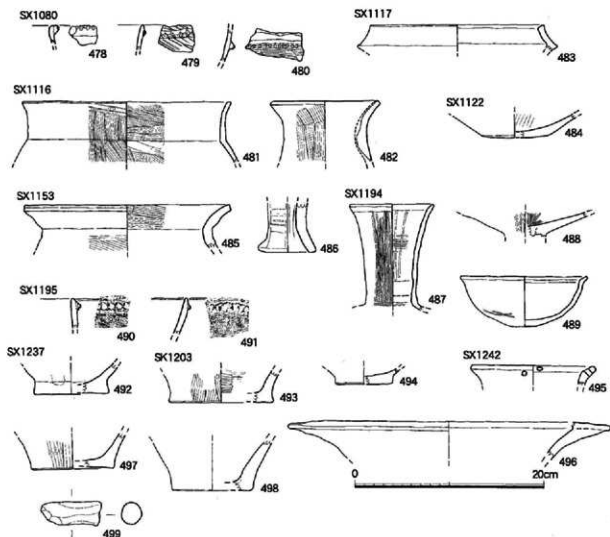


Fig.123 各種構出土土器 (1/4)

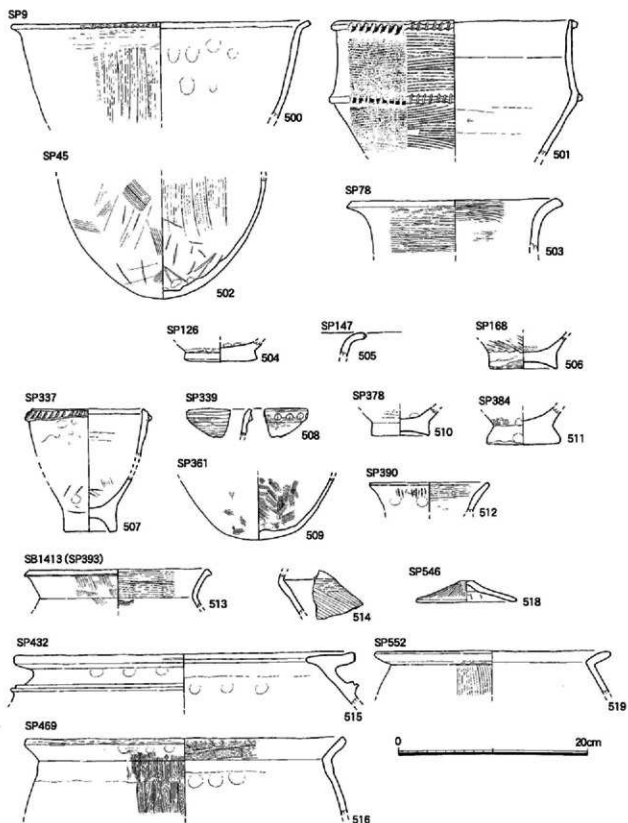


Fig.124 柱穴出土土器① (1/4)

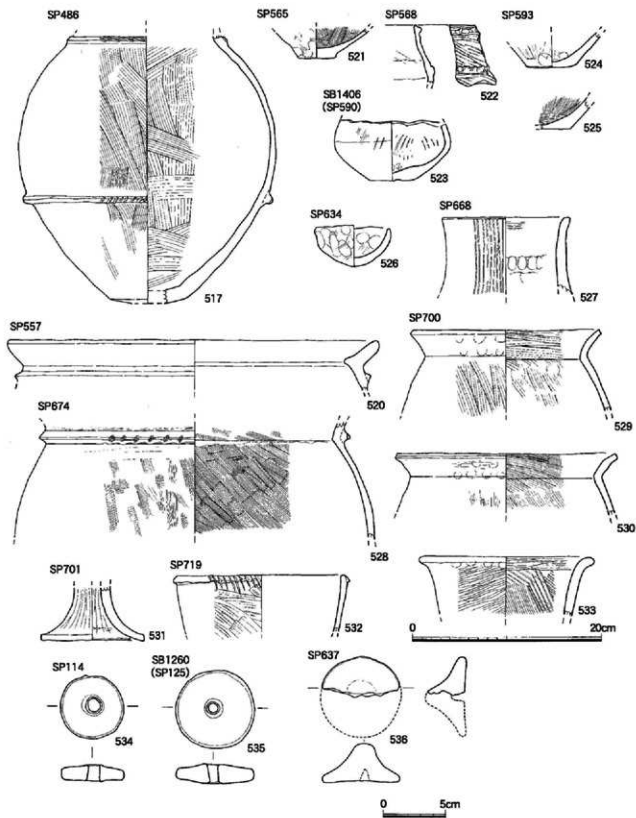


Fig.125 柱穴出土土器② (1/4-1/3)

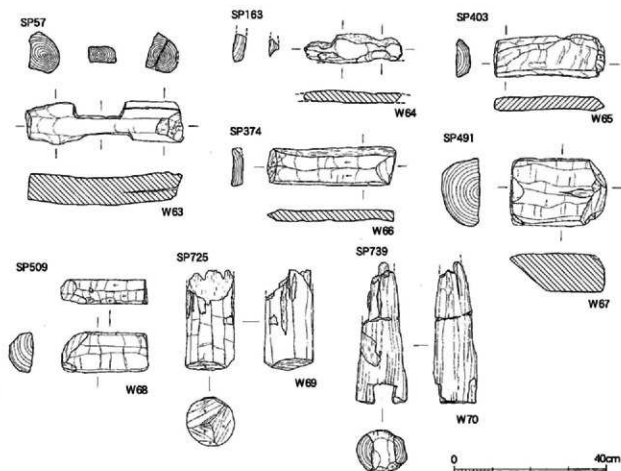


Fig.126 柱穴出土柱・礫板 (1/10)

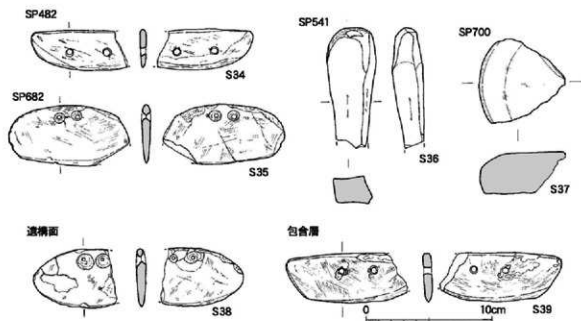


Fig.127 柱穴、遺構面出土石器 (1/3)

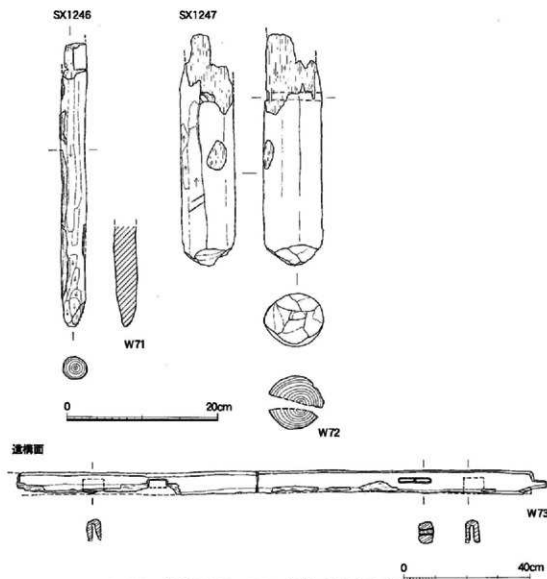


Fig.128 杭列SX1246・1247、遺構面出土木器 (1/5・1/12)

土。甕頸胴部 1/5 片。調整は内外面ハケ目。頸部には突帯が 1 条巡り、木口による刻目が付く。529・530はSP700出土。甕口縁部 1/6 片・1/7 片で、いずれも調整はハケ目とナデ。531はSP701出土。脚部 1/3 片で、調整は外面細かいヘラミガキ、内面はナデ。532・533はSP719出土。532は突帯文土器甕口縁部。口縁にはヘラによる刻目突帯が付く。調整は外面条痕でススが付着し、内面は板ナデ。533は甕口縁部 1/8 片で、調整は内外面ヘラミガキ。内面ハケ目が残る。534は土製紡錘車。534はSP114出土。直径5.0cm、孔径は1.0cmを測る。調整は丁寧なナデ。536はSP637出土。中央部が丸く高くなる山形の円形土製品。1/2 弱残り、直径5.2cm、高さ3.1cmを測る。底面には未完通であるが、孔が空く。調整は丁寧な磨き。

S34はSP486出土の外湾刃半月形の石包丁片。残存長7.6cmを測る。紐孔が 2 か所あり、その間隔は 3.0cmを測る。研磨調整であるが、かなり磨り減る。S35はSP682出土の杏仁形石包丁。残存長9.6cmを測る。研磨調整であるが、使用による欠損・摩滅が進む。S36はSP541出土の砥石片。残存長9.5cmを測る。4面が使用されている。石材は粘板岩か泥岩。S37はSP700出土の磨石片。上面は丁寧な擦り、石材は玄武岩。

W63～W70は建物としてまとめ切れなかった各柱穴出土の礎板と柱。詳細は遺物観察表Tab. 4を

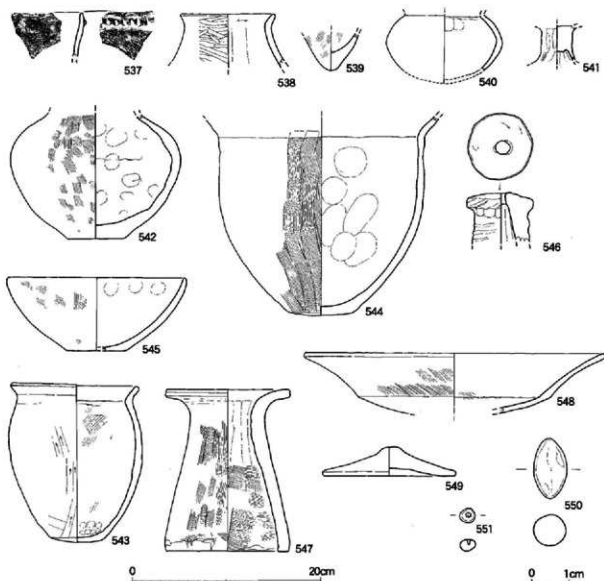


Fig.129 包含層・遺構面出土土器 (1/4・1/1)

参照のこと。

⑧ 包含層・遺構面出土遺物 (Fig.127~130, PL.92・95・102)

537・538はSK1160周辺出土。537は突帯文土器口縁部細片。ヘラによる刻目が付き、調整は条痕。538は壺口縁部1/4片。調整はヘラミガキとナデ。539はI-20区遺構面出土。器壁が厚手の尖底部分。調整は内外面ハケ目後ナデ。540・541は包含層SX1149出土。いずれも古墳時代前期の土師器。540は壺の胴部1/4片。調整はナデ。541は高坏脚部。調整はヘラケズリ後ナデでハケ目を加える。542~546はI-13区包含層出土。542は壺1/2片。調整は外面ハケ目後ナデ、内面はナデで粘土帯の痕跡が残る。543・544は甕。543は小型で1/4~1/6片。復元口径13.6cmを測る。調整は外面板ナデ、内面はハケ目後ナデ。外面ススが附着する。544は口縁部を欠く1/3片。調整は胴部ハケ目、口縁から内面・底部はナデ。545は鉢4/5片で、器壁は摩滅するが、外面ハケ目後ナデ。546は支脚の頂部。頂部径6.9cmを測る。頂部には1.4×1.6cmの円孔がある。調整は体部タタキ、頂部は摩滅する。547はH-17区遺構面出土。器台3/4片で、調整は体部ハケ目、口縁部はヨコナデ。548は調査区西壁出土。

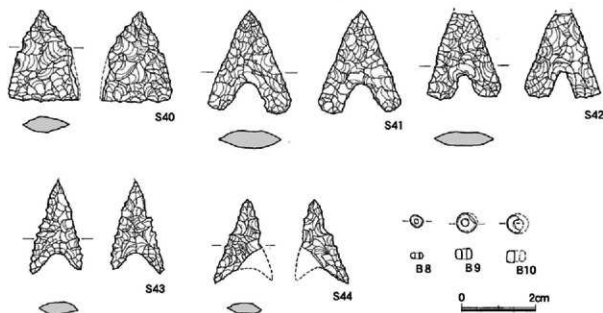


Fig.130 各遺構出土石器・玉類 (1/1)

高坏坏部 1/5 片。器壁は摩滅するが、外面ハケ目。549はD-21区遺構面出土。口縁端部を大半欠く蓋。調整は丁寧なナデ。裾に紐 1 対の円孔が斜めにあく。550はI-19区出土。投弾で長さ4.8cm、直径2.6cmを測る。調整は丁寧なナデ。551はH-20区出土。円形の土玉か、直径1.1cm、厚み0.9cmを測る。上面には直径0.4cmの孔が開くが貫通していない。全体に摩滅がひどい。

S38はI-19区遺構面。杏仁形石包丁片で、残存長6.6cmを測る。研磨仕上げであるが、全体に傷みが激しい。2カ所の紐孔があるが、間隔は中心で1.5cmを測る。S39はI-13区包含層。外湾刃半月形の石包丁片。残存長9.6cmを測る。調整は研磨仕上げで、2カ所の紐孔間は2.5cmを測る。S40～S44は黒曜石の石鏃。

W73は断面長方形の建築部材。残存長167.7cmを測る。右端にホヅ、左端や側面には貫孔がある。全体に丁寧なケズリ。

Tab.4 第三面遺物観察表

土器・土製品観察表

遺物番号	Fig.	PL.	出土遺構	出土位置・層位	器種・形状	数量(原産)cm		器種	色	土	調	形状	厚	備考
						口径	高さ							
1	S7		SB1343(SF380)		弥生土器-壺		筒状品	3.0	5.5	精曲	黒褐色	良好	断面1/4	
2	S7		SB1351(SF387)		弥生土器-壺			8.1	3.2	3m以下砂粒混入	灰黄褐色	良好	断面1/2	
3	S7		SB1351(SF394)		弥生土器-壺	(11.0)			3.3	3m以下砂粒混入	灰黄色	良好	断面1/6	
4	S7	41	SB1351(SF391)		弥生土器-壺	(11.0)		12.0 11.4	3.4	3m以下砂粒混入	灰+黄褐色	良好	1/2	V線式示
5	S7		SB1351(SF391+392)		弥生土器-壺			(17.0)	3.4	3m以下砂粒混入	灰+黄褐色	良好	断面1/4	
6	S7	41	SB1354(SF375)		弥生土器-壺	11.2	14.0		12.7	3m以下砂粒少量混入	灰+褐色~灰+赤褐色	良好	断面1/4	
7	S7		SB1354(SF375)		弥生土器-壺	(15.0)			4.3	3m以下砂粒少量混入	灰+黄褐色	良好	断面1/4	
8	S7		SB1354(SF371)		弥生土器-壺				12.6	3m以下砂粒混入	灰+褐色	良好	断面1/4	
9	S7		SB1354(SF271)		ミナチア土器-壺	(7.8)			5.8	3m以下砂粒少量混入	褐色	良好	1/4	
10	S7		SB1356(SF390)		弥生土器-壺			(12.0)	6.1	3m以下砂粒少量混入	灰+黄褐色	良好	断面	
11	S7		SB1357(SF311)		弥生土器-壺	(18.2)			3.3	3m以下砂粒少量混入	黒褐色	良	断面1/4	
12	S7		SB1357(SF311)		弥生土器-壺	(14.0)			2.5	3m以下砂粒少量混入	灰+褐色	良好	断面1/10	

発掘 番号	F/E	FL	出土遺物	出土位置・層位	調査・撮影	遺量(単位:cm ³) 100g以下			土質	色・調	供試	保存状況	備考	
						土層 厚さ	断面 長さ	断面 幅						
13	57		S8135(SF982)		弥生土器-高坏			(17.0)	4.1	精曲	黄褐色	良好	片取あり	
14	57		S8135(SF977)		弥生土器-高坏				2.6	3m以下砂粒多量混入	暗褐色	不良	口縁部折	
15	57		S8135(SF977)		弥生土器-高坏				1.8	精曲	黄褐色	良好	口縁部折	
16	57		S8136(SF917)		弥生土器-高坏				3.8	1m以下砂粒少量混入	褐色	良好	口縁部折	
17	57		S8136(SF940)		弥生土器-高坏?			(10.0)	2.7	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
18	57		S8140(SF918)		弥生土器-高坏				3.0	3m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折	
19	57		S8140(SF918-7)		弥生土器-高坏				2.1	精曲	黄褐色	良好	口縁部折	
20	57		S8140(SF924)		弥生土器-高坏	(14.0)			2.2	3m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折	
21	57		S8140(SF914)		弥生土器-高坏				2.1	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
22	57		S8140(SF914)		弥生土器-高坏	(27.0)			3.4	精曲	黄褐色	良	口縁部折	
23	57		S8140(SF924)		弥生土器-高坏				2.1	1m以下砂粒少量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
24	57		S8140(SF914)		弥生土器-高坏			8.8	2.6	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
25	57		S8140(SF95)		弥生土器-高坏				3.1	3m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折	
26	57		S8140(SF900)	北側	弥生土器-高坏		埋没部(2.0)		4.3	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
27	57		S8140(SF900)		弥生土器-高坏				2.7	精曲	灰白色	良	口縁部折	
28	57		S8140(SF900)		弥生土器-高坏				4.0	3m以下砂粒混入	黄褐色	普通	口縁部折	
29	57		S8141(SF929)		弥生土器-高坏				3.3	3m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折	
30	57		SF405		弥生土器-高坏				4.7	3m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折	
31	57		S8140(SF900)		弥生土器-高坏	17.0			3.7	3m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折	
32	57	40	S8140(SF934)		弥生土器-高坏	(8.8)			15.8	5m以下砂粒多量混入	黄褐色-黒色	良好	1/2	
33	61		S8141(SK141)		弥生土器-高坏				2.8	砂粒多量混入	褐色を帯びた灰白色	良好	口縁部折	
34	61		S8141(SK141)		弥生土器-高坏			(8.0)	4.2	砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
35	61		S8141(SK141)		弥生土器-高坏			(9.0)	2.5	砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
36	65	81	SD418 905	上層	弥生土器-高坏	(11.8)			12.8	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	1/4	
37	65	31	SD418 905	上層	土埴器-高坏	17.2			25.6	精曲	黄褐色	良好	口縁部折、片取あり	
38	65		SD418 905	上層	1-1-F = 7土器-高坏	(11.6)			7.5	1m以下砂粒混入	黄褐色	良好	1/9	
39	65		SD418 905	上層	弥生土器-高坏	(15.0)			5.3	1m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折	
40	65		SD418 905	中層-下層粘土	弥生土器-高坏	(36.0)			14.2	2m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折、片取あり	
41	65		SD418 905	中層-下層	弥生土器-高坏	(12.0)			6.0	1m以下砂粒少量混入	褐色	良好	口縁部折	
42	65		SD418 905	1号~4号中層	弥生土器-高坏				13.6	精曲	黄褐色	良好	口縁部折、片取あり	
43	65		SD418 905	中層-下層粘土	弥生土器-高坏	(34.0)			4.6	3m以下砂粒混入	灰白色-黄褐色	良好	1/3	
44	65		SD418 905	中層-下層粘土	弥生土器-高坏	(11.0)			6.0	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
45	65	81	SD418 905	中-下層層 5-6	弥生土器-高坏	(44.0)			21.8	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
46	65		SD418 905	下層	弥生土器-高坏	(18.0)			5.3	精曲	黄褐色	良好	口縁部折	
47	65		SD418 905	下層	弥生土器-高坏				5.5	精曲	黄褐色	良好	口縁部折	
48	65		SX1113 905	下層部中層	弥生土器-高坏	(31.3)			13.8	1-3m層砂多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
49	66		SD418 905	下層部中層	弥生土器-高坏	(33.2)			8.0	1m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
50	66		SD418 905	最下層	弥生土器-高坏				5.2	精曲	黄褐色	普通	口縁部折	
51	66	81	SD418 905	下層部中層	1-1-F = 7土器-高坏	7.0			7.0	精曲	黄褐色	良好	1/4	
52	66	81	SD418 905	下層部中層	弥生土器-高坏との共存		埋没部(3.0)		4.5	1-2m層砂多量混入	黄褐色	良好	1/4	
53	66		SD418 905		弥生土器-高坏	15.2			5.5	4m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
54	66		SD418 905		弥生土器-高坏				4.0	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
55	66		SD418 905		1-1-F = 7土器-高坏	6.5			2.3	4m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
56	66		SD418 905		弥生土器-高坏	(23.1)			7.0	18.8	3m以下砂粒多量混入	黄褐色-黄褐色	良好	1/2
57	66		SD418 905		土埴器-高坏				13.9	4m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	1/2割	
58	66	81	SD418 905		弥生土器-高坏				2.8	砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
59	66		SD418 905		土埴器-高坏	埋没部(8.1)		(4.0~5.1)	5m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折		
60	67	81	SD418 105	中層-下層	土埴器-高坏	(18.0)	(17.0)		12.78	1m以下砂粒少量混入	黄褐色-黄褐色	良好	口縁部折	
61	67		SD418 105		弥生土器-高坏	14.7			4.5	1m以下砂粒多量混入	黄褐色-灰白色	良好	口縁部折	
62	67	81	SD418 105		弥生土器-高坏	(12.5)			18.8	1m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
63	67		SD418 105		弥生土器-高坏	(36.4)			7.0	1m以下砂粒混入	黄褐色	良好	口縁部折	
64	67		SD418 105		弥生土器-高坏	(32.0)			5.5	1m以下砂粒少量混入	黄褐色	良好	口縁部折	
65	67		SD418 105		下層部埋没部	(27.2)			11.1	精曲	黄褐色-黄褐色	良好	口縁部折	
66	67	80	SD418 105		弥生土器-高坏	13.5	13.0		12.4	1m以下砂粒少量混入	黄褐色-黄褐色	良好	口縁部折	

建物番号	F/E	F/L	出土層種	出土位置・層位	調査・設計	土量(単位:cm ³) 10m ² 以内			土質	色 調	状況	埋存状況	備 考
						掘削土量	埋戻土量	残存土量					
67	67		SDH18 10E		土埋跡-黄	(17.0)	26.2	22.6	1m以下砂粒少量混入	灰黄緑~黒色	良好	10E1/9~10E1/14	布巻跡
68	67		SDH18 10E		土埋跡-黄		(15.3)		3m以下砂粒少量混入	軽黄~黄い黄緑、黒色	良好	埋跡-1枚布	
69	67		SDH18 10E	中層~下層	粘土土層-黄	(36.0)		6.06	3m以下砂粒多量混入	黄い黄緑~黄い黄褐色	良好	10E1/4	
70	67	62	SDH18 10E		粘土土層-黄	(21.0)		12.7	1m以下砂粒多量混入	黄い黄~黄褐色	良好	10E1-埋跡1/4	1枚鉄線
71	67	62	SDH18 10E		粘土土層-黄	(36.0)		17.5	2m以下砂粒多量混入	黄い中層~灰褐色	良好	1/3	埋1枚鉄線
72	66		SDH18 10E		粘土土層-黄	(16.2)		16.4	2m以下砂粒多量混入	淡黄褐色	良好	埋跡1/2埋跡1/4	
73	66		SDH18 10E	下層粘土と混合	粘土土層-黄	(39.5)		3.2	1~3m粗砂少量混入	黄い褐色	普通	10E1/6	
74	66	62	SDH18 10E		粘土土層-黄	(32.0)		21.2	1~3m粗砂少量混入	灰黄褐色	良好	10E1-埋跡1/3	状況不明(付巻あり)
75	66		SDH18 10E	SK118Eと混合	粘土土層-黄	(36.4)		6.15	1m以下砂粒多量混入	黄い黄緑~黄い褐色	良好	10E1/6	
76	66		SDH18 10E	東高線跡下層	粘土土層-黄環	36.1		4.6	1m以下砂粒少量混入	黄い黄~オリーブ黒色	良好	10E1/7	
77	66		SDH18 10E		粘土土層-黄環	(34.6)		6.2	粗砂少量混入	黄い黄緑~黄い褐色	良好	10E1/7	
78	66		SDH18 10E		粘土土層-黄環			4.4	雑草	灰褐色	良好		
79	66		SDH18 10E		粘土土層-赤台	(14.2)		14.1	1~3m粗砂少量混入	黄い黄~黄褐色	良好	10E1/4	
80	66	62	SDH18 10E		粘土土層-赤台跡 埋跡0.5 埋跡0.5		9.5	3m以下砂粒多量混入	淡黄緑~灰色	良好	完好		
81	66		SDH18 10E	下層粘土	粘土土層-赤	(17.5)		6.1	1~3m粗砂少量混入	灰黄褐色	良好	10E1/6	
82	66		SDH18 10E	下層(SK127Eと混合)	粘土土層-黄	(14.3)		6.1	1m以下砂粒少量混入	黄い褐色	良好	埋跡1/4	
83	66	62	SDH18 10E	上層-J区中層	土埋跡-黄環	16.1		11.7	3m以下砂粒多量混入	黄い褐色	良好	10E1/2	
84	66		SDH18 10E	下層砂	粘土土層-黄環	(18.0)		2.76	1m以下砂粒少量混入	黄~淡黄褐色	良好	10E1/5	
85	66		SDH18 10E	下層	粘土土層-赤	(15.3)		3.3	1~3m粗砂少量混入	褐色	良好	10E1/8	
86	66		SDH18 10E	下層粘土	粘土土層-赤	(8.1)	(8.0)	5.2	雑草	黄い褐色	良好	10E1-埋跡1/4	埋跡不明(土質不明)の可能性あり
87	66		SDH18 10E	下層	粘土土層-赤台	(15.2)		7.2	1m以下砂粒多量混入	黄い黄褐色	良好	10E1/5	
88	66	62	SDH18 10E	下層砂	粘土土層-赤台	(15.0)		17.6	1m以下砂粒少量混入	黄い黄緑~灰黄褐色	良好	埋跡1/2	
89	66	62	SDH18 10E	表下層	粘土土層-赤	(38.2)		12.6	3m以下砂粒やや多量混入	灰黄い黄褐色	良好	10E1/4	
90	66	62	SDH18 10E	表下層	粘土土層-赤		12.1	1m以下砂粒少量混入	赤黄い褐色	良好	埋跡1/2	片巻あり	
91	66		SDH18 10E	表下層(埋跡)	粘土土層-赤	(38.2)		9.3	1m以下砂粒少量混入	灰黄い褐色	良好	10E1-埋跡1/7	
92	66		SDH18 10E	東高線跡下層	粘土土層-黄環	(36.4)		2.3	3m以下砂粒やや多量混入	灰黄い黄緑~黒色	良好	10E1/12	
93	66		SDH18 10E	東高線跡下層	粘土土層-黄環		(埋跡4.5)	4.8	雑草	灰黄褐色	良好	埋跡1/6	
94	66		SDH18 11E		粘土土層-赤	9.5		7.9	1m以下砂粒多量混入	灰黄い褐色	良好	10E1-埋跡1/2	
95	66		SDH18 11E		粘土土層-赤	(18.4)		5.0	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	10E埋跡有り	土表計測位置とC埋跡の位置一致
96	66		SDH18 10E	中層~下層	粘土土層-黄	(34.4)		18.2	1~3m粗砂少量混入	黄~黒褐色	良好	10E1-埋跡1/2	
97	66		SDH18 11E		粘土土層-黄		6.6	21.46	2m以下砂粒多量混入	灰黄い黄~灰黄い黄褐色	良好	埋跡1/6	
98	66	62	SDH18 11E	1号~4号上層+3E(13E)	粘土土層-黄	(12.0)		5.4	(13E) 3m以下砂粒少量混入	灰黄い黄緑~黄褐色	良好	10E1-埋跡1/2	
99	66	62	SDH18 11E		粘土土層-赤	16.1	16.6	12.7	1m以下砂粒少量混入	灰黄い黄緑~黒色	良好	10E1/2	
100	66		SDH18 11E		粘土土層-赤	(1.5)		6.0	1m以下砂粒少量混入	灰黄い黄褐色	良好	10E1/6	
101	66	62	SDH18 11E	1号~4号上層+11E	粘土土層-赤	(1.5)		4.3	1~3m粗砂少量混入	黄褐色	良好	10E1/2	
102	66		SDH18 10E	東高線下層+11E	粘土土層-赤	(16.6)		5.6	雑草	黄褐色	普通	10E1/6	
103	66		SDH18 11E		粘土土層-赤	(16.0)		7.0	雑草	黄緑~灰黄褐色	良好	1/10	
104	66	62	SDH18 11E		粘土土層-赤跡?		(埋跡9.5)	9.9	3m以下砂粒少量混入	灰黄い黄緑~黄褐色	良好	埋跡	
105	70		SDH18 11E	下層+10E11E埋跡1号~4号	粘土土層-黄	(47.0)		25.2	1m以下砂粒多量混入	灰黄緑~オリーブ黒色	良好	10E1-埋跡1/3	
106	70	62	SDH18 11E	下層と混合	粘土土層-黄	(60.0)		10.1	2m以下砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	10E1/3	
107	70		SDH18 11E	下層	粘土土層-黄		12.6	3m以下砂粒混入	灰褐色	良好	埋跡1/2		
108	70		SDH18 11E	下層砂	粘土土層-黄環	(35.0)		7.2	雑草	灰褐色、やや褐色	良好	埋跡1/7	
109	70		SDH18 11E	下層	土埋跡-赤	(18.1)		5.05	2m以下砂粒少量混入	灰黄い褐色	良好	10E1/6	
110	70		SDH18 11E	下層	粘土土層-赤台	(16.4)		14.8	3m以下砂粒やや多量混入	灰黄褐色	良好	11号埋跡上層1/3	
111	70		SDH18 10E	上層	赤黄緑土層-黄褐色		(7.2)	2.8	砂粒混入	灰白色	やや軟	埋跡	状況不明(可搬積あり)
112	70		SDH18 10E	中層~下層	粘土土層-赤	(30.2)		2.4	雑草	黄褐色	良好	埋跡1/2	木の根は混入あり
113	70		SDH18 10E	下層砂	粘土土層-赤		7.0	2.9	1m以下砂粒少量混入	灰黄緑~黄褐色	良好	埋跡	
114	70		SDH18 10E	上層	粘土土層-赤	(16.2)		2.9	1m以下砂粒混入	灰白色	普通	埋跡1/2	木の根は混入あり
115	70		SDH18 10E		粘土土層-赤	9.5	9.95	7m以下砂粒多量混入	灰黄い褐色	良好	埋跡		
116	70		SDH18 11E	下層	粘土土層-赤		9.3	4m以下砂粒少量混入	灰黄い褐色	良好	埋跡	木の根は混入あり	
117	70	62	SDH18 10E		土埋跡-黄	埋跡12.1 (12.1)		21.6	3m以下砂粒少量混入	淡黄緑~黒色	良好	埋跡1/2	状況不明(付巻あり)
118	70		SDH18 10E		粘土土層-黄		18.9	1~4m粗砂少量混入	灰黄い褐色	やや軟	埋跡		
119	70	62	SDH18 10E	下層粘土	粘土土層-黄	(17.2)		9.3	1m以下砂粒少量混入	黄~黒色	良好	10E1-埋跡1/2	
120	70	62	SDH18 10E	上層砂	粘土土層-黄環		(埋跡10.5)	10.6	1m以下砂粒少量混入	灰黄い黄緑~黄褐色	良好	埋跡、埋跡1/4	

標記番号	F号	R1	出土遺構	出土位置 層位	發掘 箇所	遺量 単位 (㎡)				計 画	土 質	色 調	塊状	保存状況	備 考
						自己調査	調査	埋没	埋没						
120	70	60	SK205a区	南地下層砂層	粘土土層 露出	188				20	100以下砂粒少量混入	紅褐色	良好	埋没欠損	
120	70		SK205b区	下層砂層	粘土土層 露出 (6B)	100				30	1~2mm砂粒少量混入	紅褐色	良好	土	
120	70		SK205c区	下層砂層	粘土土層 露出 (6C)	100				4.6	1~3mm砂粒少量混入	紅褐色	良好	埋没	
126	70		SK207a区	下層砂層	粘土土層 露出 (67)	100				4.6	1mm以下砂粒少量混入	紅褐色	良好	土	
126	70		SK207b区	下層砂層	粘土土層 露出	8.8				5.8	10mm以下砂粒少量混入	褐色	良好	埋没	
126	70		SK207c区	下層砂層	粘土土層 露出	8.8				7.8	埋没少量混入	褐色	良好	埋没	
127	70		SK208a区	上層	土層 露出	8.9				4.9	100以下砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
126	70		SK208b区	下層	土層 露出	100				6.3	100以下砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
130	70		SK208c区	下層	土層 露出	8.8				3.0	2.2 100以下砂粒少量混入	紅褐色	良好	埋没	
130	70		SK208d区	前遺構	土層 露出	6.6				3.1	2.6 100以下砂粒少量混入	灰白色	良好	埋没	
130	70		SK208e区	SK207a区(埋没)	土層 露出	9.0				3.6	1.9 砂粒少量混入	褐色	良好	埋没	
130	70		SK208f区	埋没	土層 露出	280				6.0	1~3mm砂粒少量混入	灰黄色	良好	土	
130	70		SK208g区	埋没	土層 露出	246				5.6	1~3mm砂粒少量混入	灰黄色	良好	土	
130	70		SK208h区	埋没	土層 露出	246				9.3	砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
130	70		SK208i区	埋没	土層 露出	246				6.6	砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
130	70		SK208j区	埋没	土層 露出	222				5.0	1~2mm砂粒少量混入	褐色	良好	土	
137	70		SK209a区	埋没	土層 露出	474				116	1~3mm砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
130	70	60	SK209b区	埋没	土層 露出	470				332	砂粒少量混入	黄褐色	不良	埋没	
130	70		SK209c区	下層	土層 露出	270				5.0	埋没	灰黄色	良好	土	
140	70		SK209d区	埋没	土層 露出	40				4.0	1~2mm砂粒少量混入	紅褐色	良好	埋没	
140	70		SK209e区	埋没	土層 露出	147				147	埋没少量混入	黄褐色	良好	埋没	
140	70		SK209f区	下層	土層 露出	154				5.9	砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
140	70		SK209g区	下層	土層 露出					7.0	砂粒少量混入	褐色	良好	埋没	
140	70		SK209h区	下層	土層 露出	110				5.9	砂粒少量混入	灰黄色	不良	土	
140	70		SK209i区	埋没	土層 露出	180				5.3	1~2mm砂粒少量混入	灰黄色	良好	土	
140	70		SK209j区	埋没	土層 露出	260				6.2	1~2mm砂粒少量混入	紅褐色	良好	土	
140	70		SK209k区	埋没	土層 露出	190				9.7	埋没	灰黄色	良好	土	
140	70		SK209l区	上層	土層 露出					100	埋没少量混入	黄褐色	不良	土	
140	70		SK209m区	埋没	土層 露出	170				119	砂粒少量混入	灰黄色	良好	土	
150	70		SK209n区	粘土土層 露出	露出	126				115	100以内砂粒少量混入	黄褐色	良好	埋没	
150	70		SK209o区	粘土土層 露出	埋没	100				107	1~2mm砂粒少量混入	黄褐色	良好	埋没	
150	70		SK209p区	粘土土層 露出	埋没	150				91	1~3mm砂粒少量混入	灰白色	良好	埋没	
150	70		SK209q区	粘土土層 露出	埋没	154				142	埋没少量混入	灰黄色	良好	土	
150	70		SK209r区	粘土土層 露出	埋没	150				1.6	埋没	灰黄色	良好	埋没	
150	70		SK209s区	下層	黄褐色土層 露出					5.5	砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
150	70		SK209t区	下層	粘土土層 露出					4.1	1~2mm砂粒少量混入	黄褐色	良好	土	
150	70		SK209u区	粘土土層 露出						7.3	2.6 1~3mm砂粒少量混入	紅褐色	良好	埋没	
150	70		SK209v区	粘土土層 露出						108	1~2mm砂粒少量混入	黄褐色	良好	土	
150	70		SK209w区	粘土土層 露出						8.6	埋没	褐色	良	土	
150	70		SK209x区	埋没	粘土土層 露出	200				100	100以下砂粒少量混入	灰黄色	良好	土	
150	70		SK209y区	R1	粘土土層 露出	164				181	100以下砂粒少量混入	灰黄色	良好	土	
150	70		SK209z区	下層砂層	粘土土層 露出	192				7.0	埋没	灰黄色	良好	土	
150	70		SK209aa区	埋没	粘土土層 露出					9.7	100以下砂粒少量混入	灰白色	良好	埋没	
150	70		SK209ab区	埋没	粘土土層 露出	220				5.0	埋没	紅褐色	良好	土	
150	70		SK209ac区	埋没	粘土土層 露出					132	埋没	紅褐色	良好	埋没	
150	70		SK209ad区	埋没	粘土土層 露出					5.7	埋没	褐色	良	土	
150	70		SK209ae区	埋没	粘土土層 露出					7.9	100以下砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
150	70		SK209af区	埋没	粘土土層 露出					4.7	埋没	灰白色	良好	埋没	
150	70		SK209ag区	埋没	粘土土層 露出					3.0	埋没	紅褐色	良好	土	
150	70		SK209ah区	埋没	粘土土層 露出					3.2	100以下砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
170	70		SK209ai区	埋没	黄褐色土層 露出	154				7.0	埋没	紅褐色	良好	土	
170	70		SK209aj区	埋没	黄褐色土層 露出					3.0	埋没	紅褐色	良好	埋没	
170	70		SK209ak区	埋没	黄褐色土層 露出					4.7	100以下砂粒少量混入	灰黄色	良好	埋没	
170	70		SK209al区	上層	粘土土層 露出					2.3	100以下砂粒少量混入	黄褐色	良好	埋没	

項目番号	PL	出土地名	出土位置・層位	器種・形状	数量(単位:個) (1) 最大・最小・標準			出土	色 調	状況	保存状況	備 考	
					最大	標準	最小						
176	80	SK1360	1区	粘土土器-壺	(16.7)		4.1	1m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/7		
176	80	SK1360	1-2区	粘土土器-壺	(40.4)		8.2	1-3m砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/8		
177	80	SK1360	下層砂層	手摺土器-鉢	(11.0)		3.0	砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1/7		
178	80	SK1360	1区	土器-壺	(31.4)		6.6	1m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1/13		
179	80	SK1360	1区	粘土土器-高坏		標準器 (4.5)	14.1	0.5-2m砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1-17 DM1-17B		
180	80	SK1360	1区	下層砂層	粘土土器-壺		7.55	1m以下砂粒少量混入	褐色	良好	DM1/4		
181	80	SK1360	1区	粘土土器-壺	(30.7)		5.75	3m以下砂粒少量混入	灰白色	良好	DM1/5		
182	80	SK1360	1区	下層砂層	粘土土器-壺	(11.6)		5.7	3m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1/7	
183	80	SK1360	1区	粘土土器-壺	(21.4)		8.1	3m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1/8		
184	80	SK1360	1区	粘土土器-壺	(47.5)		23.3	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1-10 DM1-10B	焼出物付着	
185	80	SK1360	1区	粘土土器-壺		(6.6)	4.35	3m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1/4		
186	80	SK1360	1区	粘土土器-高坏	(34.0)		5.7	精製	灰褐色	良好	DM1/13		
187	80	SK1360	1区	粘土土器-高坏	14.4		14.95	1-4m砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1欠損		
188	80	SK1360	1区	粘土土器-鉢	(35.4)		7.9	3m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1/8		
189	80	SK1367	1区	粘土土器-壺			4.9	3m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	1/10		
190	80	SK1367	1区	粘土土器-壺	(31.0)		13.2	1m以下砂粒少量混入	黒褐色	良好	DM1/8		
191	80	SK1367	1区	粘土土器-壺	(35.3)		7.3	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/6		
192	80	SK1367	1区	粘土土器-高坏	(14.6)	最大 23.8	7.5	精製	特製陶-灰褐色	良好	DM1/9		
193	80	SK1367	1区	粘土土器-高坏	(39.3)		4.5	精製	灰褐色	良好	DM1/14		
194	80	SK1367	1区	粘土土器-鉢	(18.8)		5.6	3m以下砂粒混入	褐色	良好	DM1/5	内面黒色付	
195	80	SK1367	1区	粘土土器-壺	(16.3)	(13.6)	12.9	1m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1-10 DM1-10B		
196	80	SK1367	1区	粘土土器-鉢	(35.4)		6.5	1m以下砂粒混入	灰褐色	良好	DM1/9		
197	80	SK1367	1区	粘土土器-鉢	(14.8)		3.4	3m以下砂粒混入	灰褐色	良好	DM1/13		
198	80	SK1367	1区	粘土土器-高坏		標準器 (5.1)	14.4	3m砂粒多量混入	特製陶-灰褐色	良好	DM1-10 DM1-10B		
199	80	SK1367	1区	粘土土器-高坏	7.25	7.4	7.4	1-3m砂粒多量混入	特製陶-灰褐色	普通	DM1		
200	80	SK1311	1区	粘土土器-壺			3.9	4m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1		
201	80	SK1314	1区	粘土土器-壺		標準器 (27.2)	3.5	3m以下砂粒混入	褐色	良好	DM1/12		
202	80	SK1314	1区	粘土土器-高坏		標準器 (18.2)	4.9	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/9		
203	80	SK1314	1区	粘土土器-高坏		標準器 (35.0)	17.9	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1-10 DM1-10B		
204	80	SK1370	1区	粘土土器-壺	(12.7)		4.7	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/7		
205	80	SK1370	1区	粘土土器-壺	(19.4)		5.6	1m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1/4		
206	80	SK1370	1区	粘土土器-高坏		標準器 (3.1)	7.7	1m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1-10 DM1-10B		
207	80	SK1370	1区	粘土土器-鉢	(36.0)		5.0	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/7		
208	80	SK1370	1区	粘土土器-鉢			15.7	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1-10 DM1-10B		
209	80	SK1370	1区	粘土土器-小型丸底鉢		最大 1.3	5.3	砂粒多量混入	灰褐色	良好	1/4		
210	80	SK1370	1区	粘土土器-壺	(7.4)		0.9	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/4		
211	80	SK1370	1区	粘土土器-壺	(18.2)		15.6	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/6		
212	80	SK1370	1区	粘土土器-壺	(22.4)		8.5	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/8		
213	80	SK1370	1区	粘土土器-壺	(38.0)		3.7	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/4		
214	80	SK1370	1区	粘土土器-壺	(38.2)		15.6	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/4		
215	80	SK1370	1区	粘土土器-壺		標準器 (3.1)	2.3	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/4		
216	80	SK1370	1区	粘土土器-高坏	12.5		15.5	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1		
217	80	SK1370	1区	粘土土器-内瓶	3.5	3.5	3.5	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1	土器片利用	
218	80	SK1370	1区	粘土土器-壺	(12.0)		11.0	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1		
219	80	SK1370	1区	粘土土器-壺			6.7	1m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1		
220	80	SK1370	1区	粘土土器-壺			11.5	1-3m砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/4		
221	80	SK1370	1区	粘土土器-高坏	(18.0)		6.7	1m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/4		
222	80	SK1370	1区	粘土土器-高坏		標準器 (4.4)	13.2	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/4		
223	80	SK1377	1区	土器-壺			12.2	細砂少量混入	灰褐色	良好	DM1/6		
224	80	SK1377	1区	土器-壺	(35.2)		7.5	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1/4-1 DM1/4-1B		
225	80	SK1380	1区	粘土土器-壺			20.1	砂粒多量混入	灰褐色	良好	DM1		
226	80	SK1380	1区	粘土土器-高坏	8.3	(11.0)	17.6	1-3m砂粒多量混入	灰褐色	良好	1/3		
227	80	SK1388	1区	灰褐色土器-壺			4.0	1-3m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	DM1		
228	80	SK1388	1区	灰褐色土器-壺			3.3	精製	灰褐色	普通	DM1		

報告番号	F/E	F/L	出土遺構	出土位置・層位	調査・図形	土量(単位:m ³) (1) 土量元・残存			出土	色 調	供試	採取状況	備 考	
						計量 土量	残存 土量	残存 土量						
129	90		SK0106		弥生文土器-環				2.8	4m以下砂粒多量混入	灰~褐色	普通	計片	
130	90		SK0106		弥生文土器-環				2.2	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	計片	
131	90		SK0109		弥生土器-壺	(11.0)			6.7	3m以下砂粒多量混入	灰黄褐~黄灰色	良好	計片一部破 1/3	
132	90	H	SK0109		1~2F土器-群	7.2		2.2	4.4	3m以下砂粒多量混入	灰~黄~黄灰色	良好	計片2枚	
133	90	H	SK0104		弥生土器-壺				4.4	残片	灰褐色	良好	計片	
134	90		SK0104		弥生文土器-環				5.1	3m以下砂粒少量混入	灰褐色	良好	計片	
135	90	H	SK0104		弥生土器-壺	(10.0)			8.7 (22.5)	残片	黄灰~黄褐色	良	計片	既述に類土器の群文 を調査し、表上層に
136	90		SK0119	上層	土器群-壺				2.2	残片	褐色	良好	計片	
137	90	H	SK0119	上海~河 4C上層	土器群-壺				3.4	残片	灰~褐色	良好	計片	
138	90		SK0119 3C	下層	土器群-壺	(8.4)	(8.3)		5.0	1m以下砂粒少量混入	灰~黄~灰褐色	良好	計片一部破 1/3	
139	90		SK0119	~C+3	土器群-壺		(15.0)		7.5	3m以下砂粒少量混入	灰~褐色	良好	計片一部破 計	
140	90	H	SK0119 3C	下層	土器群-壺	(8.3)	10.9		11.7	3m以下砂粒多量混入	灰~黄~黄褐色	良好	計片一部破 計/2文片	
141	90		SK0119 3E	下層	弥生土器-壺	(21.0)			2.4	1m以下砂粒多量混入	灰~褐色	良好	計片計	
142	90		SK0119 3E	下層	弥生土器-壺	(30.0)			7.8	3m以下砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	計片1/6	
143	90		SK0119 3E	下層	弥生土器-壺	(12.0)			4.8	残片	灰黄褐色	良好	計片	
144	90		SK0119 3E	上層	弥生土器-壺				10.8	3m以下砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	計片1/6	
145	90	H	SK0119 3E	下層	弥生土器-壺	(21.1)			11.0	1m以下砂粒少量混入	黄褐色	良好	計片一部破 1/3	
146	90		SK0119 3E	上層	弥生土器-壺	(8.4)			6.5	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	計片1/12	
147	90		SK0119	上海	土器群-高坏	(8.4)			4.1	残片	黄褐色	良好	計片	
148	90		SK0119 3E	下層	土器群-高坏			計量(17.7 ~17.9)	(2.0)	残片	灰~黄褐色	普通	計片計	
149	90		SK0119 3E	下層	弥生土器-壺	(28.8)			5.5	3m以下砂粒多量混入	灰白色	良好	計片一部破 1/7	
150	90		SK0119 3E	上層	弥生土器-高坏				10.8	3m以下砂粒多量混入	灰~黄褐色	良好	計片	
151	90		SK0119 3E	下層+下層	弥生土器-高坏			計量(17.6)	4.7	3m以下砂粒少量混入	灰~黄褐色~黄褐色	良好	計片1/4	内形部9~L10前
152	91		SK0119 3E	下層	弥生土器-壺	(8.4)			2.5	3m以下砂粒多量混入	灰褐色	普通	1/5	
153	91		SK0119 3E	上層	弥生土器-壺	(12.6)			4.6	残片	灰~褐色	普通	1/8	
154	91		SK0119 3E	下層	弥生土器-壺	(15.4)			4.8	残片	灰~褐色	普通	1/8	
155	91		SK0119 3E	下層	弥生土器-壺	(26.0)			6.5	砂粒混入	暗黄褐色	良好	計片1/2	
156	91		SK0119 3E	上層	弥生土器-壺				2.7	残片	灰~黄褐色	良好	計片	
157	91		SK0119 3E	上層	弥生土器-壺	受検済 (12.6)			3.5	3m以下砂粒多量混入	灰黄色	良好	1/9	
158	91		SK0119 3E	土器群	弥生土器-壺台			計量(13.1)	14.7	3m以下砂粒多量混入	灰~黄~黄灰色	良好	計片1/4	
159	91		SK0119 3E	下層	弥生土器-大甕	受検済 8.1		計量(12.1)	1.9	残片	黄灰色	良好	計片	内形: 穴孔A-B
160	91		SK0119 3E	下層	弥生土器-大甕	受検済 11.6		計量(4.2 ~4.5)	14.1	砂粒多量混入	灰褐色	良好	計片	内形: 穴孔A-B
161	91		SK0124		弥生土器-壺	(34.5)					-	良好	計片1/4	計片は表層中角、他角 2枚
162	91	H	SK0125		弥生土器-壺	(25.0)			16.8	3m以下砂粒多量混入	赤褐色	良好	計片1/4	
163	91		SK0125	R 2	弥生土器-壺			8.0	8.0	1m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	計片	
164	90		SK0127 3E		弥生土器-壺	5.8			2.8	残片	黄褐色	良好	計片1/6	
165	90		SK0129 3E		弥生文土器-壺				4.8	3m以下砂粒混入	黄褐色	良好	計片	
166	90		SK0127 3E		弥生文土器-群				4.1	残片	黄褐色	良好	計片一部破 計	
167	90		SK0127 3E		弥生文土器-群				2.2	残片	黄褐色	良好	計片一部破 計	
168	90		SK0127	~C+3	弥生文土器-群				2.7	残片	灰黄褐色	良好	計片	
169	90	H	SK0131	~C+3	弥生文土器-壺	(18.0)			11.8	3m以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	計片1/9	
170	90		SK0131		弥生文土器-壺	(28.2)			10.8	5m以下砂粒多量混入	灰黄褐色	良	計片1/4	
171	90		SK0131		弥生文土器-壺		(6.5)		5.1	3m以下砂粒多量混入	灰~褐色	良好	計片1/2	高台
172	90		SK0131		弥生文土器-壺			7.7	2.9	3m以下砂粒混入	灰~褐色	普通	計片1/2	
173	90		SK0134		弥生土器-壺	(14.0)			12.7	残片	灰黄褐色	良好	1/4	
174	90		SK0181 4E		弥生土器-壺	(14.0)			5.0	3m以下砂粒多量混入	黄灰黄~黄褐色	良好	計片1/9	
175	90		SK0181	5号 ~C+3	弥生土器-壺	(27.2)			5.5	3m以下砂粒多量混入	黄灰~黄褐色	良好	計片1/15	
176	90		SK0181 4E		弥生土器-壺				12.9	3m以下砂粒多量混入	灰~黄~黄褐色	良好	計片計	奥及3cm
177	90		SK0181 4E		弥生土器-壺		(10.0)		7.1	3m以下砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	計片一部破 1/3	
178	90		SK0181	~C+3	弥生土器-壺		(9.0)		2.1	3m以下砂粒多量混入	灰~褐色	良	計片1/5	
179	90		SK0181 4E		弥生土器-壺				4.7	残片	黄褐色	良好	計片一部破 計	
180	90		SK0183		弥生土器-高坏	(38.2)			5.6	残片	黄褐色	良好	計片1/15	
181	90	H	SK0184		弥生土器-高坏	(14.2)			11.8	1m以下砂粒多量混入	赤褐色	良好	1/2	
182	90		SK0187 3E	(SK0187と中央 部同)	弥生土器-壺	(8.2)			8.5	3m以下砂粒混入	灰白~灰~黄褐色	良好	計片1/2	

項目番号	PL	PL	出土層種	出土位置・層位	調査・形状	数量(単位:個/100g)			出土	色	質	供試	保存状況	備考
						片断	破片	破片						
382	30		SD4187 30C		粘土土器-壺			5.8	精良	褐色	良好	図録1/6		
384	30		SD4187 30C		粘土土器-壺			4.4	3mm以下砂粒混入	灰褐色	良好	図録1/6		
395	30		SD4187		粘土土器-壺	(18.0)		2.5	6mm以下砂粒混入	灰+黄褐色	良好	図録1/12		
386	30		SD4187 30C		粘土土器-壺		2.6	(2.0)	3mm以下砂粒多量混入	灰黄褐色、黄色	良好	図録1/6		
387	30		SD4187 1-10C	上層(50cm)	粘土土器-壺		4.7	2.9	精良	灰+褐色	良好	図録一頁欠		
388	30		SD4240		粘土土器-壺	(18.0)		8.8	砂粒多量混入	淡黄褐色~赤褐色で土	良好	1/4		
389	30		SD4178 30C		粘土土器-壺	(18.0)		5.2	1mm以内砂粒多量混入	灰褐色	良好	図録1/6		
390	30		SD4178 30C		粘土土器-壺		5.0	5.3	1~3mm砂粒多量混入	赤褐色で土灰褐色	良好	図録		
391	30		SD4178 30C		粘土土器-壺	(36.0)		12.0	砂粒多量混入	少し赤味帯びた灰褐色	良好	図録一頁欠 1/40		
392	30		SD4178 30C		粘土土器-壺	(40.0)		11.2	砂粒多量混入	黄褐色	良好	図録一頁欠 1/5		
393	30		SD4178 30C		粘土土器-壺?			1.7	砂粒多量混入	暗~黄褐色	良好	図録1/7	褐色	
394	30		SD4178 30C	(SD4178 1.0本層位)	粘土土器-高坏	(36.0)		6.3	精良	淡灰黄褐色	良好	1/3		
395	30	35	SD4178 30C	+SK1212 30C、SK1213 30C本層位	粘土土器-高坏	(36.0)		10.0	精良	淡+黄褐色~赤褐色で土灰褐色	良好	1/2~1/3		
396	30		SD4178 30C		粘土土器-钵	(18.0)		7.5	1~3mm砂粒多量混入	灰+赤褐色	良好	図録1/3		
397	30		SD4178 30C		土器群	(15.0)		5.4	細砂少量混入	淡黄褐色	良好	図録1/6		
398	30		SD4178 30C		粘土土器-钵	(36.0)		6.0	砂粒多量混入	赤褐色で土黄褐色	良好	1/6		
399	30		SD4178 30C		粘土土器-钵	(12.0)		7.7	砂粒多量混入	赤褐色で土黄褐色	良好	図録一頁欠 1/6		
390	30		SD4178 30C		粘土土器-鉢台			12.8	砂粒多量混入	灰褐色~淡灰褐色	良好	図録1/3		
301	30		SD4178 30C		灰褐色土器-壺			6.1	砂粒多量混入	暗灰黄褐色	良好	図録1/6		
302	30		SD4178 30C		灰褐色土器-壺			4.8	砂粒多量混入	赤褐色で土灰褐色	良好	図録1/6		
303	30	35	SD4178 30C	家来瓦土器-筒瓦残片			(8.0)	2.5	精良	灰褐色	良好	図録1/5		
304	34		SK1156	土器群	粘土土器-壺	(36.0)		8.9	砂粒多量混入	黄褐色~暗灰黄褐色	良好	図録1/6		
305	34		SK1156	土器群	粘土土器-壺	(36.0)		8.0	細砂多量混入	灰黄褐色	不良	図録1/4		
306	34	35	SK1156	土器群	粘土土器-壺	(15.0)		22.7	細砂多量混入	淡+黄褐色	良好	図録1/3		
307	34		SK1156	土器群	土器群	(36.0)		4.0	砂粒多量混入	赤褐色~灰~淡+黄褐色	良好	図録1/6	筒状高坏	
308	34		SK1156	土器群	粘土土器-壺?	(18.0)		9.0	細砂少量混入	淡灰褐色	良好	図録1/6	黄褐色の破片も?	
309	34	35	SK1156	土器群	粘土土器-鉢台	(18.0)		15.0	1~3mm砂粒多量混入	淡+黄褐色	良好	図録1/4		
310	34	30	SK1156	土器群	粘土土器-鉢台	(18.0)		12.7	砂粒多量混入	淡+褐色	不良	今中欠 1/6		
311	34	35	SK1156	土器群	粘土土器-鉢台	(18.0)		11.8	砂粒多量混入	黄褐色~中灰色	良好	図録1/3		
312	34		SK1156	土器群	粘土土器-壺			6.0	細砂少量混入	赤褐色で土灰黄褐色	良好	写真部も?		
313	34	30	SK1156	土器群	土製品・瓦	最大 5.0		最大 5.0	最大 1.0	3mm以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	写真あり	
314	36	35	SK1186	土器群	土器群	最大 8.7		最大 12.2	最大 3.0	精良	淡+黄褐色	良好	2/10	
315	36	35	SK1186	土器群	土器群	(11.0)		9.1	精良	褐色	普通	図録1/6	図録1/6	
316	36	35	SK1186	土器群	土器群	(8.0)		11.8	3mm以下砂粒混入	灰褐色	良好	1/2		
317	36		SK1186	土器群	土器群	(14.0)		4.0	精良	灰+褐色	良好	図録1/6	図上還元	
318	36	35	SK1186	土器群	土器群	(18.0)		10.7	3mm以下砂粒混入	灰+褐色	良好	図録一頁欠 1/4		
319	36	35	SK1186	土器群	土器群	(10.0)		(10.0)	1~3mm細砂多量混入	灰+黄褐色	良好	図録一頁欠 1/3~1/4		
320	36	35	SK1186	土器群	土器群	39.2		7.5	27.2~ 7.5	3mm以下砂粒多量混入	灰+褐色	良好	1/20	
321	36	35	SK1186	土器群	土器群	21.0		7.7	劣質 12.0	1~3mm細砂多量混入	黄~灰~褐色	普通	図上還元	
322	36	35	SK1186	土器群	土器群	(18.0)	21.0	13.4	1mm以内細砂混入	灰黄褐色	良好	図録一頁欠 1/3		
323	36	35	SK1186	土器群	土器群	(17.0)		24.2	1mm以内砂粒混入	灰黄褐色	良好	1/3		
324	36	35	SK1186	土器群	土器群	最大 23.3		25.0	劣質 20.0	1~3mm細砂多量混入	灰+黄褐色	良好	図録1/6	図上還元
325	36	35	SK1186	土器群	土器群	(36.0)		30.0	3mm以下砂粒混入	灰+黄褐色	良好	図録1/6		
326	36	35	SK1186	土器群	土器群	(17.0)		17.2	精良	暗灰黄褐色	良好	図録1/6	図録1/6 10mm以下 27mm(最大)	
327	36	35	SK1186	土器群	土器群	最大 8.0		7.5	精良	褐色	良好	4/5		
328	36	35	SK1186	土器群	土器群	最大 18.5		7.1	3mm以下砂粒多量混入	灰白色	良	図録1/6	図録1/6	
329	36	35	SK1186	土器群	土器群	(11.0)	21.0	17.8	1mm以下砂粒少量混入	灰+黄褐色~黄褐色	良好	図録1/6		
330	36	35	SK1186	土器群	土器群	最大 21.0		18.0~ 20.0	最大 10.0	1~3mm細砂多量混入	灰黄褐色	良好	図録1/6	図録1/6 最大 10mm以下 27mm(最大)
331	36	37	SK1186	土器群	土器群	(18.0)		最大 10.0	最大 10.0	1~3mm細砂多量混入	灰黄褐色	良好	図録1/2	
332	36	35	SK1186	土器群	土器群	劣質 10.0		17.2	最大 10.0	3mm以下砂粒多量混入	灰褐色~灰+褐色	良好	図録1/6	
333	36	35	SK1186	土器群	土器群	最大 11.2		13.0	3mm以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	1/4		
334	36	35	SK1186	土器群	土器群	最大 13.4		13.4	最大 10.0	3mm以下砂粒混入	灰+黄褐色	良好	1/6	
335	36	35	SK1186	土器群	土器群	最大 16.0		20	最大 10.0	3mm以下砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	1/3	
336	36	35	SK1186	土器群	土器群	最大 14.0		14.4	最大 10.0	3mm以下砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	1/2	

発掘番号	P/E	P/L	出土遺構	出土位置・層位	調査・撮影	土質(単位:cm ³) 10g試料(概率)			土質	色	調	供試	採取状況	備考
						粒径 10-20	粒径 20-60	粒径 60-200						
327	99	47	SX1106	土層面0	1-2m ² 土層・ 遺		最大 8.5	(3.6)	3m以下砂状混入	灰黄褐色	良好	部露/5層		
328	99	47	SX1106	土層面1上層	1-2m ² 土層・ 遺	(7.3)		8.7	精査	灰・黄褐色	良好	1/9		
329	99	47	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面		最大 11.0	7.6	3m以下砂状多量混入	灰黄褐色	良好	1/2		
330	99	47	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	(16.4)		9.3	2m以下砂状混入	灰黄褐色	良好	1/9		
341	99	47	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	(13.0)		15.3	1m以下砂状少量混入	灰・黄褐色	良好	1/9層		
342	99	47	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	11.0		10.9	3m以下砂状多量混入	灰黄褐色~灰褐色	良好	上半部露		
343	99	47	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	10.6		15.9	1~3m以下砂状混入	灰黄褐色	良好	部露/2		
344	99	47	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面	11.1		12.1	1~3m以下砂状少量混入	灰黄褐色	良好	1層~1部露		
345	99	47	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	(13.0)		2.5 (15.4)	1m以下砂状混入	灰黄褐色	良好	1/9		
346	99	47	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面	(14.1)		11.3	3m以下砂状混入	灰・黄褐色	良好	1/2		
347	99	47	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面		最大 15.0	17.1	3m以下砂状多量混入	灰黄褐色	良好	部露~1部露		
348	99	47	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面	18.3		13.8	1~3m以下砂状多量混入	灰色	良好	1層~1部露 (内露灰褐色)		
349	99	47	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面	(16.4)	24.5	7.0	25.0	1m以下砂状少量混入	灰黄褐色	良好	1層~1部露 口部・ 底・ 内露	
359	100	47	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	(24.7)		20.1	3m以下砂状多量混入	黒褐色	良好	1層~1部露		
351	100	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	16.1	27.0	9.5	20.3	1m以下砂状少量混入	灰・黄褐色	良好	1層/2	
352	100	48	SX1106	土層面1	1-2m ² 土層・ 遺	(8.3)		3.0	4.1	3m以下砂状混入	灰黄褐色	良好	1/2	
353	100	48	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面	18.3		3.8	5.8	精査	良好	1/9		
354	100	48	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面			概算 11.0	6.1	5m以下砂状多量混入	灰・褐色	良好	部露	
355	100	48	SX1106	土層面1面台	埋没遺構	12.0		8.6	6m以下砂状多量混入	灰・黄褐色	良好	1層/5		
356	100	48	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面台	(18.4)		14.3	1~3m以下砂状多量混入	灰黄褐色	良好	1層/2層・ 1層/2層		
357	100	50	SX1106	土層面1	土層面・埋没土層 遺	(4.5)		(4.7)	1m以下砂状多量混入	暗灰黄褐色	良好	上半/1/2		
358	101	48	SX1106	土層面1下層	土層面・遺	(8.3)		(8.3)	3m以下砂状混入	灰・黄褐色	良好	部露/2層		
359	101	48	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面	(11.9)		最大 15.0	砂状少量混入	暗~灰褐色	良好	1/2		
360	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	(18.2)	(17.4)	17.1	精査	灰黄褐色	良好	1/2		
361	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	(15.0)		4.7	10.5	3m以下砂状多量混入	灰褐色	非常	1層・1部露	
362	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	33.4		4.0	8.6	精査	良好	1層/1部露 (1層/1部露)		
363	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	38.8		12.1	3m以下砂状混入	灰・黄褐色	良好	1層/2		
364	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	38.4		(11.0)	2~6m以下砂状多量混入	黄褐色	良好	部露/2層		
365	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	38.4		17.8	精査	灰黄褐色	良好	1層/2層	部露1/2・ 部露1/2	
366	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	38.4		18.3	精査	灰黄褐色	良好	部露/2	1層/部露	
367	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面			14.9		灰黄褐色	良好	部露		
368	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	埋没遺構 8.1		概算 11.0	6.1~10.1	3m以下砂状多量混入	灰・黄褐色	良好	1層/2	
369	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	埋没遺構 4.5		概算 11.8	8.1~10.1	3m以下砂状多量混入	灰褐色	良好	1層/2	
370	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	(6.3)		(7.5)	精査	暗灰~黒褐色	良好	部露/4		
371	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	16.6		11.3	1m以下砂状混入	灰黄~褐色	良好	上半/1/2		
372	101	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面	(14.5)		11.3	3m以下砂状多量混入	暗灰黄褐色	良好	上半/1/2	内露・1層	
373	101	48	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面	(25.5)	(36.6)	6.7	20.9	1~3m以下砂状少量混入	灰・暗~暗・褐色	良好	1層/2	
374	101	48	SX1106	土層面1下層	粘土土層・面	(17.1)		8.0	3m以下砂状多量混入	灰・黄褐色	良好	1/2		
375	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	15.0		7.3	3.5	1m以下砂状混入	灰褐色	良好	1層/2	
376	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	(19.0)		5.0	11.6	5m以下砂状混入	灰黄褐色	良好	上半/1層 部露~1層	
377	101	48	SX1106	土層面1上層	粘土土層・面	埋没遺構 (6.3)		概算 (13.3)	(10.5)	3m以下砂状混入	灰褐色	良好	1/2	部露から下層の面に 対し3m以下の孔あり
378	101	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面		最大 (13.0)	(3.6)	精査	灰褐色	良好	部露/2		
379	101	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面		最大 74.8	3.0	(10.6)	砂状混入	暗黄褐色	良好	部露全層	
380	101	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面	(11.7)		27.4	3m以下砂状多量混入	灰・暗~暗・褐色	良好	1/4		
381	101	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面	(8.7)		概算 (20.3)	2~5m以下砂状少量混入	暗黄褐色	良好	1層~1部露 1層/2下層 1/2	部露/2層	
382	101	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面	54.5		30.3 20.2	3m以下砂状混入	灰黄褐色~灰白色	良好	1/2層		
383	101	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面	36.8		6.0	3m以下砂状混入	灰・褐色	良好	1層/2		
384	101	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面	(17.2)		概算 (15.7)	精査	灰黄褐色	良好	1/2		
385	101	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面			概算 11.5	9.7	1m以下砂状混入	灰・黄褐色	良好	1層/2	
390	102	48	SX1106	土層面1	粘土土層・面	埋没遺構 30.4		20.0	20.9	3m以下砂状多量混入	灰・暗~暗褐色	良好	1層/2	
397	104		SX1106	土層面1	粘土土層・面	(22.0)			2~5m以下砂状多量混入	イリゾー質	良好	1層/2		
398	104	50	SX1106	粘土土層・面	38.0		最大 50.0	25.2	1~3m以下砂状少量混入	灰・黄褐色	非常	1層~1部露		
399	104	50	SX1106	粘土土層・面	(24.0)		6.7	27.4	1m以下砂状少量混入	灰・暗~黒褐色	良好	部露/4		
398	111		SX1175	河原土土層・面			概算(11.0)		砂状少量混入	暗灰~暗褐色	良好	1層/2	部露から下層の面に 対し3m以下の孔あり	

報告番号	F1c	F1L	出土層階	出土位置・方位	器種・形状	数量(単位:個)			出土	色 澤	状況	保存状況	備 考	
						口縁以上	口縁-底	底面						
391	111	90	SK1075		突帯文土器-甕	18.1		14.4	砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁1/4		
392	111	90	SK1075		突帯文土器-甕			9.3	砂粒多量混入	褐色	良好	口縁部分		
393	111		SK1079		粘土土器-甕?	(18.0)		7.9	精微	薄い灰褐色	良好	口縁1/3		
394	111	90	SK1084		突帯文土器-甕	(22.0)		23.0	1~3mm砂粒多量混入	茶褐色	良好	上半部	片断あり	
395	111		SK1084		突帯文土器-甕			4.3	細砂少量混入	薄い褐色	良好	口縁部分		
396	111	90	SK1085		1~2cm以上土器		3.3	5.0	精微	茶褐色	良好	口縁部	口縁以上へつらなる F1c-Ⅱ出土	
397	111	90	SK1085		突帯文土器-甕	(24.0)		20.7	1~3mm砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	口縁-胴部		
398	111		SK1085		突帯文土器-甕			4.0	砂粒多量混入	薄い黄褐色	良好	口縁部分		
399	111		SK1085		突帯文土器-甕			5.0	細砂少量混入	赤褐色を帯びた黄褐色	良好	口縁部分	底に粉状物着	
400	112		SK1112		粘土土器-甕			8.5	1mm以下砂粒少量混入	暗赤褐色-鈍い褐色	良好	口縁1/3		
401	112	90	SK1112		粘土土器-甕	(29.0)		7.0	20.1	1mm以下砂粒少量混入	暗赤褐色	良好	口縁-胴部	
402	112		SK1112		粘土土器-甕			7.9	1~3mm砂粒多量混入	灰褐色-黄褐色	良好	口縁1/4		
403	112		SK1112		粘土土器-甕	(22.0)		5.7	3mm以内の砂粒多量混入	鈍い褐色、暗灰色	良好	口縁-胴部	1/8	
404	112		SK1112		粘土土器-甕台?			9.3	3mm以内の砂粒少量混入	鈍い褐色	良好	口縁1/4		
405	112		SK1112		粘土土器-甕台			13.7	1mm以内の砂粒少量混入	鈍い褐色-鈍い赤褐色	良好	口縁1/4		
406	112		SK1112		粘土土器-甕台			5.4	0.5~2mm砂粒少量混入	鈍い褐色	良好	口縁1/3		
407	112		SK1112		粘土土器-甕	(19.0)		9.1	砂粒多量混入	灰色帯びた黄褐色	良好	口縁1/6		
408	112	90	SK1129		粘土土器-甕		8.0	15.9	砂粒混入	黄褐色-赤色、灰色	不斉	口縁-底部		
409	112	90	SK1147		粘土土器-甕	(2.0)		20.2	砂粒少量混入	暗褐色-黄褐色	良好	口縁-胴部	片断あり	
410	112	90	SK1147		粘土土器-甕	(22.0)		20.0	砂粒多量混入	暗赤灰黄褐色	良好	口縁部欠損		
411	112	90	SK1204		粘土土器-甕	18.8		45.5	1~3mm砂粒多量混入	灰褐色	良好	口縁-胴部		
412	112		SK1247		粘土土器-甕	(15.0)		7.0	1mm以内の砂粒多量混入	暗い褐色	良好	口縁1/2		
413	112		SK1247	東側土層	粘土土器-甕	(18.0)		2.05	精微	鈍い褐色	良好	口縁1/5		
414	112	90	SK1247		粘土土器-甕	(18.0)		12.3	砂粒少量混入	褐色	良好	口縁1/4		
415	112		SK1247		粘土土器-甕	(16.0)		15.5	砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁1/4		
416	114	90	SK1247		粘土土器-甕	(24.0)		12.8	砂粒多量混入	暗い赤褐色	良好	口縁-胴部	1/2	
417	114	90	SK1247		粘土土器-甕	(25.0)		11.8	1~3mm砂粒多量混入	暗い暗褐色-黄褐色	良好	口縁1/2部		
418	114	90	SK1247		粘土土器-甕	(25.0)		25.3	1~3mm砂粒多量混入	黄褐色-赤褐色-暗灰色	良好	口縁1/2		
419	114		SK1247		粘土土器-甕	(7.0)		1.9	細砂多量混入	灰褐色	良好	口縁1/3		
420	114		SK1247	東側土層	粘土土器-甕	(20.0)		5.4	精微	鈍い褐色	良好	口縁1/12		
421	114	90	SK1247		粘土土器-甕	(25.0)		9.7	1~3mm砂粒多量混入	黄い暗褐色	良好	口縁1/2-胴部		
422	114		SK1247		粘土土器-甕	(18.0)		2.7	1mm以下砂粒少量混入	灰黄褐色	良好	口縁-胴部	1/12	
423	114	90	SK1247 Ⅱ区	西側	粘土土器-甕	(18.1)		6.1	3mm以下砂粒少量混入	鈍い褐色-鈍い褐色	良好	口縁-胴部	口縁以上へつらなる F1c-Ⅱ出土	
424	114	91	SK1150		粘土土器-甕	8.4		16.1	1~3mm砂粒多量混入	鈍い褐色	良好	口縁-胴部	胴部欠損?	
425	114	91	SK1150		粘土土器-甕	14.5		14.5	1~3mm砂粒多量混入	鈍い黄褐色	良好	口縁完全	口縁-胴部約1/2	
426	114		SK1150		粘土土器-甕			8.7	1~3mm砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	口縁1/6		
427	114		SK1150		土器鉢-甕台跡?	(24.0)		9.6	1mm以内の砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁-胴部	1/8	
428	114		SK1150		粘土土器-甕		(5.0)	4.6	砂粒多量混入	暗い赤褐色	良好	口縁1/3		
429	114		SK1150		粘土土器-甕			9	細砂混入	薄い灰褐色	良好	口縁1/2		
430	114	91	SK1150		粘土土器-甕		4.3	4.8	砂粒多量混入	暗い暗褐色	良好	口縁部		
431	114	91	SK1150		粘土土器-甕台	(12.0)		13.5	細砂多量混入	灰色帯びた黄褐色	良好	口縁部欠損		
432	115		SK1154		粘土土器-甕			3.2	3mm以下砂粒多量混入	褐色	良好	口縁部破片		
433	115		SK1155		突帯文土器-甕			2.5	3mm以下砂粒多量混入	黄褐色-鈍い黄褐色	良好	口縁部		
434	115		SK1155		突帯文土器-甕			2.5	1mm以下砂粒多量混入	暗い褐色	良好	口縁部		
435	115		SK1155		粘土土器-甕	(14.0)		2.1	2mm以下砂粒多量混入	鈍い黄褐色-黄褐色	良好	口縁1/8		
436	115	91	SK1157		粘土土器-甕	(25.0)		8.2	1~3mm砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁1/4		
437	115		SK1157	東側	粘土土器-甕	(24.0)		4.05	1mm以下砂粒少量混入	鈍い褐色	良好	口縁1/12		
438	115		SK1157	東側	粘土土器-甕	(15.0)		5.5	1mm以下砂粒少量混入	暗赤褐色-鈍い褐色	良好	口縁-胴部	1/8	
439	115		SK1157	東側	粘土土器-甕	(18.0)		2.7	3mm以下砂粒少量混入	暗赤褐色	良好	口縁1/4部	口縁部破片あり	
440	115		SK1157	東側	粘土土器-甕		(8.0)	5.55	0.5~5mm砂粒少量混入	暗い黄褐色	良好	口縁1/4		
441	115		SK1157	東側	粘土土器-甕			2.8	3mm以下砂粒中多量混入	鈍い褐色	良好	→8.6番		
442	115		SK1157	東側	粘土土器-甕				砂粒多量混入	暗赤褐色	良好	口縁1/8	片断あり、口縁完全	
443	115		SK1159	西側下層	土器鉢-甕	(24.0)		11.4	砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁1/8		
444	115	91	SK1159	西側下層	粘土土器-甕	(26.0)		11.7	1mm以内の砂粒多量混入	暗褐色-褐色	良好	口縁1/2部		

標記番号	F号	R	出土遺構	出土位置・層位	遺構・形状	遺量 単位 (ml)				貯土	色 調	塊状	保存状況	備 考	
						口徑	高さ	厚さ	底面積						
440	11.6		SK109	東側	弥生土層 遺			(60)	1.9	1~3mm粒砂多量混入	黄~灰黄褐色	良好	遺跡 A		
441	11.6		SK160		弥生土層 溝跡				2.4	雑質	灰色~赤褐色	良好	遺跡 B		
442	11.6		SK162		弥生土層 溝				2.7	砂粒多量混入	褐色	良好	遺跡 B		
443	11.6		SK162-2区		弥生土層 溝跡				7.9	雑質	暗褐色	良	段取(小)・孔状		
444	11.6		SK163-1区		弥生土層 溝				2.9	砂粒多量混入	黄~褐色	良好	口縁部片	片取の多?	
445	11.6		SK163		弥生土層 溝	106			8.4	砂粒多量混入	赤褐色~土黄褐色	不良	片		
446	11.6		SK164		弥生土層 溝				3.9	砂粒少量混入	暗赤褐色	良好	口縁部片		
447	11.6		SK173	△6.7	弥生土層 溝				3.6	細砂少量混入	暗褐色	良好	口縁部片		
448	11.6	Ⅱ	SK177		弥生土層 溝	344			100	1~2mm粒砂多量混入	赤褐色~黄褐色	良好	口縁 A		
449	11.6		SK171	SK177と接合	弥生土層 溝				1.06	砂粒多量混入	黄~褐色	良好	段取片		
450	11.7		SK185		弥生土層 溝	90			1.14	1mm以下砂粒多量混入	暗褐色	良好	口縁一部欠損	片取らずに付着した付着土	
451	11.7		SK185	土層△6.1 下層	弥生土層 溝	232			3.6	1mm以下砂粒多量混入	黄~黄~褐色	良好	口縁 A/B		
452	11.7		SK185-2区	上層	土層溝 溝				3.8	1mm以下砂粒混入	黄~褐色	良好	遺跡		
453	11.7		SK190		弥生土層 溝				3.6	1mm以下砂粒多量混入	黄~褐色	良好	口縁 片		
454	11.7		SK190		弥生土層 溝				3.8	1mm以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	段取片		
455	11.7		SK190		弥生土層 溝				2.6	1mm以下砂粒混入	黄~黄~黄褐色	良好	段取片		
456	11.7		SK190		弥生土層 溝跡				3.0	1.5mm以下砂粒混入	黄~黄~黄~褐色	良好	付着片等		
457	11.8	Ⅱ	SK215		弥生土層 溝	190			1.26	砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	口縁一部欠損	段取片付着	
458	11.8		SK215-1区	北西土層△6.3	弥生土層 溝				6.2	砂粒少量混入	灰色	良好	口縁部片		
459	11.8		SK215-1区	北西土層△6.3	弥生土層 溝				4.9	砂粒多量混入	—	良好	口縁部片	弥生土層の灰褐色土層に付着	
460	11.8		SK215-1区	北西土層△6.3	弥生土層 溝				7.2	砂粒多量混入	灰褐色	良好	段取片		
461	11.8		SK215-1区	北西土層△6.3	弥生土層 溝				7.4	1mm内外砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	段取片		
462	11.8	Ⅱ	SK215-1区	北西土層△6.3	弥生土層 高坪	346			8.9	1~2mm粒砂多量混入	暗黄~黄褐色	良好	片		
463	11.8	Ⅱ	SK215-2区	南西土層△6.3	弥生土層 溝	220			190	1mm内外砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁 B	片取らずに付着	
464	11.8	Ⅱ	SK215-1区	土層△6.1 北西	弥生土層 溝	210			100	砂粒多量混入	黄褐色	良好	口縁 片	段取片付着	
465	11.8		SK215-2区	土層△6.1 南西	弥生土層 溝				3.2	1mm以下砂粒混入	—	良好	口縁部片		
466	11.8	Ⅱ	SK215-1区	土層△6.1 北西	弥生土層 溝				3.8	砂粒多量混入	灰褐色	良好	口縁部片		
467	11.8	Ⅱ	SK215-1区	土層△6.1 北西	弥生土層 溝				2.2	砂粒多量混入	灰褐色	良好	口縁部片		
468	11.8	Ⅱ	SK215-2区	土層△6.1 南西	弥生土層 溝				2.3	砂粒混入	褐色	良好	口縁部片		
469	11.8		SK215-2区	東側	弥生土層 高坪	203			3.9	砂粒多量混入	暗黄~黄褐色	不良	口縁 片		
470	11.8		SK164		弥生土層 溝				4.3	砂粒少量混入	褐色	良好	口縁部片		
471	11.8	Ⅱ	SK176		土製品 ヌツ	9.3			1.0	雑質	暗灰褐色	良好	灰等		
472	11.8	Ⅱ	SK184		土製品 板等	最大4.0			最大2.0	雑質	黄~黄褐色	良好	片等		
473	121		SK190		弥生土層 溝				20	—	—	良好	段取片	段A・段B等付着	
474	121		SK190		弥生土層 溝				2.7	砂粒多量混入	赤褐色~黄褐色	良好	段取片		
475	121		SK190		弥生土層 溝				2.7	1mm内外砂粒多量混入	灰黄~黄色	良好	段取片		
476	121		SK110-11区		弥生土層 溝	222			9.5	1~2mm粒砂多量混入	黄褐色	良好	口縁 片		
477	121		SK116		弥生土層 高坪	115			6.4	1mm内外砂粒多量混入	赤褐色~黄褐色	良好	口縁 片		
478	121		SK117		弥生土層 高坪	183			2.9	1mm内外砂粒多量混入	段取~暗褐色	良好	口縁 片		
479	121		SK122		弥生土層 高坪				(70)	砂粒多量混入	灰褐色	良好	段取片等		
480	121		SK123		弥生土層 高坪	220			4.8	1mm内外砂粒混入	暗褐色	良好	口縁 片		
481	121		SK123		弥生土層 高坪?				6.2	砂粒混入	黄~黄褐色	良好	段取片等		
482	121	Ⅱ	SK124		土群跡 溝	8.8			1.12	1mm以下砂粒混入	灰色~黄褐色	良好	口縁一部欠損	段取部厚1cm	
483	121		SK124		土群跡 高坪				2.8	1mm砂粒多量混入	灰色~赤褐色	良好	片取らずの付着片		
484	121		SK124		土群跡 溝	132			2.5	1mm以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	片		
485	121		SK125		弥生土層 溝跡				5.1	1mm以下砂粒多量混入	灰褐色	良好	段取片		
486	121		SK126		弥生土層 溝跡				3.9	1mm以下砂粒多量混入	黄褐色	良好	段取片		
487	121		SK131		弥生土層 溝				(7.8)	1mm以下砂粒多量混入	灰色~褐色	普通	段取 片		
488	121		SK129		弥生土層 溝				11.1	1mm以下砂粒多量混入	灰色~赤褐色	良好	段取 片		
489	121		SK127		弥生土層 溝				(60)	2.7	1mm以下砂粒多量混入	灰色~黄褐色	良好	段取 片	
490	121		SK128		弥生土層 溝				2.0	1mm以下砂粒多量混入	灰色~黄褐色	良好	口縁 片	片取らずの付着片	
491	121		SK122		弥生土層 溝	340			3.9	1mm以下砂粒多量混入	灰色~褐色	良好	口縁 片		
492	121		SK122		弥生土層 溝				(8.6)	3.7	1mm以下砂粒多量混入	黄~黄~黄褐色	良好	口縁 A/B	
493	121		SK122		弥生土層 溝				(8.5)	5.2	1mm以下砂粒多量混入	灰色~黄褐色~黄褐色	良好	段取 片	

報告番号	F1c	F1L	出土遺構	出土位置・層位	副産品・形状	遺量(単位:cm ³)			出土	色	質地	発祥状況	備考	
						最大寸法	容積	重量						
499	123		SK134E		土製品-マシ	最大4.3	最大1.9	最大1.8	精曲	灰白色	良好	約?枚		
500	124		SP9		粘土土器-薬	(31.4)			砂粒混入	灰白・黄緑~灰黄褐色	良好	1個L/10		
501	124	91	SP9		灰黄文土器-薬	(35.0)		14.4	3cm以下砂粒混入	灰黄褐色	良好	1個L/4		
502	124		SP45		粘土土器-薬			13.8	4cm以下砂粒混入	灰黄褐色	良好	ほぼ全欠		
503	124		SP78		粘土土器-薬	(32.0)		5.6	3cm以下砂粒混入	灰黄褐色	良	1個L/6	内内1片欠??	
504	124		SP120		灰黄文土器-薬? 餅?		7.6	2.1	3cm以下砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	ほぼ1/10		
505	124		SP147		粘土土器-薬			2.8	3cm以下砂粒多量混入	暗灰黄色	良	1個L/10		
506	124		SP156		灰黄文土器-薬		7.2	2.5	3cm以下砂粒多量混入	暗灰色	良好	ほぼ全欠		
507	124	91	SP207		灰黄文土器-薬	(12.0)		5.8	粘土質砂粒混入	暗灰黄色	良	1個L/6, 1個L/5	袋1還元	
508	124		SP230		灰黄文土器-薬		3.0		1cm以下砂粒混入	黄~灰黄褐色	普通	1個L/10		
509	124		SP261		粘土土器-薬			6.5	1cm以下砂粒混入	暗灰色	良好	ほぼ1/2		
510	124		SP276		灰黄文土器-薬		8.0	3.1	3cm以下砂粒多量混入	暗色	良好	ほぼ		
511	124		SP284		灰黄文土器-薬		(7.0)	3.9	3cm以下砂粒多量混入	灰白・黄褐色	良好	ほぼ1/2		
512	124		SP290		粘土土器-薬			2.2	3cm以下砂粒少量混入	灰黄褐色	良好	古形良好		
513	124		SB1413 (SP290)		粘土土器-薬	(19.8)		4.3	1cm以下砂粒多量混入	暗灰色	良好	1個L/12		
514	124		SB1413 (SP290)		粘土土器-薬			4.8	3cm以下砂粒混入	黄褐色	良好	餅?		
515	124		SP430		粘土土器-薬	(36.0)		5.6	精曲	灰褐色	良好	1個L/10		
516	124		SP460		粘土土器-薬	(38.4)		3.6	3cm以下砂粒多量混入	暗灰色	普通	1個L/5		
517	125	90	SP485		粘土土器-薬			29.4	3cm以下砂粒多量混入	黄~灰黄褐色	良好	1/5, 9		
518	124		SP546		粘土土器-薬	(18.0)	2.5	2.2	精曲	暗赤褐色	良好	2/9	片欠り	
519	125		SP552		粘土土器-薬	39.0		5.3	3cm以下砂粒混入	灰白・黄褐色	良好	1個L/12		
520	124		SP557		粘土土器-薬	(24.0)		4.5	3cm以下砂粒混入	灰白・黄褐色	良好	1個L/5		
521	125		SP560		粘土土器-薬		6.0	3.1	3cm以下砂粒多量混入	灰白・暗色	良好	ほぼ全欠		
522	125		SP566		灰黄文土器-薬			6.2	3cm以下砂粒混入	灰黄褐色	良	1個L/10		
523	125	90	SB1404 (SP560)		粘土土器-餅		最大12.2	4.7	3cm以下砂粒多量混入	灰白・黄褐色	普通	1個L/5欠片		
524	125		SP590		粘土土器-薬			5.4	3.9	1cm以下砂粒多量混入	灰白・黄褐色, 黄色	良	ほぼ1/2	
525	125		SP593		粘土土器-薬			3.8	1~3cm以下砂粒多量混入	灰黄褐色	普通	ほぼ1/9		
526	125	90	SP24		1~3cm以下砂粒多量混入? 餅?	8.0			3cm以下砂粒多量混入	灰白~灰黄褐色	良好	1個L/2		
527	125		SP468		粘土土器-薬	(13.4)		4.1	1cm以下砂粒少量混入	灰黄褐色	良好	1個L/5	片欠り	
528	125		SP474		粘土土器-薬		4.0	12.8	5cm以下砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	ほぼ1/5		
529	125		SP760		粘土土器-薬	(36.0)		8.8	3cm以下砂粒混入	黄色	良好	1個L/6		
530	125		SP760		粘土土器-薬	(32.0)		6.6	3cm以下砂粒混入	灰白・暗色	良好	1個L/7		
531	125		SP761		粘土土器-薬			5.6	4cm以下砂粒混入	灰白・暗色	良好	約一割欠1/2		
532	125		SP719		灰黄文土器-薬	18.6		4.5	3cm以下砂粒多量混入	灰白・黄褐色	良	1個L/9		
533	125		SP719		粘土土器-餅	(18.4)		6.3	精曲	灰黄褐色	良好	1個L/6	片欠り	
534	125	91	SP114		土製品-粘漆器	4.9	8.0		1~3cm砂粒多量混入	灰白・黄褐色	普通	黄緑あり		
535	125	81	SB1250 (SP125)		土製品-粘漆器	6.2	6.0	最大1.8	1~3cm砂粒多量混入	灰白・黄褐色	良好	完好		
536	125		SP207		土製品-不明土製品	6.2		2.1	精曲	暗灰黄色	良好	1/2割		
537	129		SK1160 (用山遺構)		灰黄文土器-薬			4.6	砂粒多量混入	暗褐色	良好	1個L/10		
538	129		SK1160 (用山遺構)		粘土土器-薬	18.0		5.7	砂粒多量混入	黄~灰黄褐色	良好	1個L/4		
539	129	90	第10号遺構	I-30区	1~3cm以下砂粒			3.8	精曲	灰褐色	良好	ほぼ全欠		
540	129		第10号遺構 SK1140	土層部-灰	土層部-灰			5.5	精曲	暗色	良好	1/4		
541	129		第10号遺構 SK1140-102	土層部-灰	土層部-灰			3.7	精曲	暗色	良好	ほぼ		
542	129	90	第10号遺構	I-130区上層	粘土土器-薬			6.0	12.8	3cm以下砂粒多量混入	灰白・黄褐色	良好	ほぼ1/2割	
543	129	90	第10号遺構	I-130区上層	粘土土器-薬	13.05		5.6	15.9	0.5~3cm砂粒多量混入	灰黄褐~黄褐色	良好	1個L-約1.5~1.0cm	
544	129	90	第10号遺構	I-130区上層	粘土土器-薬		最大21.7	(8.0)	21.8	1~5cm砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	1個L-約1.5cm	
545	129	90	第10号遺構	I-130区上層	粘土土器-餅	(18.8)		6.4	7.8	3cm以下砂粒多量混入	灰白・黄褐色	普通	4/5	
546	129		第10号遺構	I-130区上層	粘土土器-灰	4.1		5.3	3cm以下砂粒多量混入	黄褐色	良	ほぼ全欠		
547	129	90	第10号遺構	H-172区	粘土土器-薬	4.0		12.8	3cm以下砂粒混入	灰白・暗色	良好	3/4		
548	129		第10号遺構	西縁溝等	粘土土器-薬	(31.6)		6.3	精曲	灰白・暗色	良好	1/5		
549	129	90	第10号遺構	D-71区	粘土土器-薬	(14.0)		2.1	精曲	灰褐色	良	2/8		
550	129	90	第10号遺構	I-130区	土製品-漆器	最大4.3	最大2.6	最大2.8	精曲	暗色	良好	完好		
551	129		第10号遺構	H-20区	土製品-漆??	1.3		1.1	0.9	砂粒少量混入	灰黄色	普通	完好	直径約4cmの孔

石器・石製品・ガラス製品・金属製品観察表

番号	F/c	P/c	出土場所	出土位置・部位	形態・形状	規格(単位:cm)			材質	色澤	備考
						長さ	幅・高さ	厚・孔径			
51	76	03	5D018-4区	下層階上層	扁平円形石片	3.2	(3.1)	(1.1)	粘板岩?石片?	緑褐色	
52	76	03	5D018-6区	最下層	石片?	(5.5)	(3.7)	0.8	灰泥岩	暗緑褐色	1/20倍
53	76	03	5D018-9区	最下層	石片?	(5.7)	(3.8)	0.6	頁岩	暗緑褐色	1/20倍
54	76	03	5D018-11区		石片	最大3.0	最大3.9		粘板岩	暗緑褐色	縁部に灰色が少く入る
55	76	03	5D112-1区		石片?	15.3	4.8	0.76	粘板岩(粘板岩片キルト) フェリス	暗緑褐色	数個してない小片がある
56	76	03	5D112-1区	最下層階	石片	(1.5)	最大3.4	1.4	粘板岩	灰色	
57	76	03	5D112-2区	下層	石片	4.4	最大4.7	最大2.3	砂岩	灰色	
58	76	03	5D112-3区		粘板岩片?石片?	11.2	最大3.5	最大2.3	大塊片?	緑オリーブ色	塊状個体が多く見られる
59	76	03	5D112-3区	(5D018下)	石片	(1.1)	最大4.7	最大2.3	砂岩	黄褐色	
510	71	03	5D111-2区	下層	石片?	(6.7)	(4.6)	0.8	粘板岩	灰色	1/20倍
511	71	08	5D111		磨石片	(10.5)	最大10.5	3.3	玄武岩	灰白色	
512	71	08	5D111		磨石?	8.2	最大8.6	3.1	頁岩?粘板岩?	灰色	石片状個体
513	71	08	5D111	下層	石片		3.75	1.36	石灰岩	灰色	重さ:11.6g
514	71	09	5D128		石片?	(3.1)	3.2	最大2.3	粘板岩	灰オリーブ褐色	
515	71	09	5D128		石片?	(7.6)	3.35	0.55	粘板岩	暗緑褐色	
516	71	09	5D128		石片	(3.8)	最大3.9	最大1.9	大塊片?	灰色	
517	76	03	5D121-2区	最下層階土庫込	石片	最大4.1	最大4.4	最大2.3	粘板岩片?石片?	灰褐色	
518	76	03	5D122-4区		石片	2.85	1.6	0.2	黒輝石	黄色	
519	105	04	5X116	土器群D	スチレイバー	4.1	3.7	0.9	玄武岩?砂岩	灰褐色	重さ:15.1g
520	105	04	5X116	土器群D	磨石	4.9	最大4.7	最大2.3	大塊片?	灰白色	
521	105	04	5X116	土器群D	磨石?石片?	最大2.9	最大3.3	最大1.9	大塊片	灰色	
522	105	04	5X116	土器群C	石片	(10.1)	最大10.8	7.0	砂岩	灰色	縁部に目が悪い
523	105	04	5X116	土器群D	石片?	8.35	最大10.5	2.19	粘板岩	灰色	
524	105	04	5X116	土器群D	石片	3.8	最大1.4	最大1.8	黒輝石	黄色	白化した層人物が少入っている
525	105	04	5X116	土器群D	石片	2.2	最大1.5	最大1.3	黒輝石	黄色	
526	105	04	5X116	土器群D	打撃石	11.55	最大3.0	最大1.8	砂岩片?粘板岩?	緑褐色?灰色?を帯びる	
527	105	04	5X122	土器群D	石片	1.83	1.55	0.36	黒輝石	黄色	重さ:1.07g
528	105	04	5X121	土器群D	石片	0.30	最大2.0	最大1.4	黒輝石	不明個体や粘板岩 粒状個体	
529	119	04	5B141(5D012)	打撃石	石片	7.9	3.9	1.1	砂岩	灰オリーブ色	
530	119	04	5B140(5D012)	石片	最大1.8	最大1.5	最大0.5	黒輝石	黄色	全体に不透だが、先端が少し透れ方があり、縁部は透れ部。	
531	119	04	5B140	スチレイバー	最大2.5	2.14	0.89	黒輝石	黄色		
532	119	04	5B147	石片	(11.1)	(8.2)	13.0	粘板岩	灰色	縁部が赤く、裏に赤みだっている	
533	119	04	5B147	石片	最大2.5	1.9	1.9	粘板岩	暗褐色		
534	119	04	5B146	石片?	(7.4)	最大3.2	最大1.5	粘板岩	暗緑褐色	表面に磨痕あり、縁部に粘板岩片が少く入る	
535	127	04	5P42	石片?	(3.8)	最大4.3	最大1.0	石片	灰色/暗灰色		
536	127	04	5P41	石片?	(3.5)	3.3	最大2.3	粘板岩?石片?	オリーブ褐色		
537	127	04	5P40	石片	4.7	4.3	2.3	玄武岩	灰褐色		
538	171	05	5B140(5D012)	1-4区	石片?	(3.4)	最大4.0	最大0.75	粘板岩	暗緑褐色	表面磨痕として、先端が欠けているが縁部の粘板岩片が少く入る。
539	127	04	5P40(5D012)	1-4区上層	石片?	(3.8)	最大3.7	最大0.5	粘板岩	暗緑褐色	かなり使用により磨痕が深くなっている
540	130	01	5B140(5D012)	土器	石片	2.4	1.95	0.45	黒輝石	黄色	磨痕の痕跡が少く入っている
541	130	01	5B140(5D012)	土器	石片	最大2.7	最大2.2	最大1.8	黒輝石	黄色	先端の縁部が若干欠け
542	130	01	5B140(5D012)	土器	石片	最大2.4	最大2.0	最大1.3	粘板岩	黄色	先端1/3以上は磨痕が深く下方は無い
543	130	01	5B140(5D012)	土器	石片	最大2.4	最大1.4	最大1.3	黒輝石	不透明黄色	先端の縁部が若干欠け
544	130	01	5B140(5D012)	土器	石片	最大2.3	1.8	最大1.3	黒輝石	黄色	打撃石欠損
545	119	04	5B1137	ベルト上層	ガラス小玉	2.4	0.2	0.15	ガラス	スライム色	
546	119	04	5B1137	ベルト下層	ガラス小玉	0.5	0.11	0.15	ガラス	緑褐色	
547	119	04	5B1140		ガラス小玉	0.4	0.10	0.10	ガラス	緑褐色	
548	119	04	5B142(5B1137)		ガラス小玉	0.2	0.1	0.15	ガラス	緑褐色	孔は小さくほとんど見えない
549	119	04	5B142(5B1137)		ガラス小玉	0.89	0.30	0.3	ガラス	緑褐色	酸化が多少入っている
550	119	04	5B1140-1	ベルト	ガラス小玉	0.1	0.11	0.2	ガラス	暗褐色	縁部は縁部をもち
551	119	04	5B1113	ベルト上層	ガラス小玉	0.2	0.15	0.15	ガラス	暗褐色	縁部は縁部をもち
552	130	01	5P128		ガラス小玉	0.3	0.11	0.1	ガラス	コンクリート色	
553	130	01	5P128		ガラス小玉	0.45	0.3	0.2	ガラス	緑褐色	
554	130	01	5P128		ガラス小玉	0.5	0.1	0.2	ガラス	暗褐色	
555	71	03	5D1210	磨石	最大3.5	最大2.9	最大2.3	灰	—	縁部が部分的に磨かれているが、裏面は	
556	71	03	5D1211	磨石	4.0	最大1.3	最大1.4	灰	—	縁部の磨痕は無い、表面の磨痕は若干ある	

木器観察表

種目番号	F種	P.L.	出仕簿簿	出仕位置 単位	群体 形状	成量 単位 cm				ホ 取 り	群 種	備 考・ 所 見
						径(中心) 寸法	幹 高 寸法	根 径	その他			
W6	08	05	S0K4E(S0K1)	柱	柱	5(478)	150	100		芯持ち	クスノキ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W6	08	05	S0K4E(S0K1)	礎石	礎石	142	197	9.6		横目	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W6	08	05	S0K4E(S0K2)	礎石	礎石	3-48	190	8.1		横目	スタジイ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W6	08	05	S0K4E(S0K5)	柱	柱	5(513)	119	9.0		割材	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W6	08	05	S0K4E(S0K3)	礎石	礎石	3-20	177	8.3		横目	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W6	08	05	S0K4E(S0K5)	礎石	礎石	5-04	201	7.4		横目	スタジイ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W7	08	05	S0K4E(S0K0)	礎石	礎石	4-20	197	8.1		横目	スタジイ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W6	08	05	S0K0E(S0K)	礎石	礎石	4-80	218	8.6		横目	ゼシャノク	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W6	08	05	S0K0E(S0K)	礎石	礎石	4-00	147	12.5		横目	スタジイ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.0	08	07	S0K0C(S0K0)	柱	柱	1(177)	126	108		芯持ち	スタジイ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.1	08	07	S0K0C(S0K0)	礎石	礎石	3-00	261	7.8		横目	スタジイ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.2	08	07	S0K0E(S0P1)	礎石	礎石	3-37	140	10.0		横目	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.3	08	07	S0K0E(S0P1)	礎石	礎石	3-67	202	4.2		横目	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.4	08	07	S0K0E(S0P3)	礎石	礎石	2-48	8.8	4.3		横目 割材	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.5	08	07	S0K0E(S0P4)	礎石	礎石	3-00	9.2	6.3		横目 割材	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.6	08	07	S0K0E(S0K5)	礎石	礎石	3-78	101	8.8		横目 割材	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.7	08	07	S0K0E(S0P7)	柱	柱	5(308)	100	9.8		芯持ち	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.8	08	07	S0K0E(S0P7)	礎石	礎石	4-28	9.0	8.3		横目 割材	クワ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.9	08	08	S0K0E(S0K)	礎石	礎石	5(200)	114	6.4		横目	ヤサ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.0	08	08	S0K0E(S0K)	礎石	礎石	5(841)	110	8.3		横目	ヤサ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.1	08	08	S0K0E(S0K0)	柱	柱	5(197)	281	208		芯持ち	ケノキ系	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.2	08	08	S0K4C(S0P0)	柱	柱	5(368)	146	138		芯持ち	ワカキ系	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.3	08	08	S0K4C(S0K0)	礎石	礎石	5(447)	131	130		芯持ち	アブツキ系	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.4	08	08	S0K4C(S0K0)	礎石	礎石	2-09	140	6.5		横目	アブツキ系	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.5	08	08	S0K4C(S0K3)	柱	柱	5(420)	157	144		芯持ち	オスノキ科	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.6	08	08	S0K4C(S0K4)	礎石	礎石	5(336)	146	100		芯持ち	ツバクジイ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.7	08	08	S0K4C(S0K5)	礎石	礎石	2-07	9.0	8.0		横目	エノキ系	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.8	08	08	S0K4C(S0K5)	礎石	礎石	2-04	9.1	4.8		横目	エノキ系	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.9	08	08	S0K4C(S0P0)	柱	柱	5(314)	134	131		芯持ち	ワカキ系	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.0	08	08	S0K4C(S0K0)	礎石	礎石	3-39	9.4	4.9		横目	ヒセ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.1	08	08	S0K4C(S0K0)	礎石	礎石	3-31	106	4.9		横目	ヒセ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。
W4.2	08	08	S0K4C(S0K0)	礎石	礎石	3-00	100	7.4		横目	ヒセ	根節のみ残存。根節の上も根節の根が露出。根節の根が露出している。根節の根が露出している。根節の根が露出している。

製品 番号	Flg	P.L.	仕上仕様	仕上位置・部位	仕様・形状	造鉢(単位:mm)			3/4規格 その他	次 取 り	備 考	備 考・特 注
						高さ×口 径×取付 径	高さ× 取付 径	厚さ× 取付 径				
W33	60	30	SR0411(SF301)		横板	21.8	23.8	9.0		戻目	コナラ属コナラ造鉢 スギ軸	先ず、造鉢の中心位置に付いている、造鉢には厚さ約15mm程度の中心位置に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W34	60	180	SR0413(SF750)		柱	(27.3)	23.4	20.1		芯持ち	カヤ	造鉢の中心位置、造鉢の中心位置に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W35	60	30	SR0414(SF300)		横板?	36.8	6.9	2.7		戻目	ツブラジイ	花がはよ取れ、そのために、表面は裏面、横板の中心位置に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W36	60	30	SR0415(SR01141)		柱	(66.3)	23.8	23.2		芯持ち	ツブラジイ	造鉢の中心位置、造鉢の中心位置に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W37	71	30	SR018 10C		竹子状木製品	(21.4)	5.9	1.4		戻目	ナリ	
W38	71	30	SR018 10C		農耕具(鋤部分)	(3.2)	(3.4)	1.5		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	
W39	71	30	SR018 10C		不明木製品(板状木製品)	40.2	6.1	2.0		戻目	スギ	
W40	71	30	SR018 10C		不明木製品	21.9	(3.3)	0.7		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	
W41	71	30	SR018 10C		不明木製品(板状木製品)	(27.4)	(6.0)	1.8		戻目	ヤナギ	
W42	71	30	SR018 10C	西洋庭園中〜下層	不明木製品	(27.2)	(5.4)	1.4		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	
W43	71	30	SR018 10C		板	(25.2)	5.9	4.9		芯持ち	アブラマツ	
W44	71	30	SR018 10C		柱(脚輪脚輪?)	66.7	5.8	2.5		芯持ち	広葉樹(銀杉材)	
W45	71	30	SR018 10C		板	(20.4)	3.8	2.8		芯持ち	シキミ	
W46	71	180	SR018 10C		建築部材	(19.2)	6.8	4.8		芯持ち	スグノキ	
W47	79	180	SR019 30C		農耕具?	(30.2)	(7.2)	1.1		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	
W48	79	180	SR0210		農耕具?	(28.2)	(6.4)	0.9		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	
W49	79	180	SR0210 30C		不明木製品(板状木製品)	(29.2)	9.8	1.9		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	
W50	84	180	SK1185		不明木製品	(25.1)	4.8	0.6		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	
W51	84	180	SK1185 10C			(34.2)	12.8	6.5		戻目	ムナシキ	
W52	84	180	SK1190		農耕具	49.2	28.8	1.1	農具加工 取付径	戻目	造鉢コナラ属アカガシ造鉢(脚輪) 1.3×4.7cm	
W53	84	180	SK1190		板	(27.4)	11.2	10.2		芯持ち	コナラ属コナラ造鉢 スギ軸	先ず、
W54	84	180	SK1190		不明木製品	27.1	26.7	2.9		芯持ち	カヤ	
W55	84	180	SK1190		建築部材	238.4	6.4	4.0		芯持ち	コナラ属コナラ造鉢 スギ軸	先ず、
W56	84	180	SK1170		板	52.8	6.8	8.1		芯持ち	コナラ属コナラ造鉢 スギ軸	
W57	115	180	SK1150		組合せ取手	22.5	6.7	3.4		戻目	ナリ	取手等の取手?
W58	120	180	SK1147		不明木製品(板状木製品)	27.8	2.9	2.1		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	表面硬化
W59	120	180	SK1147		棒	27.0	17.9	6.4		戻目	ツバキ属	
W60	120	180	SK1147		不明木製品(板状木製品)	(42.2)	6.1	6.8		芯持ち	カマツカ	
W61	120	180	SK1164 30C		不明木製品	(17.4)	5.8	1.8		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	
W62	120	180	SK1164 30C		不明木製品	36.2	5.2	1.6		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	
W63	126	180	SP87		横板	41.8	12.8	7.8		芯持ち	ナシノキ	先ず、造鉢は板状の、自然乾燥、表面は裏面に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W64	126	180	SP43		横板	(25.4)	(7.7)	2.3		戻目	ホハブ	先ず、造鉢は板状の、自然乾燥、表面は裏面に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W65	126	180	SP407		横板	26.1	11.8	3.7		戻目	ナリ	造鉢、造鉢は板状の、自然乾燥、表面は裏面に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W66	126	180	SP407		横板	28.9	(12.3)	2.6		戻目	ナリ	造鉢は丁取で大きな取付加工、表面は裏面に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W67	126	180	SP491		横板	25.1	18.1	10.1		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	造鉢、造鉢は板状の、自然乾燥、表面は裏面に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W68	126	180	SP590		横板	22.8	15.7	6.4		戻目	コナラ属アカガシ造鉢	先ず、造鉢は板状の、自然乾燥、表面は裏面に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W69	126	30	SP725		柱	(26.4)	12.7	12.0		芯持ち	コナラ属アカガシ造鉢	造鉢の中心位置、造鉢の中心位置に付いた、造鉢の取付加工後、表面を磨き直す。スギ軸は大きな
W70	126	180	SP729		柱	(27.2)	13.4	11.4		芯持ち	クスノキ科	
W71	128		SK1186		板	(27.2)	3.3	3.2		芯持ち	コナラ属アカガシ造鉢	
W72	128		SK1147		板	(26.2)	2.8	2.0		芯持ち	クスノキ科	柱取付材
W73	128	180	異材質接合部		建築部材	(17.7)	7.2	4.6		戻目(脚輪)	ツブラジイ	

下月隈C遺跡

第9次調査

第IV章 はじめに

1. 調査に至る経過

本書は、空港周辺の洪水対策用として福岡市博多区月限4丁目7地内に計画された月限調節池建設事業に伴う調査で、事業計画地の第6年度（平成15年度調査、18年度整理）に実施した第9次調査の報告である。

調査・整理作業に当たっては九州地方整備局の皆様をはじめ、地元の皆様にご理解とご協力を得ました。この場を借りてお礼申し上げます。

2. 調査の組織

第9次調査の調査組織は以下のとおりである。

(1) 委託者

	運輸省第四港湾建設局博多港湾空港工事事務所		
	国土交通省九州地方整備局博多港湾空港工事事務所		
《平成6年度》	第四港湾建設局長 石田省三	博多港工事事務所長	鹿籠雅純
《平成15年度》	九州地方整備局長 岡山和生	博多港湾・空港整備事務所長	酒井洋一
《平成16年度》	九州地方整備局長 岡山和生	博多港湾・空港整備事務所長	元野一生
《平成17年度》	九州地方整備局長 宮田年耕	博多港湾・空港整備事務所長	元野一生
《平成18年度》	九州地方整備局長 小原恒平	博多港湾・空港整備事務所長	杉野浩茂

(2) 調査主体

	福岡市教育委員会		
《平成6年度》……試掘調査	教 育 長	尾 花 剛	
	文化財部長	後 藤 直	
	埋蔵文化財課長	折 尾 学	
事前審査	主任文化財主事	濱 石 哲 也	
試掘調査	文化財主事	長 家 伸	
経理担当	事務吏員	内 野 保 基	
《平成15年度》……発掘調査	教 育 長	生 田 征 生	
	文化財部長	堺 徹	
	埋蔵文化財課長	山 崎 純 男	
	調査第2係長	田 中 寿 夫	
調査担当	主任文化財主事	山 崎 龍 雄	
経理担当	文化財整備課	鈴 木 由 貴	

《平成18年度》……整理作業

	教 育 長	植 木 とみ子
	文 化 財 部 長	山 崎 純 男
	埋蔵文化財第1課長	山 口 譲 治
	調 査 係 長	山 崎 龍 雄
整理担当	調 査 係 長	山 崎 龍 雄
	主任文化財主事	荒 牧 宏 行
経理担当	文 化 財 管 理 課	鳥 越 由紀子

《調査指導》 佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所教授）、日野尚志（佐賀大学名誉教授）

《調査・整理協力者》

調査・整理補助 上方高弘、河野麻耶（慶応大学大学院）、境聡子、瀬戸啓治、藤野雅基、山口朱美、大賀順子、木藤直子、清永啓子、澤 玲子、西島奈美、平ノ内 武、平山景将、松尾信子、増永好美、宮坂 環、村上信子、持原良子、本村幸代

調査協力 井上一雄、井上利弘、井上英子、井上佳子、岩崎良隆、榎田信一、大賀 一、大橋由美子、岡部安正、小野千佳、甲斐康完、兼田ミヤ子、河野一一、北原由紀子、久保登喜子、黒瀬千鶴、小島キサエ、後藤タミ子、酒井次憲、坂本久幸、里崎直子、佐藤アイ子、真田弘二、高手與志子、武田潤子、田中茂孝、田上智雄、知花繁代、堤 正子、永田八重子、二宮白人、野口リュウ子、畠中千恵美、別府俊美、松永七朗、松葉祐輝、丸山勝江、安高邦晴、安高精一、山下嘉人

第V章 調査の記録

1. 調査の概要 (Fig.5)

第9次調査区は調節池建設予定地の南東隅、第8次調査区の南側に位置し、調査事務所があった部分(第1区)に、調節池建設予定地中央を南北に通る管理道路を横断する調節池の通水管部分の調査が新たに加わり、その部分を第2区、第3区として合わせて3地区の部分第9次調査として行った。

調査は第7・8次調査に準じて調査面の設定を行い実施した。ただ第1区地点は浅い谷部に位置し、谷を埋める堆積土が大きく2面に分離出来、下層上面で遺構が検出できたことから、この面を第Ⅲ面として、谷基盤面を第Ⅳ面として、合わせて4面の調査となった。各区の調査面積は第1区1,411㎡、第2区270㎡、第3区319㎡の合計2,000㎡である。

今回も全体の遺構図や写真撮影は時間的な都合からセスナ機による空中写真測量を写測エンジニアリング株式会社に委託して行った。

調査区の基準は第4次調査で設定した基準に準じて、申請地の長軸に沿って、東西南北10mの方眼を組み、東西は東からA～Z迄、南北は南から1～32区迄グリッドを設定し、10mグリッドの番号は右下隅の杭番号とした。

1) 調査日誌抄

第9次調査は平成15(2003)年4月1日に着手し、同年10月31日に終了した。

以下調査の経緯を述べる。

2003年

- | | | | |
|----|---|-----|--|
| 4月 | 今年度調査予定の事務所の移転、新事務所の建設準備。 | 9月 | 第1区第Ⅲ面の調査。
12日に台風来襲、18日第Ⅲ面全体写真撮影。補足実測と調査。
25日重機により第Ⅳ面検出作業。 |
| 5月 | 事務所の引越し、解体作業。新事務所の建設作業。 | 10月 | 第Ⅳ面遺構検出作業と掘り下げ作業。
17日第Ⅳ面空中写真撮影。
21～28日埋め戻し作業、調査終了。
29～31日 撤収作業。 |
| 6月 | 4日より重機による表土掘削作業。第1区～第3区と順次行う。
16日より人力による現場作業開始。
9日梅雨入り、雨の日が続くようになる。
19日台風6号が九州に接近、大風が吹く。 | | |
| 7月 | 各区第1面の調査。水田面の調査。
雨が多く作業は進まない。
10日空中写真測量を行う。その後実測作業と補足調査を行う。
15日3区第Ⅱ面掘削。
31日例年より10日以上遅い梅雨明け。 | | |
| 8月 | 6日に第3区第Ⅲ面全体写真撮影。7日台風接近のため、午前中第2区第Ⅱ面全体写真撮影を行う。
10日静岡大学佐藤洋一郎先生視察。
18日第3区調査終了。23日迄、県立高校の先生の職場研修。
21日第1区第Ⅱ面空中写真測量。SX1317の調査。 | | |



高校の先生の体験学習風景

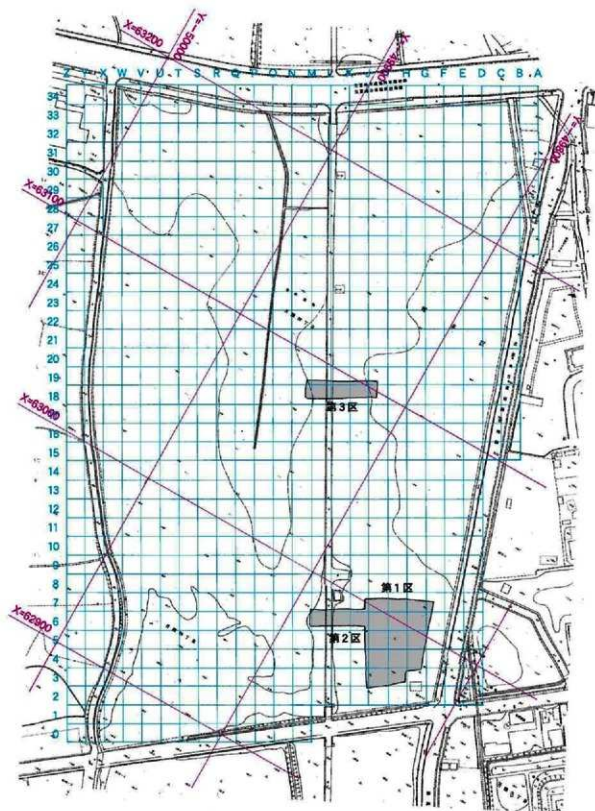


Fig.131 下月隈C遺跡調査区配置図 (1/2,000)

2. 第1区の調査

1) 第I面の調査 (Fig.131~133)

第1区の調査面積は1,411㎡である。第I面は地表-0.9~1.0m、標高(8.7~8.6m)である。第I面までの堆積土は0.5~0.8m厚のバラスや客土などの下に近代水田土があり、その下に粗砂や砂質シルトの薄い層が体積し、その下に畦を伴う灰オリブシルト面があり、その面を遺構面とした。検出した遺構は第8次調査区から続く水田とそれに伴う畦、流路である。電柱基礎などの攪乱もあり、水田面は余り残りは良くなく、畔や水田が明瞭に確認できたのは調査区北半のみであった。

2) 遺構と遺物

① 溝状遺構 (SD)

SD1302

調査区北東側、第8次調査区では確認出来ていないが、畦1の上面で検出した小溝。長さ2.8m、0.4m、深さ6~7cm程である。埋土は灰白色を呈す。

出土遺物 (Fig.135、PL.117) 白磁皿や土器細片が少量出土。

1は白磁皿1/8片で、復元口径12.4cmを測る。低い高台が付く形態と思われる。内外面乳白色の釉が薄くかかるが、口縁部は釉を掻き取る。13世紀前半~14世紀前後である。

② 水田遺構 (SS)

SS1301 (Fig.132、PL.103・104)

北側で検出した水田面で、第8次調査区南側で分岐して続く畔があり、東側の畦1はまた斜めに分岐する。西側の畦2は南西側に延び、I-7区杭あたりでまた2つに分岐する。水田面には洪水粗砂が覆うが余り厚くはない。水田面には足跡や切り株痕などが残っていた。畔2の分岐するあたりでは水口と思われる畔が途切れる部分がある。水田面は畔で5区画に分割したが、畔の残りが悪い為に面積など明確に出来ない。畔は地山削り出しではなく、盛り土で作られたものである。水の流れは水田⑤から③、③から④への流れである。

出土遺物 (Fig.135、PL.117) 水田埋土から古墳時代~中世の土師器や須恵器、中国産の白磁などが少量出土している。混入である近世以降の遺物もわずかに出土している。

2は白磁の皿細片である。輪花の型押し成形で薄く精緻な作り。全面に灰白色の薄い透明釉がかかる。3は瓦質土器の摺鉢の片口部細片。調整は内面ハケ目、外面ナデ、指押さである。4は古代の須恵器の坏細片。灰色を呈し、焼成は良い。

③ その他 (SX)・遺構面出土遺物

SX1304出土遺物 (Fig.135、PL.117)

北側調査区進入口で出土したものの。5は青磁碗口縁部1/8片で、復元口径16cm前後を測る。口縁部は短く外折する形態である。表面にはくすんだオリブ灰釉がかかる。胎土・焼成は良好。

SX1306出土遺物 (Fig.135)

試掘トレンチから出土した遺物である。6は小型の高坏脚部片。表面は摩滅し、調整不明。胎土に砂粒を少量含むが、焼成は良好。

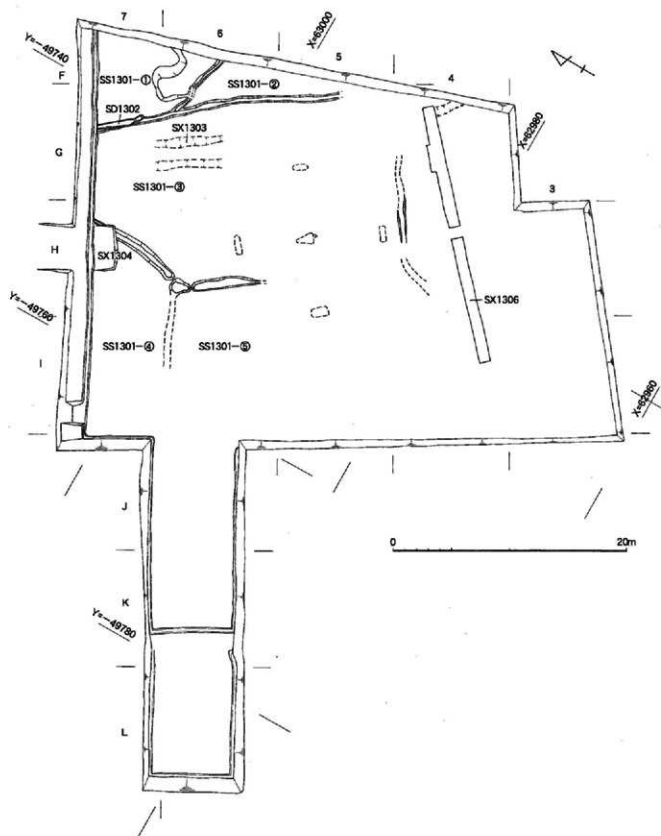


Fig.132 第1区・第2区第I面遺構全体図 (1/300)

遺構面出土遺物 (Fig.135)

7は土師器の境高台1/5片。復元底径は7.6cmを測る。全体に摩滅し、調整は不明。胎土は精良、焼成は普通。

2) 第II面の調査 (Fig.136)

第I面から-0.6~0.8m下、標高7.8~9mで検出した面である。第I面との間層は粗砂混じりシルトである。第8次調査区第II面から続く面であるが、第8次調査区と同じように遺構は確認出来なかった。遺構面は黒褐色粘土である。調査区南東隅で、排水溝を掘った所、流木を確認したので、拡張したところ、木製品を含む流木の溜まりのような所 (SX1317) を確認した。

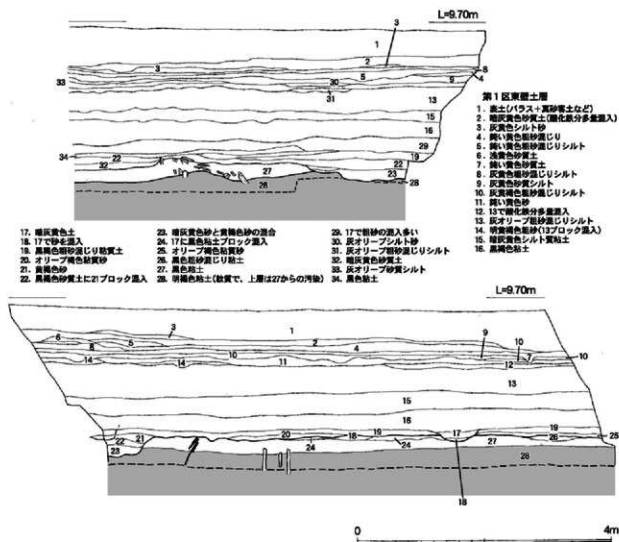


Fig.133 第1東・南壁区土層図 (1/60)

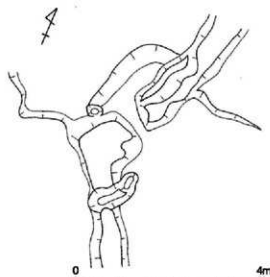


Fig. 134 SS1301水田水口裏測図 (1/80)

① 木製品・流木集積遺構

SX1317 (Fig.138, PL.105)

南東隅、排水溝掘削によって確認した遺構である。第Ⅱ面より、15~20cm掘り下げた黒褐色粘土中で確認した。流木や木製品は規則性がなく、水平堆積に近く、自然に寄せ集まった状況である。

出土遺物 (Fig.139・140, PL.118・119) 弥生から古墳時代土器細片と、木製品が少量出土している。

W1・W2は機織りの腰当てのような木製品。規模は全長が47.4cm、45.7cm、最大幅10.4cm、9.0cm、最大厚は3.2cm、2.9cmを測る。両端がやや狭まり、上面は両端を高くして中央部をケズリ込み、底部は平坦面を残して、両端をケズリ込んでいる。いずれも両端に2個ずつ一對の1cm弱の円孔があり、また中央部にはW1に直径1cmの円孔、W2には2カ所の1辺1cmの方形孔がある。W1は板目材で、底部の平坦面以外はケズリ加工、W2はナナメ材で、全面ケズリ加工である。W3は編み具と思われる棒状の材。両端上部にナナメに切り込みを入れる。樹皮が残る芯持ち材で、残存長38.9cm、直径2.5×2.6cmを測る。W4は板材の一部。上側面は欠損し、残存長37.3cm、残存幅4.35cm、最大厚1.35cmを測る。表面は平坦に仕上げるが、上面には刃物傷が多く残る。左端に直径0.5cm程の円孔が3カ所あり、左端の2個は1cm間隔で接近し、間に孔を繋ぐ樹皮の紐が残る。板目材である。W5は板材。残存長41.6cmを測る。板目取りである。表面の傷みは激しいが、粗いケズリ加工である。W6は長方形の有孔板材片。残存長26.0cm、幅8.1cmを測る。板目取りで、丁寧なケズリで平滑に仕上げる。4カ所孔が空いており、板組物の部材であろう。W7は小型の槽の一部。全長24.8cm、器高5.0cmを測る。一部炭化する。丁寧な仕上げであるが、内面には刃物痕が多く残り、内底の表面は荒れている。スギの板目取りである。

② その他・遺構面出土遺物 (Fig.137, PL.119)

弥生土器から古代の土師器、須恵器が少量出土している。

1~4は遺構面出土。1~3は須恵器。1はH-3区出土。須恵器の坏高台1/8片で、底径11.0cmを測る。調整は回転ヨコナデ。色調は褐灰色を呈し、胎土は精良、焼成は良好。8世紀代のもの。2は

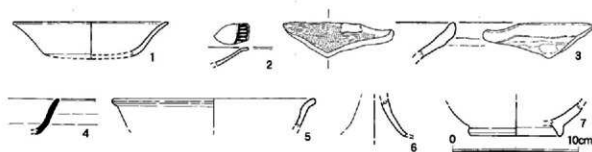


Fig.135 各遺構出土土器 (1/3)

I-3区出土の坏蓋天井部片。外面回転ヨコナデ、内面はナデ。外面には自然釉がかかる。3はI-3区出土。坏身細片でIV期のもの。調整は回転ヨコナデ。色調は灰色で、胎土は精良、焼成は良好。4はH-3区出土。土師器の甕で口縁部が外反し、端部は丸い。内外面調整はハケ目。色調は灰色を呈す。1~2mm砂粒を含み、焼成は良好。

W8・W9は頂部を山形にケズリ出した板材。W8は全長17.8cmを測る。厚みは0.2cmと薄い。表面は丁寧なケズリ仕上げである。頂部には孔が空き、W9には径2mmの孔が2カ所空く。

3) 第三面の調査 (Fig.141, PL.106)

第三面は第二面より0.3~0.7m下がった標高7.2~7.5mで、試掘トレンチSX1306の土層断面で、層が明確に分離出来たため、この面を遺構面として、遺構の確認を行った。検出遺構は溝や杭列、水田面と思われる砂が詰まった足跡、畦状の高まりなどである。北側が低く、粗砂の堆積が厚く、湧水があり地盤は軟弱であった。

① 溝状遺構

検出した溝は15条である。いずれも幅1m前後、深さは最大で0.2m程の小溝である。埋土も上からの堆積土のものが多く、外幅3mで並行する溝が多く、その規模が重機の幅に近いことから、第三面を重機で掘削する際の重機キャタピラの圧力による、遺構面の溝状の落ち込みと思われる。ただ、SD1331のように、調査区南壁から続く溝もあるので、一部は本来の遺構であろう。遺構と思われるものを中心に述べる。

SD1320出土遺物 (Fig.142)

1は甕の口縁部1/6片。復元口径33.4cmを測る。調整はナデで、胴部外面ハケ目後ナデ。色調は灰黄色を呈し、胎土は砂粒を多く含み、焼成は良好。弥生時代中期後半頃のもの。

SD1331

調査区南壁から続く溝である。H-5杭あたりで、並行する溝があり、キャタピラ溝と重複する。溝自体は確認長10m、幅0.6m、深さは南壁土層で0.2mを測る。溝は南壁土層で、第二面下層から掘り込んでいる。埋土は暗灰黄色土である。出土遺物は古墳時代土師器と思われる細片のみである。

出土遺物 (Fig.143, PL.117) W1は三又鎌の歯。残存長22.4cm、厚さ0.9cmを測る。ケズりで表面は平滑に仕上げる。

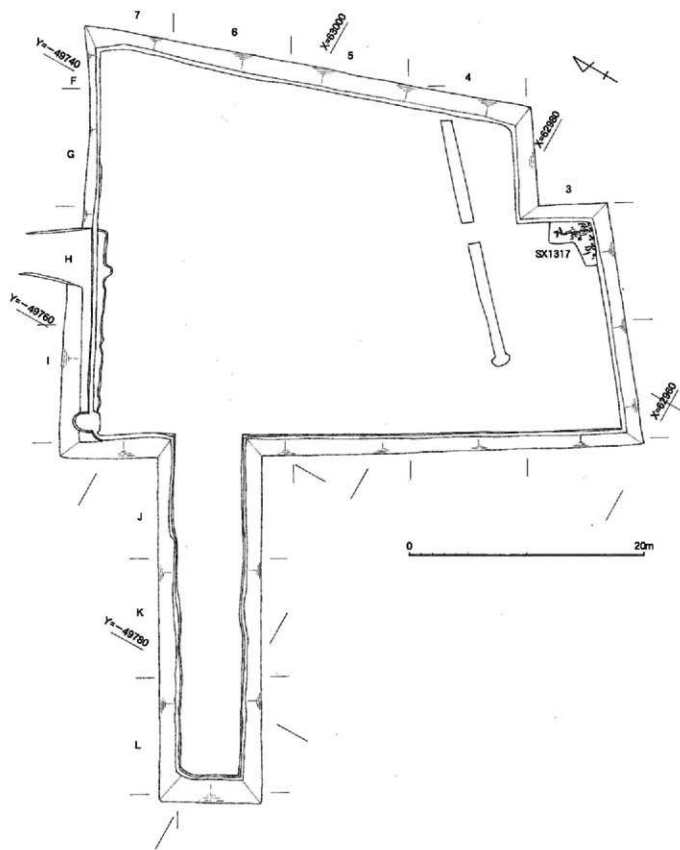


Fig.136 第1区・第2区第Ⅱ面遺構全体図 (1/300)



Fig.137 各遺構出土土器 (1/3・1/4)

SD1333出土遺物 (Fig.144)

SD1331と並行する溝で、形状から重機のキャタピラによる落ち込みであろう。S1は船刃の磨製石斧刃部片。残存長8.6cmを測る。下端に研磨された刃部がある。色調は灰色を呈し、石材は火成岩か。

SD1338

調査区東壁に続く自然流路で、粗砂が堆積していた。幅1～2mで、深さは浅く、深くても3cm前後である。

出土遺物 (Fig.142、PL.117) 弥生土器や流木が少量出土している。

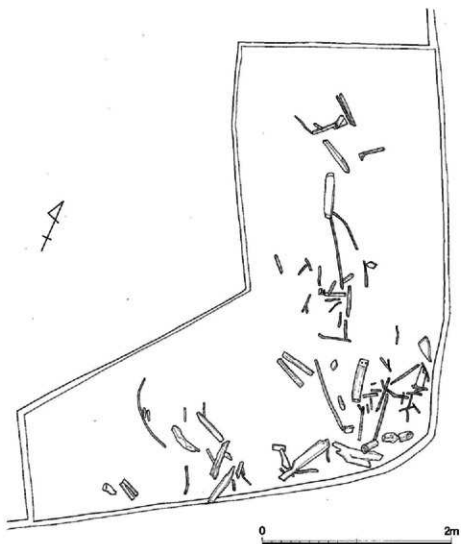


Fig.138 SX1317 (1/40)

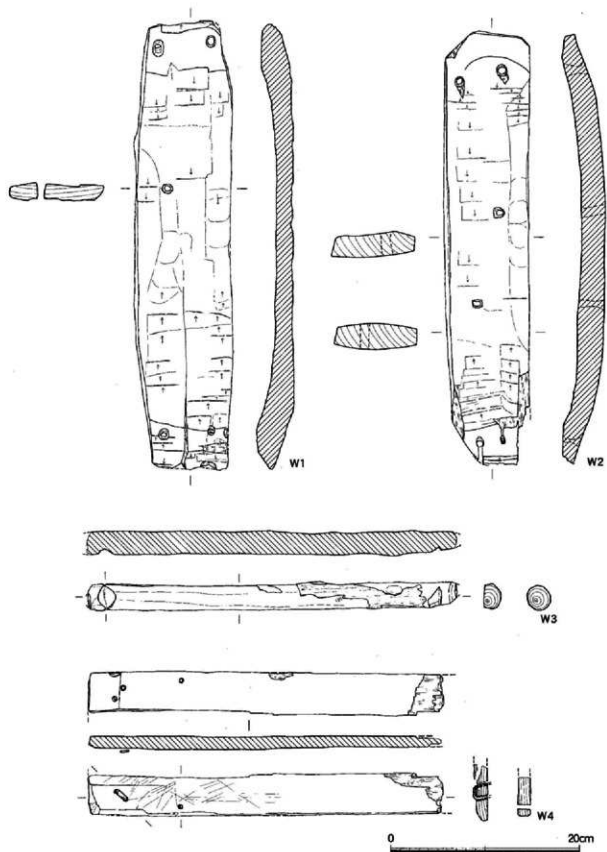


Fig.139 SX1317出土木器① (1/4)

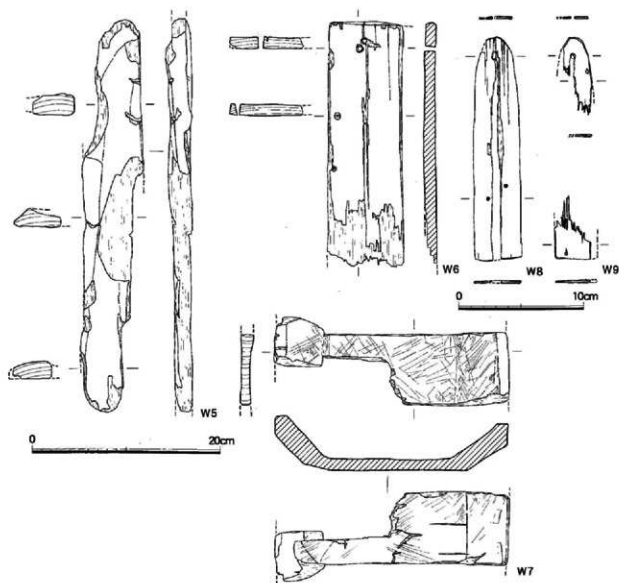


Fig.140 SX1317-②、遺構面出土木器 (1/3・1/4)

2は高環口縁部1/6片で、復元口径30.8cmを測る。調整は外面指押さえ後ナデ、内面は密なヨコハケ目後、暗文風のタテヘラミガキ。色調は灰黄褐色を呈し、胎土精良、焼成は良好。弥生時代後期末のもの。

② 杭列

SX1319 (Fig.141, PL.106)

調査区北西側の湧水の激しい低地部検出した杭群や流木。打ち込みに規則性がないが、東西方向に並んで伸びる状況が見て取れる。周辺に足跡などの痕跡が多くあるので、水田に関連があるのかも知れない。

出土遺物 (Fig.142・143, PL.120) 弥生土器の細片などが少量出土している。

3は甕1/6片で、復元口径24.0cmを測る。調整は胴部外面粗いタテハケ目で、下半は剥落が著しい。その他はヨコナデからナデで、内面下半にはスガが付着する。色調は褐灰色で、胎土に砂粒を多く含み、焼成は良好。4は甕口縁部1/6片で、復元口径29.2cmを測る。調整は胴部外面がタテハケ目、口縁

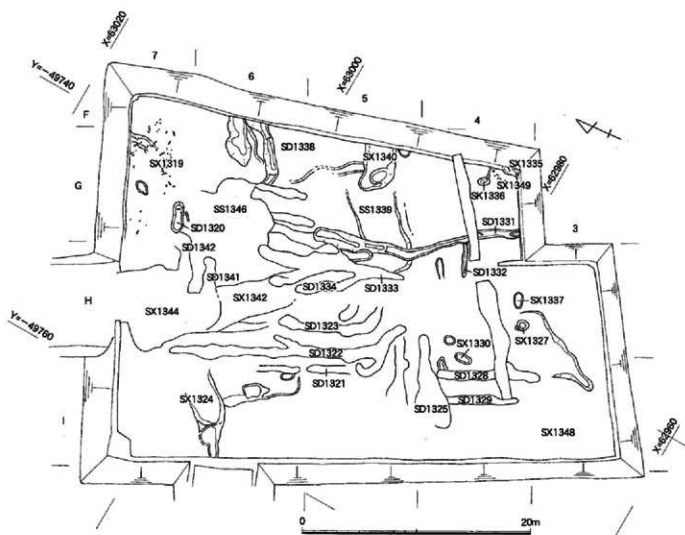


Fig.141 第1区第Ⅲ面遺構全体図 (1/300)

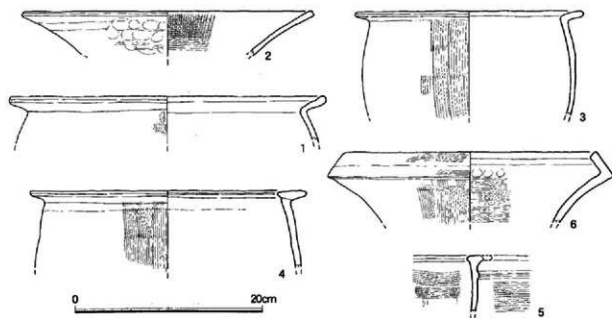


Fig.142 各遺構出土土器 (1/4)

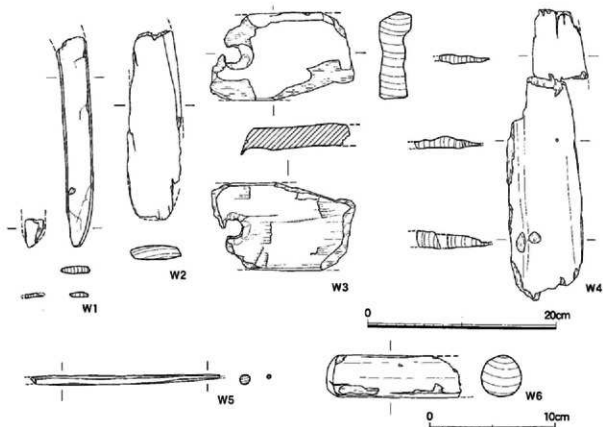


Fig.143 各遺構出土木器 (1/3・1/4)

部はヨコナデ、内面はナデ。色調はにぶい黄橙色を呈し、胎土は粗砂を多く含み、焼成は良好。

W 2は板材。残存長20.2cmを測る。ケズリ加工。下端は面取りしている。W 3は加工角材の一部。樹種はカシ。両側面はケズリ加工で、上端には節穴と思われる孔がある。

SX1340出土遺物 (Fig.142)

G-6区の東壁で検出した浅い落ち込み。幅5.5m、深さ0.15cm程である。この北側に細く続く高まりがあり、畦の可能性ある。埋土は黒褐色粘質砂で暗灰黄色砂が混入する。底面には流木が入っていた。5は丹塗り覆口縁部小片。調整は口縁部ヨコナデ、胴部外面はヘラミガキ、内面はハケ目後ナデ消し。色調は鈍い赤褐色を呈し、胎土精良、焼成は良好。

SX1342出土遺物 (Fig.142)

H-6区で検出した重機による落ち込み部分から出土した遺物。6は複合口縁壺の口縁部1/6片。復元口径は26.4cmを測る。調整は内外面ハケ目で、口縁はその後ナデ、内面には指押さえ痕残る。

SX1344 (Fig.144)

調査区I-6区北側で検出した落ち込みである。7は土製の投弾。全長4.6cm、最大径2.3cmを測る。調整は丁寧なナデ。胎土は精良、焼成は良好。

SX1350出土遺物 (Fig.143, PL.120) W 6は鋤の柄か。残存長10.6cmを測る。先端は丸く、表面は丁寧に仕上げる。

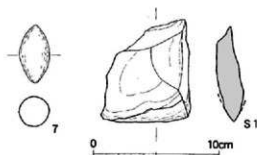


Fig.144 各遺構出土遺物 (1/3)

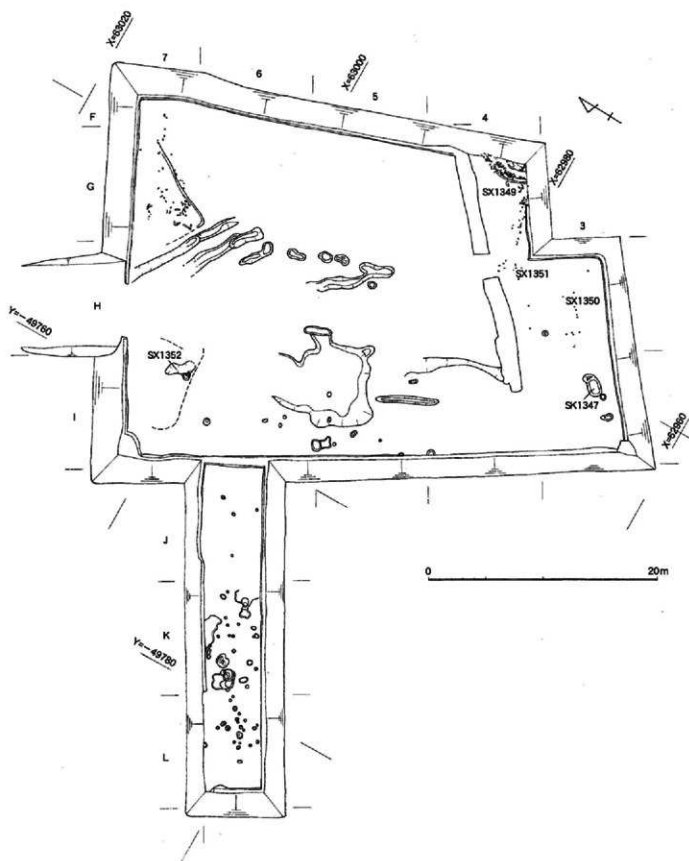


Fig.145 第1区第IV面・第2区第III面遺構全体図 (1/300)

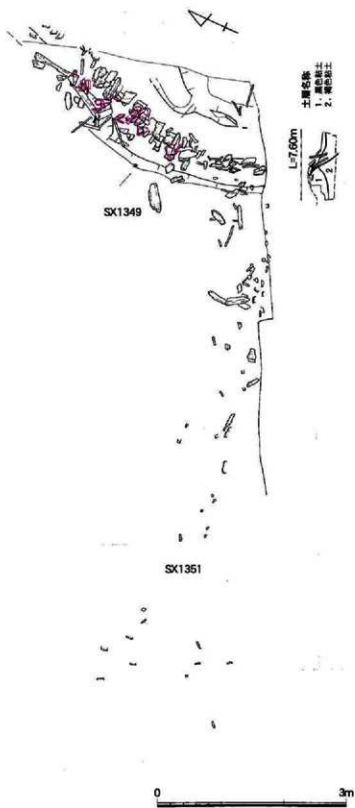


Fig.146 SX1349 (1/60)

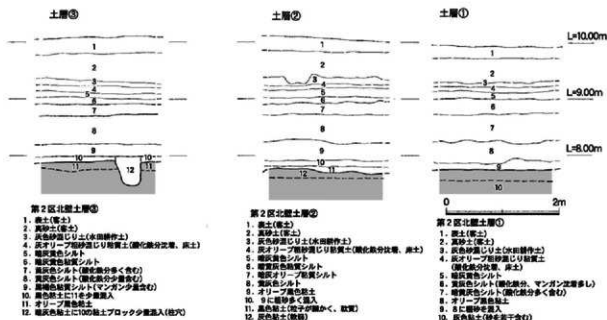


Fig.147 第2区北壁土層 (1/60)

4) 第四面の調査 (Fig.145, PL.106)

第三面を基盤面上に堆積した黒色粘土上面で検出したため、更に基盤面まで、掘り下げて遺構の確認をした。この基盤面を第四面とする。基盤面は灰オリブ粗砂質じり粘土である。検出した遺構は大半が第三面からの遺構の残りや木の根などであり、主なものも南東隅、第三面で検出していた矢板を伴った畦状遺構と杭列などである。

① 土塊状遺構

SX1349 (Fig.146, PL.108)

調査区南東隅で検出した遺構。蛇行する幅0.5~0.7m、高さ0.15mほどの黒色粘土を主体とする土塊状の高まりで、東側に何重も連続して打ち込まれた矢板が伴う。反対側は土層ではこの遺構の内側には黄褐色砂、黒褐色砂質土、暗灰黄色と黄褐色砂の互層が堆積した溝状遺構(SD1335)が第三面で確認されており、それに伴う土堤と思われる。この遺構は第四面の基盤面でも高まりが続き、第四面から始まるものとする。

出土遺物 (Fig.143, PL.120) 古墳時代土師器細片が少量出土している。

W4は割材。残存長30.8cmを測る。表面は傷みが激しい。

② 遺構面出土遺物

遺構面出土遺物 (Fig.143, PL.120) W5は簀か。全長15.0cmを測る。表面は丁寧なケズリ仕上げ。断面は角張った円形。

3. 第2区の調査

1) 各遺構面の調査

第1区の西側、管理用道路を横断する通水管敷設部分の調査である。この部分は15年度に工事予定で、工事業者が決定した事を受けて、調査を実施した。調査地は飛行機の進入誘導灯があり、その電気配線も調査地内を通っていたので、当初はその埋設管を壊さないように残して調査を行った。表土区掘削は第1区の調査区の遺構面に合わせて行った。

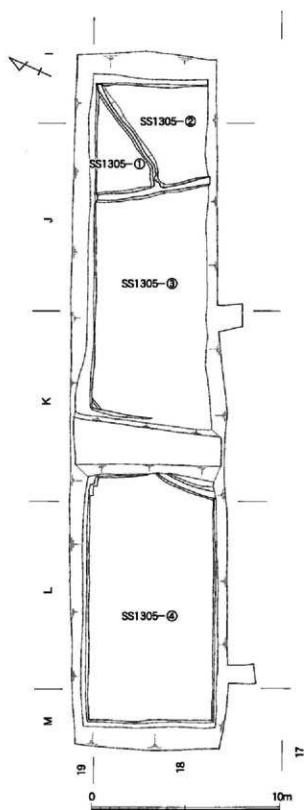


Fig.148 第3区第I面遺構全体図 (1/200)

① 第Ⅰ面の調査 (Fig.132, PL.109)

第Ⅰ面は地表面から-1.0~1.1m下がった標高8.9~9.0mの面で、第1区から続く面である。遺構面は暗灰オリブシルトから青灰色シルトで、酸化鉄分を多く含んでいた。この面の上面には洪水砂層がかぶらず、水田面としては把握出来なかった。また遺物の出土はなかった。

② 第Ⅱ面の調査 (Fig.136, PL.109)

第Ⅱ面は第Ⅰ面から0.7~0.8m下がった面で、オリブ黒色粘土上面である。標高は8.2~8.3mを測る。第Ⅰ面との間層は砂ではなくシルトである。第1区では遺構を確認出来なかったが、第2区も遺構を確認出来なかった。遺物の出土もなかった。

③ 第Ⅲ面の調査 (Fig.145, PL.109)

第Ⅲ面は第Ⅱ面から0.3~0.5m下がった面で、灰色粘土上面が遺構面となる。標高は7.8~7.9mを測る。この面では地山の汚れやシミの外に、数は少ないがピットなどを検出した。ピットはこの面の上の黒色粘土から掘り込むものもある。遺構の分布は西側に比較的多く、調査区外南側に遺構分布の中心域があるものと思われる。出土遺物は弥生土器の細片が1点と黒曜石の剥片が1点出土した。

4. 第3区の調査

J-19~M-19ラインを通る東西方向の調査区である。上面で幅8m、長さ36mを測る。調査は西隣で調査した、第5次調査区、第8次の調査区の遺構面に合わせて行ったが、第Ⅲ面は川跡に当たり、時期的なこともあって、湧水が激しく、溝の完掘は出来なかった。

1) 第Ⅰ面の調査 (Fig.148, PL.110)

第Ⅰ面は地表下1.1mで水田面を検出した。遺構面までの深さは0.7m程の客土、近代水田土、洪水砂層の下である。水田面の基盤は灰色から褐灰色粘土である。水田上面には厚い砂がかぶっていたので、足跡などの痕跡が残っていた。

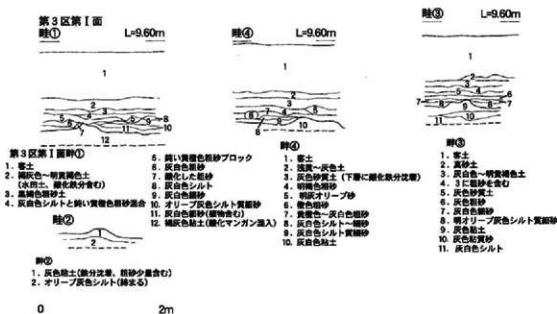


Fig.149 第3区第Ⅰ面土層 (1/60)

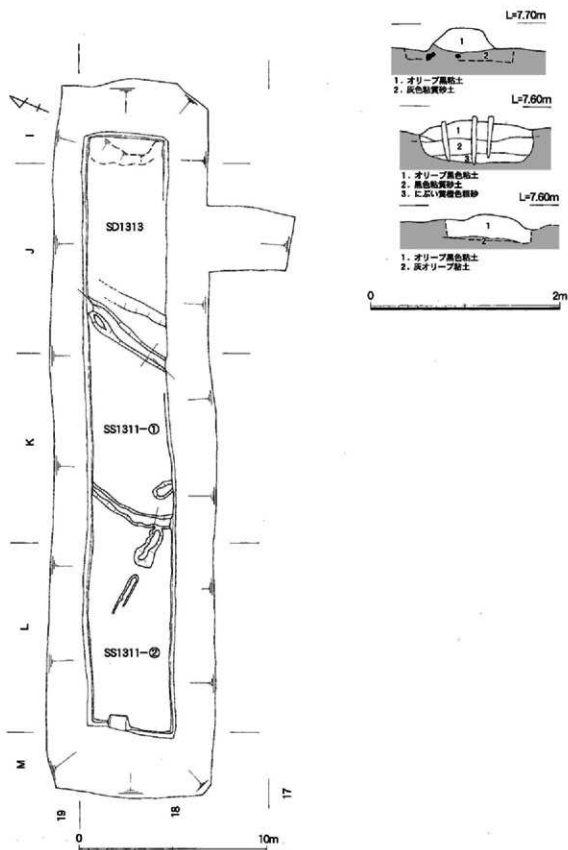


Fig.150 第3区第Ⅱ面遺構全体図・断面図 (1/200・1/40)

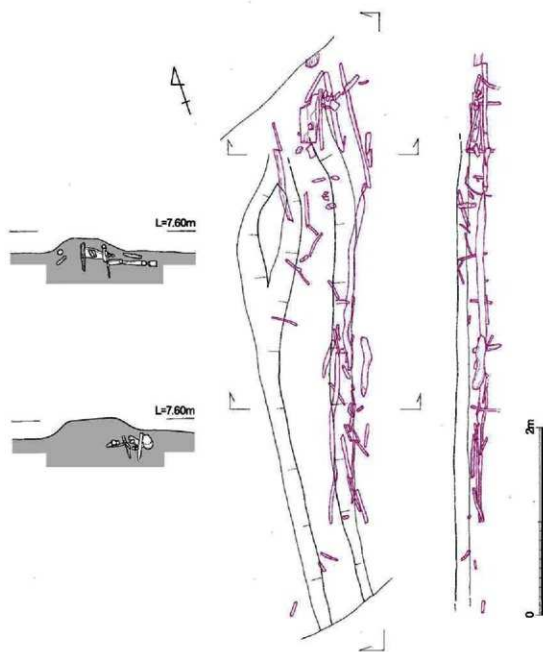


Fig.151 水田畔下敷き (1/40)

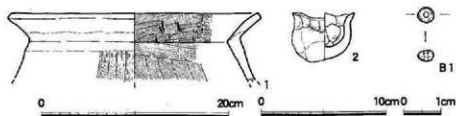


Fig.152 各遺構出土土器・五類 (1/1・1/3・1/4)

① 水田遺構

SS1305 (Fig.148・149, PL.110)

第8次調査から続く畔とそれに斜交する畔を検出した。細長い調査区なので、水田区画の単位は不明。ただ畔の在り方から4枚の水田区画が確認出来た。その内、東側の2枚は第8次調査区の水田の一部である。畔は基盤面から削り出したもので、断面台形を呈し、高さ10cm程である。

2) 第Ⅱ面の調査 (Fig.150, PL.111)

第Ⅱ面は第Ⅰ面から-0.8~0.9m下がった面である。標高7.3m前後を測る。遺構面は明灰黄色粘土である。検出した遺構は溝と水田である。

① 溝状遺構

SD1313 (Fig.150・151, PL.111)

水田SS1311-①内で検出した第8次調査区から続く浅い自然流路である。水田面より5cm強下がる程である。埋土は黄色粗砂である。

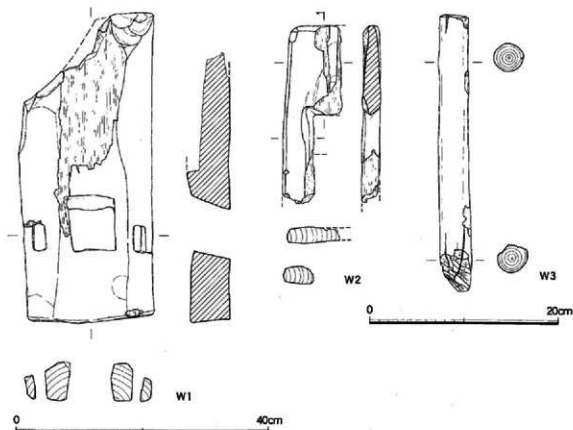


Fig.153 各遺構出土木器 (1/4・1/6)

② 水田遺構

SS1311 (Fig.150, PL.112)

調査区全域で検出した。東側は浅い自然流路SD1313が流れる。上面には洪水砂が厚く堆積していた。南北方向の畔2条と、西側の畔と直交する畔と思われる高まりが断続的にあった。水田面は南北の畔で最低3区画ある。畔は幅0.5～1.0m、高さは最大で15cmを測る。オリブ黒色粘土を盛り上げて作り上げている。この水田の畔1では第7次調査区で検出した下敷が確認された。

下敷き遺構は長さ1.4～2.0mの杭材や木製品などを、畔長軸方向の横材として敷き、その横材を補佐するように杭を打ち込んでいる。畔はその上にオリブ黒色粘土を畔土として盛り上げている。遺構は畔基底面より下のレベルで検出しているが、畔の方向性に沿っており、畔の基礎下敷きと考える。

出土遺物 (Fig.152・153, PL.117・120) 弥生土器片が出土しているが、下層包含層からのものである。

1・2は①水田埋土出土。1は弥生土器甕口縁部1/7片。復元口径26.0cmを測る。調製は内外ハケ目。色調は褐灰色を呈し、胎土は粗砂を含み、焼成は良好。2はミニチュア土器壺。手捏ねで、内外面指押さえ痕が残る。色調は褐灰色を呈し、胎土は粗砂を多く含み、焼成は良好。

W1は下敷きから出土した建築材と思われる板材の一部。残存全長49.4cm、最大幅21.2cm、最大厚6.8cmを測る。端部から12cm程内側に9×7cmの方形孔とその両側に2×4cm程の長方形孔の、計3個の孔がある。表面は傷みがあるが、ケズリ加工である。W2は直柄鎌の頭頂部の柄つばの一部。残存長18.9cmを測る。カシ材で板目取りである。W3は樺材で、残長29.3cmを測る。先端は斜めに削り出す。B1はSS1311-②で出土したガラス小玉。扁平な円形で、直径0.4cm、厚さ0.25cm、孔径0.15cmを測る。色調は明緑色を呈す。

3) 第Ⅲ面の調査 (Fig.154, PL.114)

第Ⅲ面は第Ⅱ面から0.6m程下がった面で、遺構面は灰オリブ砂質粘土である。検出した遺構は溝2条である。調査区が狭く、また湧水が激しく、天候が悪く、壁の崩壊が予想されたことから、東側の溝を一部掘った以外は、掘り下げを断念した。

① 溝状遺構

SD1314 (Fig.154, PL.115・116)

東側で検出した溝で、第8次調査区で検出したSD818の続きである。埋土は、上層は粘土で、間層に粗砂を含む。下層は粗砂層となる。湧水がひどく、周壁の崩落もあって、完掘は出来ていない。土層では西側壁際に杭が打ち込まれているが、第Ⅱ面からのものであろう。

出土遺物 (Fig.156, PL.117) 弥生時代後期後半代の土器が出土した。量はそれ程多くない。

1は丸底気味の小型壺。ほぼ球形で、口径9.0cm、器高10.8cmを測る。調整は口縁部ヨコナデ、胴部内外面はハケ目である。色調は灰黄色を呈し、胎土に1～2mmの粗砂を多く含み、焼成は良好。2は複合口縁壺の口縁3/4片で、復元口径は24.2cmを測る。口縁部内外面ヨコナデ、頸部は内外面タテ又はヨコハケ目。口縁の屈折部にはヘラによる1cm間隔の浅い刻目が付く。色調は褐灰色で、胎土に1～2mmの粗砂を多く含み、焼成は良好。3は甕口縁部。頸部に低い突帯が付く。調製は内外面ナメ・ヨコハケ目、口縁端部と突帯部には木口面による刻目が付く。色調は暗灰黄色、胎土は精良、焼成は良好。4は甕底部片。底径は8.6cmを測る。調整は細かいハケ目、内面は工具によるナデ上げ。色調は灰黄色を呈し、胎土は最大5mmの粗砂を多く混入。焼成は良好。2・4は上層、1・3は下層出土。

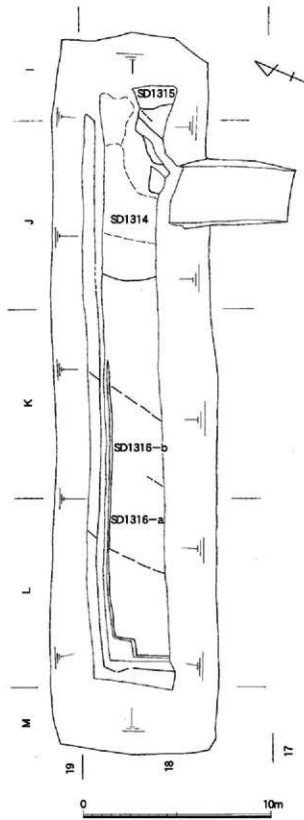


Fig.154 第3区第Ⅲ面遺構全体図 (1/200)

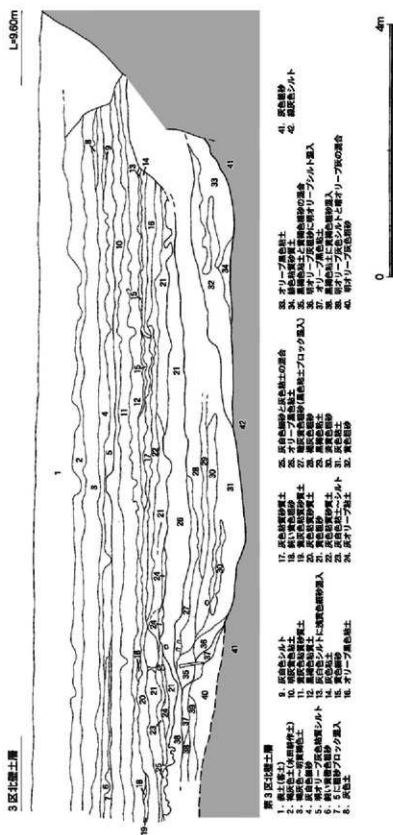


Fig.165 北壁土層 (1/60)

SD1315

調査区南東隅で検出した落ち込み。位置的に第8次調査区SD735溝の岸の可能性ある。調査区壁の崩落もあって、十分掘り切れていない。SD735は古代の溝であり、出土した土器と時代が合わない。包含層から流れ込んだ土器が出土したのであろう。流木なども下層には認められた。

出土遺物 (Fig.156, PL.117) 弥生時代後期後半代の土器が多量に出土。主なものを上げる。

5は丸底の鉢2/3片で、口径14.0cm、器高6.2cmを測る。調整は外面細かいハケ目、内面は板ナデで、工具痕が残る。外面黒斑がある。

SD1316 (Fig.154, PL.115)

調査区西側で検出した溝、湧水が激しく、掘削に危険性があったので、遺構を確認しただけで、完掘していない。幅7mを測り、上面の観察では2条の溝の重なりが見て取れた。西側が新しく、粗砂を主体とする。出土遺物は掘削していないので少ない。弥生時代後期後半のものが少量出土している。

② 包含層出土遺物 (Fig.156, PL.117・118)

調査区東側で検出した。第Ⅱ面下のオリブ黒色粘土部分が包含層となる。弥生時代後期から古墳時代前期前半までの土器が多量に出土した。

6は土器器の小型丸底蓋1/4片。復元口径8.5cmを測る。調整は内外面ナデで、胴部内面には指押さえ痕が残る。色調は暗灰黄色を呈し、胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好。I-18区出土。7は胴底部片で、底部がやや平底を呈す。最大胴部径11.1cm、残存高6.3cmを測る。外面丁寧なミガキ、内面ナデである。色調は暗灰黄色を呈し、胎土には砂粒を多く含み、焼成は良好。外面黒斑がある。I-18区出土。8・9は甕。8は大型で口縁から胴部1/6片。復元口径45.5cmを測る。調整は内外面ハケ目で工具痕が残る。外面のハケ目は目が細かい。色調は黄褐色を呈し、胎土は粗砂を多く含み、焼成は良好。9は底部で、内面と外底部はハケ目調整。10・11は鉢。10は大型で口縁部1/6片。碗形で復元口径27.8cmを測る。器表面は摩滅が著しいが、内面にはハケ目、外面には工具ナデ痕がかすかに残る。色調は灰黄色を呈し、胎土に粗砂を多く含み、焼成は良好。11は外折する口縁を持つ形態。口縁部を一部欠損するが、復元口径は16cm以上、残存高9.5cmを測る。調整は外面の表面はやや摩滅するがミガキに近いナデ、内面は表面が一部剥落するがナデ上げ。色調は暗灰黄色を呈すが、黒斑がある。胎土は粗砂を多く含み、焼成は良好。12・13は甕口の支脚。12はほぼ完形。底径12.4cm、最大高12.4cmを測る。頂部には直径2cmの円孔が空く。調整は頂部はナデ、体部外面は平行タタキ、内面はナデで、裾部はハケ目。13は体部下半を欠損する。頂部には上から空けられた上部径3.3cmの円孔がある。頂部はナデ、体部は工具ナデ。色調は12・13いずれも灰黄褐色を呈し、胎土も粗砂を多く含む。焼成は良好。14はミニチュア土器。高杯の脚部か。底径2.8cm、残存高3cmを測る。表面は摩滅するが、指押さえ仕上げ。色調は褐灰色を呈し、胎土は精良、焼成は普通。15は紡錘車1/2片。復元径5.0cm、最大厚0.9cm、孔径1cmを測る。調整はナデ。色調はオリブ黒色を呈し、胎土は精良、焼成は良好。

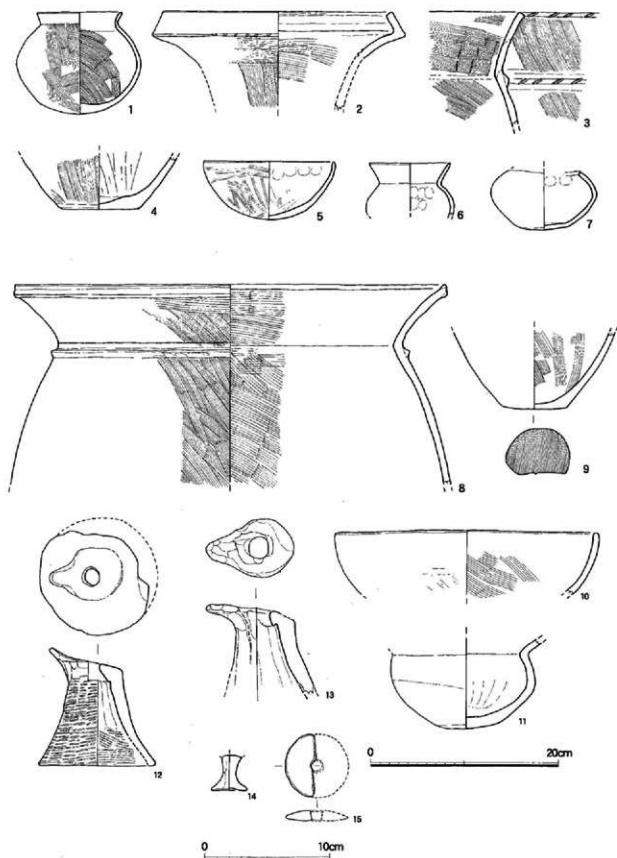


Fig.156 各遺構出土土器 (1/3・1/4)

Tab.5 第9次調査遺物観察表

土器・土製品観察表

発掘層	Fig.	PL	出土遺物	出土位置・層位	器種・器形	流量(単位:cm)Cは復元・残存			胎土	色調	施文	残存状況	備考	
						口径・長さ	胴径	取っ手・高さ						
1	135	117	SD1302		白磁・皿	(12.4)		(2.7)	灰白色、精良	胎:乳白色	良好	1/8		
2	135	117	SS1301	壁土	白磁・皿			1.5	灰白色、精良	胎:灰白色	良好	細片		
3	135		SS1301-①	水引埋土	瓦質土器・楕鉢			3.0	1~2mm 砂粒少量混入	灰白色	普通	細片		
4	135		SS1301-②	下層水引埋土	瓦質土器・杯			2.8	1~4mm 砂粒少量混入	灰白色	良好	1/8		
5	135	117	SX1304		青磁・碗	16前後		2.3	灰白色、精良	胎:オリーブ灰色	良好	口径1/8		
6	135		SX1306	試掘トレンチ	土器器・高台			3.1	1~2mm 砂粒少量混入	胡杏褐色	良好	細部欠		
7	135		第I区遺構面		土器器・高台付蓋		(7.6)	2.6	精良	褐色	普通	高台1/5		
1	137		第II区遺構面	H-3区	瓦質土器・高台付蓋		(11.0)	1.7	精良	褐色	良好	1/8		
2	137		第II区遺構面	I-3区	瓦質土器・坏身?			2.5	精良	灰色	良好	1/2		
3	137		第II区遺構面	I-3区	瓦質土器・坏身			2.3	精良	灰~灰白色	良好	細片	自然釉が少かる	
4	137		第II区遺構面	H-3区	土器器・壺			3.7	1~2mm 砂粒少量混入	暗灰白色	良好	口径細片		
1	142		SD1320		弥生土器・壺		(33.4)	5.0	1~2mm 粗砂粒多量混入	灰黄色	良好	1/6		
2	142	117	SD1338		弥生土器・高杯		(30.4)	4.7	精良	灰黄褐色	良好	1/6		
3	142		SX1319		弥生土器・壺		(24.0)	11.3	1~2mm 粗砂粒多量混入	褐色	良好	口径1/5		
4	142		SX1319		弥生土器・壺		(29.2)	8.4	1~2mm 粗砂粒多量混入	にがみ黄褐色(内面中央部は赤褐色)	良好	口径1/6		
5	142		SX1340		弥生土器・壺			6.0	精良	にがみ赤褐色	良好	口径細片	片塗り	
6	142		SX1342		弥生土器・壺		(26.4)	7.4	1~2mm 粗砂粒多量混入	にがみ黄褐色	良好	口径1/6		
7	144	117	SX1344		土製品・投擲	4.6	2.8	2.3	精良	オリーブ黒~暗灰色	良好	底存		
1	152		SS1311-①	水引埋土	弥生土器・壺		(26.0)	7.3	1~2mm 砂粒多量混入	褐色	良好	口径1/7		
2	152	117	SS1311-②	水引埋土	ミニチュア土器・壺	4.8		4.0	1~1mm 砂粒多量混入	褐色	良好			
1	156	117	SD1314	下層砂中	弥生土器・壺	9.0	13.2	10.8	1~2mm 粗砂粒多量混入	灰黄色	良好	ほぼ完存	外周下部部に酸化層付着	
2	156		SD1314	上層	弥生土器・複合口径器		(24.2)	10.1	1~2mm 粗砂粒多量混入	褐色	良好	口径3/4		
3	156		SD1314	下層	弥生土器・壺			12.1	精良	暗灰黄色	良好	口径細片		
4	156		SD1314	上層	弥生土器・壺			8.6	5.5	1~5mm 粗砂粒多量混入	暗灰黄色	良好	底面欠	
5	156	117	SD1315		弥生土器・鉢	1.48	2.0	6.2	1~2mm 粗砂粒多量混入	灰黄褐色	良好	口径2/3		
6	156		第III区包含層	中層 I-18区	土器器・小型瓦蓋器		(8.5)	5.6	1~2mm 砂粒少量混入	暗灰白色	良好	口径1/4		
7	156	117	第III区包含層	上層 I-18区	土器器・壺			11.1	1~2mm 粗砂粒多量混入	暗灰黄色	良好	完存	腹面部分に打穴の痕跡あり	
8	156	117	第III区包含層	+SD1315	弥生土器・壺		(45.5)	16.2	1~2mm 粗砂粒多量混入	黄褐色	良好	1/6		
9	156		第III区包含層	上層	弥生土器・壺			6.7	8.3	1mm 程度粗砂粒混入	灰黄褐色	良好	底面1/2	
10	156		第III区包含層	+SD1315	弥生土器・鉢		(27.4)	6.5	1~2mm 粗砂粒多量混入	灰黄色	良好	口径1/6		
11	156	118	第III区包含層	瓦質土器+SX1315	弥生土器・鉢	16以上		最大9.5	1~1mm 粗砂粒多量混入	暗灰黄色	良好	口径欠損	縦径約1.6cm	
12	156	118	第III区包含層	+SD1315	弥生土器・文罽			12.4	最大12.4	1mm 程度粗砂粒混入	良好	ほぼ完存		
13	156	118	第III区包含層	+SD1315	弥生土器・文罽			10.2	1~1mm 粗砂粒多量混入	灰黄褐色	普通	底面欠損	上部径3.3cmの円孔	
14	156		第III区包含層	中層	ミニチュア土器・高杯?		2.8	3.0	精良	褐色	普通	細部欠		
15	156	117	第III区包含層	上層	土製品・鉄鏝		(5.0)	0.9	精良	オリーブ黒色	良好	1/2	孔径1.0cm	

石器・石製品・ガラス製品観察表

発掘 番号	Fig.	Pl.	出土遺構	出土位置 ・層位	器種・器形	法数(単位:cm) ()は残存			材 質	色 調	備 考
						長	幅	厚			
S 1	144	117	SD1333		始刀磨製石斧	8.6	6	(1.0)	火成岩か	灰色	
B 1	152	118	SS1311-②	赤印埋土 穴-1	ガラス小玉	0.4	0.4	0.25	ガラス	明緑色	孔径0.15cm

木器観察表

発掘 番号	Fig.	Pl.	出土遺構	出土位置 ・層位	器種・器形	法数(単位:cm) ()は残存				木取り	樹種	備 考
						長さ・口 径・底径	幅・高さ ・加幅	厚さ・ 直径	その他			
W 1	139	118	SX1317		機織具 (蓋当て)?	47.4	10.4	最大3.2		板目材		穿孔3つ
W 2	139	118	SX1317		機織具 (蓋当て)?	45.7	9.0	最大2.9		ナミノ材		穿孔6つ
W 3	139	119	SX1317		機織具 (引手)?	(38.9)		2.5×2.6		桐皮付志持ち材		
W 4	139	119	SX1317		板材	(37.3)	(4.35)	最大1.35	幅約0.5 厚約0.2	板目材		穿孔3つ、桐皮残あり
W 5	140	119	SX1317		不明木製品	(41.0)	(6.8)	2.4		板目材	広葉樹	
W 6	140	119	SX1317		有孔板材	(26.0)	8.1	1.35		板目	ヒノキ?	
W 7	140	119	SX1317		容器・樽	(24.0)	?	1.2		板目材	杉	
W 8	140	119	第II室遺構面		板材	17.8	5.45	0.2		板目材	針葉樹?	
W 9	140	119	第II室遺構面		板材		(3.01)	0.2		板目材		測定全長11.35cm
W 1	143	120	SD1331		三又鉋	(22.0)		0.9		柱目	カシ	
W 2	143	120	SX1319		板材	(20.2)	(5.7)	1.5		板目		
W 3	143	120	SX1319		加工角材	(18.15)	5.3	(3.7)		柱目	カシ	測定8つの孔は楕円形
W 4	143	120	SX1349		板材・割材	(30.0)	(8.5)	1.75		柱目		孔は楕円形
W 5	143	120	SX1343	溝辺	樽	(15.0)	0.75	0.81		割材	杉?	
W 6	143	120	SX1350		筒形?	(1.6)	3.4	3.25		柱目	カシ	溝の可塑性あり
W 1	153	120	SS1311		埋戻材?	(49.0)	最大21.2	最大6.8		割材		方形孔3つ
W 2	153	120	SS1311	神心下	機織具(蓋料)	(18.9)	(6.3)	2		柱目	カシ	
W 3	153	120	SS1311	神心下	漆材	29.3	3.5	3.95		志持ち	広葉樹	桐皮残存

第VI章 自然科学分析

1. 下月限C遺跡から産出した昆虫化石群集について

森 勇一（愛知県立津島東高等学校）

1. はじめに

昆虫の外骨格はキチン質で構成されていて、土中に埋もれてからも長い間保存される。昆虫の生息環境が多岐にわたり、かつ食性がきわめて多様であることから、遺跡中より発見された昆虫化石の種レベルの同定が進めば、そこから得られる情報はすこぶる多い。筆者は、先史～歴史時代の地層中に含有される昆虫化石を抽出・分析することにより、植生や水域および地表環境、人為による土地改変の様子など、人々を取りまく環境史についての情報を多数蓄積してきた（森、1994、1997、1999）。

本論では、福岡市博多区月限に所在する下月限C遺跡の古墳時代後期～古代にかけての遺跡包含層より発見された昆虫化石群集と、そこから導かれた古環境について述べる。

2. 試料および分析方法

下月限C遺跡は、御笠川右岸の氾濫平野域に位置しており、遺跡は自然堤防と後背湿地等が入り組んだ複雑な地形面上に立地している。下月限C遺跡は、弥生時代前期～古墳時代前期の集落跡に加え、古墳時代後期～奈良時代の水田、9～10世紀の水田、12世紀～14世紀の集落と水田の4時期の遺構が検出され、弥生時代・古墳時代・古代・中世など複数の時代にまたがる複合遺跡とされる（福岡市教育委員会、2003）。

このうち、昆虫分析試料は、第7次調査の第Ⅱ面（古墳時代後期）の畦畔7下木列中とされるNo.1試料（試料1）、同じく第Ⅱ面（古墳時代後期～奈良時代）のSD746北ベルトとされるNo.2試料（試料2）、同じく第Ⅲ面（弥生時代後期～古墳時代前期）のSD818（1区～2区ベルト）上層粘土とされるNo.3試料（試料3）、同じく第Ⅲ面（弥生時代後期～古墳時代前期）のSD818-4区上層粘土とされるNo.4試料（試料4）、第8次調査の第Ⅱ面（奈良時代以前）のSX1041-2区とされるNo.5試料（試料5）の計5試料である。

分析試料の湿潤重量は、試料1が1.32kg、試料2が284g、試料3が1.63kg、試料4が1.12kg、試料5が320gであった。うち、試料2および試料5はこの全量、試料1は320g、試料3は340g、試料4は300gについて計量し分析した。

昆虫分析試料は、福岡市教育委員会埋蔵文化財第1課の山崎龍雄氏により、遺跡を貫流する水路や溝などより精力的に採取されたものであり、現地にて存在が確認されたNo.5試料中の昆虫化石を除き水洗浮遊選別法により検出した。昆虫化石の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で1点ずつ比較のうえ実施した。なお、昆虫化石は、いずれも節片に分離した状態で検出されており、そのため、本論に記した産出点数は、昆虫の個体数を示したものではない。

3. 昆虫化石群集

昆虫分析試料より抽出された昆虫化石は、計46点であった（表1）。産出した昆虫化石のうち、主なものについては、図版1に実体顕微鏡写真を掲げた。昆虫化石群集は、陸生の食性昆虫を主体に、主に湿潤地表面上に多い地表性歩行虫で構成され、これに水生昆虫が伴われた。次に、それぞれの分

析試料から得られた昆虫組成について述べる。

試料1からは、計9点の昆虫化石が発見された。産出昆虫のうち、水生昆虫が3点、地表性歩行虫が2点であり、食糞ないし食屍性昆虫は1点も検出されなかった。なお、陸生の食植性昆虫やその他の昆虫は計4点確認された。

試料2からは、計13点の昆虫化石が発見され、内訳は水生昆虫が4点、地表性歩行虫が5点うち食糞ないし食屍性昆虫は2点検出された。陸生の食植性昆虫は1点確認されたのみであった。試料3からは、水生昆虫1点、地表性歩行虫3点、陸生の食植性昆虫1点、これに双翅目の胴蛹が1点伴われた。試料4からは、試料3同様6点検出されたのみであり、うち4点は地表性歩行虫であった。試料5からは計12点が発見され、このうち食植性昆虫が10点と過半を占めた。

種組成では、試料1より、水生・食植性で、現在も水田内や水田周囲の水路等に生息し、水田指標昆虫(森, 1999)として知られるセマルガムシ *Coelostoma stultum* が2点検出された。また、試料2からは、セマルガムシ(1点)に加え、同じく水田指標昆虫であるマメガムシ *Regimbartia attenuata* (1点)、ガムシ *Hydrophilus acuminatus* (1点)をはじめ、種は特定できていないものの水田周辺の止水域に多く生息するゲンゴロウ科 *Dytiscidae* (1点)、同じく水田周辺の湿潤地面上に認められるミズギワゴミムシ属 *Bembidion* sp.(1点)などが発見されたことが特筆される。試料1からは、草木植物や果樹等の花粉に集まるコアオハナムグリ *Oxyctomia jucunda* (2点)の上翅片が発見された。

いっぽう、試料5では、人間の介在した二次林や果樹・畑作物などを加害する畑作害虫(森, 1999)として名高いヒメコガネ *Anomala rufocuprea* (5点)、同様の生態を有するアオドウガネ *A. albopilosa* (1点)、コガネムシ *Mimela splendens* (1点)、検出部位が小さく種まで同定することができなかったサクラコガネ属 *Anomala* sp. (2点)についても、おそらく畑作物等に由来すると考えよう昆虫片であった。

なお、試料2、および試料3、4からは、種の特定に有効に昆虫化石は発見できなかった。

4. 昆虫相から推定される古環境

福岡市下月限C遺跡の弥生時代後期から奈良時代に至る地層中より発見された昆虫化石を同定・分析した結果、その群集組成から当時の古環境の一端が明らかになった。今回の分析では発見された昆虫化石があまりにも少なく、明確なことが言えるものではない。それを承知で、下月限C遺跡の周辺環境を大胆に考察するとすれば、およそ以下のようなものになろう。

古墳時代後期から奈良時代にかけての地層(試料1)からは、個体数が少ないものの水田指標昆虫として知られるセマルガムシやガムシ・マメガムシなどが検出された。同じ地層からは、水田内や水田周辺の止水環境に生息するゲンゴロウ科や、湿地や水辺を好むミズギワゴミムシ属なども見いだされた。その結果、このころ、本遺跡周辺に水田があったことが示唆される。同じ地層から、イネネクハムシ *Donacia provosti* やイネノクロカメムシ *Scotinophara lurida* などの稲作害虫が確認されれば、この推定をさらに補強するものとなる可能性があり、今後の分析に期待されるところである。

また、下月限C遺跡第8次調査時の奈良時代以前とされる堆積物(試料5)からは、畑作害虫として知られるヒメコガネを多産し、これにアオドウガネ・サクラコガネ属・コガネムシなどが伴われた。ヒメコガネに伴随する種群もまたヒメコガネ同様、畑作物を加害したり人為度の高い植生に依存する人里昆虫ばかりであり、この結果、奈良時代を遡る一時期、遺跡のバックグラウンドと考えてよい丘陵地や下月限C遺跡一帯の標高の高いところには畑作地が展開していた可能性が指摘される。

表1 下月限C遺跡から産出した昆虫化石

		和名	学名	試料1	試料2	試料3	試料4	試料5	小計
水生	食肉性	ゲンゴロウ科	Dytiscidea		E 1			A 1	2
		ヒメゲンゴロウ亜科	Colymbetinae			E 1	T 1		2
	食植性	ガムシ科	Hydrophilidae	A 1					1
		ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> Motschulsky		H 1				1
		セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	P1E1	E 1				3
		マメガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i> (Fabricius)		E 1				1
地表性	食糞性	センチコガネ族	Geotrupini		A 1			1	2
		エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.		T 1				1
	食肉・雑食性	オサムシ科	Carabidae	E 1	H1T1	A 1	A 1		5
		ミズゴボミムシ属	<i>Bembidion</i> sp.		P 1				1
		ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	P 1			E 2		3
		ヒラタゴミムシ族	Platynini				E 1		1
		ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae					M 1	1
		ハネカクシ科	Staphylinidae			E 2			2
陸生	食植性	コガネムシ科	Scarabaeidae			E 1			1
		サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.					L 2	2
		アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> Hope					E 1	1
		ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky					H1E3S1	5
		コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> Gyllenhal					E 1	1
		コアオハナムグリ	<i>Oxyctonia jucunda</i> (Faldermann)	E 2					2
		ハムシ科	Chrysomelidae				E 1		1
		ゾウムシ科	Curculidae		A 1			E 1	2
その他		不明甲虫	Coleoptera	A 1					1
		ケラ	<i>Gryllotalpa africana</i> Palisot de Beauvois		L 1				1
		アリ科	Formicidae	T 1	H1A1				3
		双翅目	Diptera			C 1			1
合計				9	13	6	6	12	46

(検出部位凡例)

H(Head): 頭部 An(Antenna): 触角 M(Mandible): 大嚙 S(Scutellum): 小楯板 P(Pronotum): 前胸背板 C(Chrysalis): 蛹殻 E(Elytron): 鞘翅 T(Thorax): 胸部 A(Abdomen): 腹部 L(Leg): 腿関節

文 献

福岡市教育委員会 (2003)、下月隕C遺跡。平成14年度 (2003) 年報、福岡市教育委員会、4-7。

森 勇一 (1994) 昆虫化石による先史～歴史時代における古環境の変遷の復元。第四紀研究、33(5)、331-349。

森 勇一 (1997) 虫が語る日本史—昆虫考古学の現場から。インセクタリウム、34(1)・34(2)、18-23、10-17。

森 勇一 (1999) 昆虫化石よりみた先史～歴史時代の古環境変遷史。国立歴史民俗博物館研究報告第81集「歴博国際シンポジウム論文特集号」、311-342。

図版 1.

下月隕C遺跡から産出した昆虫化石の顕微鏡写真

1. ヒメゲンゴロウ亜科 *Colymbetinae* gen. et sp. indet.
後胸腹板 幅4.2mm (試料4)
2. マメガムシ *Regimbartia attenuata* (Fabricius)
右上翅 長さ3.4mm (試料2)
3. セマルガムシ *Coelostoma stultum* (Walker)
右上翅 長さ3.3mm (試料1)
4. ツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* sp.
右上翅下半部 長さ2.4mm (試料4)
5. ハネカクシ科 *Staphylinidae* gen. et sp. indet.
右上翅 長さ1.8mm (試料3)
6. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschulsky
頭部 長さ2.8mm (試料5)
7. ツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* sp.
右上翅 長さ4.8mm (試料4)
8. コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* Faldermann
右上翅片 長さ2.8mm (試料1)
9. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschulsky
右上翅 長さ4.1mm (試料5)



2. 第8次調査出土動物遺存体について

地区	遺存番号	大分類・小分類	部位名	左右	部分1	板長度	切端	火焼	備考	時代
第1面 E-14区	SD120 R-1	哺乳類ウマ	下顎	右	M1~M3と下顎体	縦線	不明	不明	M3歯冠高4.35cm 遺存不良	中世
第1面 E-14区	SD120 R-1	哺乳類ウマ	下顎	左	P2~M3と下顎体	縦線	不明	不明	M3歯冠高4.6cm 遺存不良	中世
第1面 E-14区	SD120 R-1	哺乳類ウマ	下顎歯1本		小片化				歯冠高3.2cm前後	中世
第1面 F-17区	SD1032 R-2	哺乳類							ヒビアナイト・石山 遺存不良	中世
第2面 F-19区	SK1655 R-1	哺乳類?							遺存不良	古代
第1面 G-17区	SD1032	哺乳類ウシ・ウマ	肩甲骨?		遺存破?		不明	不明	不明	中世

表1 出土動物遺存体一覧

遺構の時期は古代から中世が主体であり、第7次調査では溝から古代の土器片とともに木筒も出土しているため、調査地近隣官衙施設等や官衙が存在した可能性が指摘されている。

獣骨は主に溝から出土した。水洗選別等を行っておらず、溝の掘り下げ時に日に付いた骨を取り上げたものである。調査地点は沖積地で水気が多いため、骨にヒビアナイトが折出して劣化が進んだ状態である。出土した獣骨のうち同定できたのはわずか2点のウマの下顎骨のみである。下顎は右下顎がM1~M3まで(P3らしき歯あり)、左下顎がP1~M3とその部分の下顎体が残っているが下顎体の遺存状態は非常に悪く、解体痕などは観察できない。両側ともM3の歯冠高の計測ができた。左右下顎は重なった状態で出土したと思われる、歯冠高に若干の差はあるが同一個体の可能性が高い。ウマの下顎骨が出土した溝は中世に属する。調査担当者の言では中世の水田面でも牛馬の足跡を見ており、農耕に使役された可能性がある。第7次調査ではウシ・ウマの歯と四肢骨が古代の溝や水田面から出土している。遺体を埋葬・廃棄または祭祀に使用した場所と考えられる。しかし7次調査も今回も解体痕が確認できる状態ではなく、埋葬か廃棄かなど遺体の利用状況は不明である。



001外面



001内面



002側面



002内面

図版1 出土獣骨写真

3. 第8次調査の土壌・自然遺物の分析調査

1. 土壌試料の珪藻分析・花粉分析

1. 試料

試料は、SK1147より採取した試料番号1、2、SK1152より採取した試料番号3-5、SK1157より採取した試料番号6、SK1159より採取した試料番号7、SD818より採取した試料番号8、9、SK1150より採取した試料番号10、11、SK1185より採取した試料番号12、13の、計13点である。

2. 分析方法

(1) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュワックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer & Lange-Bertalot（1986、1988、1991a、1991b）などを参照する。

同定結果は、海～汽水生種、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率4.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai & Watanabe（1995）の環境指標種を参考とする。

(2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリス（無水酢酸9、濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

3. 結果

(1) 珪藻分析

結果を表1、図1に示す。SK1150の試料番号11を除いて、珪藻化石が産出する。各遺構とも完形殻の出現率が約65%と化石の保存状態は比較的に良い。産出分類群数は、合計で25属157分類群である。以下に遺構ごとに珪藻化石群集の特徴を述べる。

- ・SK1147（試料番号1、2）

試料番号1、2は、ともに淡水域に生育する珪藻（以下、水生珪藻とする）が合計で約70%と産出し、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好氣的環境に耐性のある陸生珪藻が約30%産出する。淡水生種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能）の特徴も近似しており、貧塩不定性種（少量の塩分には耐えられる種）、真+好アルカリ性種（pH7.0以上のアルカリ性水域に最もよく生育する種）、流水不定性種（流水域にも止水域にも普通に生育する種）が優占する。主要種の産状は、陸生珪藻に関しては近似するが、水生珪藻は試料ごとに異なっている。試料番号2は、流水不定性の *Gomphonema parvulum* が約20%と多産し、これに次いで同じく流水不定性の *Diploneis parva*, *Eunotia pectinalis* var. *minor*, *Gomphonema pumilum* 等を伴う。このうち、*Eunotia pectinalis* var. *minor* は、沼よりも浅く水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地の環境指標となる沼沢湿地付着生種群である（安藤、1990）。

試料番号1は、とくに多産するものはなく、流水不定性の *Amphora affinis*, *Craticula cuspidata*, *Gomphonema sphaerophorum*, 沼沢湿地付着生種群の *Eunotia pectinalis* var. *minor*, *Pinnularia gibba*, *Pinnularia viridis*, *Gomphonema gracile* 等を伴う。陸生珪藻は、耐乾性の高い陸生珪藻A群の *Hantzschia amphioxys*, *Navicula mutica* 等が多産する。

• SK1152（試料番号3-5）

珪藻化石群集は、試料番号4、5と試料番号3で違いが見られる。試料番号4、5は、陸生珪藻が全体の約80%を占める。陸生珪藻A群の *Hantzschia amphioxys*, *Navicula mutica*, 未区分陸生珪藻の *Pinnularia schoenfelderi*, 水域にも陸域にも生育する陸生珪藻B群の *Pinnularia subcapitata* が10-20%産出する。水生珪藻は、流水不定性で沼沢湿地付着生種群の *Navicula elginensis* 等が産出する。試料番号3は、水生珪藻が約60%産出し、その生態性の特徴はSK1147に近似する。主な産出種は、流水不定性の *Pinnularia mesolepta*, 沼沢湿地付着生種群の *Pinnularia gibba*, それに、塩分や塩類を豊富に含む淡水～汽水生種の *Rhopalodia gibberula* 等である。陸生珪藻では、*Hantzschia amphioxys*, *Navicula mutica*, *Pinnularia schoenfelderi* 等が産出する。

• SK1157（試料番号6）、SK1159（試料番号7）

両遺構とも陸生珪藻が優占し、その組成は、SK1152の試料番号4、5に近似する。陸生珪藻A群の *Hantzschia amphioxys*, *Navicula mutica* が優占し、未区分陸生珪藻の *Pinnularia schoenfelderi*, 陸生珪藻B群の *Pinnularia subcapitata* を伴う。

• SK1185（試料番号12、13）

試料番号12と13で群集が異なる。試料番号13は、水生珪藻が優占する。その生態性の特徴としては、貧塩不定性種、真+好アルカリ性種、真+好止水性種が優占あるいは多産する。主要種は、淡水浮遊性で湖沼沼沢湿地指標種群の *Aulacoseira ambigua*, 偶来性浮遊性種（普段は、水生植物などに付着して生育しているが、波等の物理的な影響を受けて基物から剝離した後は浮遊生活を営む種）の *Fragilaria construens*, その変種の *Fragilaria construens* fo. *venter*, 流水不定性の *Amphora affinis* が産出する。これに対して、試料番号12は、水生珪藻は少なく *Hantzschia amphioxys*, *Navicula mutica*, *Pinnularia borealis* 等の陸生珪藻A群が多産する。

• SD818（試料番号8、9）

水生珪藻が全体の約90%と優占する。生態性の特徴や主要種の産状は、前述のSK1185の試料番号13に近似する。湖沼沼沢湿地指標種群の *Aulacoseira ambigua*, 偶来性浮遊性種の *Fragilaria construens*, *Fragilaria construens* fo. *venter*, 流水不定性の *Amphora affinis*, 流水不定性で沼沢湿地付着生種群の *Eunotia incisa*, *Eunotia pectinalis* var. *minor* が産出する。なお、低率であったが流水

表 1. 珪藻分析結果(2)

種 属	出 産 性		種別数(個体)											
	胎分	pH	1147	SK	1182	SK	1137	SK	1159	SK	SD	SK	SK	SK
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogk-ind	ind	2	2	1	2	1	2	1	1	7	7	1	4
<i>Diploneis parva</i> Cleve	Ogk-ind	ind	4	5	1	1	1	1	1	10	3	1	2	7
<i>Diploneis yatakeana</i> Horikawa et Okuno	Ogk-ind	ind	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Eunodia acuta</i> Ehrenberg	Ogk-hob	r-ph	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1
<i>Eunodia bilamaria</i> (Str.) Millis	ac-h	ind	6	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Eunodia formosa</i> Ehrenberg	ac-h	r-ph	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Eunodia implicata</i> Nopel & Lange-Bertalot	Ogk-hob	ind	3	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1
<i>Eunodia incisa</i> W. Smith ex Gregory	Ogk-hob	ind	0	2	1	1	1	1	2	10	1	1	1	1
<i>Eunodia monodonta</i> var. <i>subulica</i> Skvortzov	Ogk-hob	ind	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Eunodia pectinata</i> var. <i>minor</i> (Kuetzing) Reichenow	Ogk-hob	ind	14	8	1	1	1	1	3	13	1	1	5	4
<i>Eunodia pectinata</i> var. <i>subulica</i> (Rich.) Reichenow	Ogk-hob	ind	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1
<i>Eunodia pectinata</i> var. <i>ventralis</i> (Rich.) Hustvedt	Ogk-hob	ac-h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Eunodia praeputata</i> Ehrenberg	Ogk-hob	r-ph	1	1	1	1	1	1	1	4	1	1	3	1
<i>Eunodia praeputata</i> var. <i>hidens</i> Grunow	Ogk-hob	r-ph	1	3	1	1	1	1	3	1	5	8	2	2
<i>Eunodia sp.</i>	Ogk-unk	unk	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria capricornis</i> var. <i>gracilis</i> (Oestr.) Hustvedt	Ogk-ind	al-h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria contracta</i> (Str.) Grunow	Ogk-ind	al-h	1	1	1	1	1	1	1	10	1	1	1	14
<i>Fragilaria contracta</i> f. <i>ventris</i> (Str.) Hustvedt	Ogk-ind	al-h	2	2	1	1	1	1	1	13	5	1	1	25
<i>Fragilaria exiguus</i> Grunow	Ogk-hob	r-ph	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.) Petersen	Ogk-ind	r-ph	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>saxicola</i> (Bab.) De Toni	Ogk-hob	ac-h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait.) De Toni	Ogk-ind	ind	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1
<i>Frustulia wintholdi</i> Hustvedt	Ogk-ind	al-h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogk-ind	ind	1	1	1	1	1	1	3	4	1	1	1	1
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Reichenow	Ogk-ind	al-h	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1
<i>Gomphonema angustatum</i> var. <i>linnæi</i> Hustvedt	Ogk-ind	ac-h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema angustatum</i> var. <i>linnæi</i> Hustvedt	Ogk-ind	ind	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema angustatum</i> var. <i>gustavi</i> V. Heurck	Ogk-ind	ind	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1
<i>Gomphonema contractum</i> Lange-B. & Reichenow	Ogk-ind	al-h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogk-hob	r-ph	9	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2
<i>Gomphonema heterocum</i> Brun	Ogk-unk	ind	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzing	Ogk-ind	ind	6	17	3	1	1	1	3	2	4	1	3	3
<i>Gomphonema pseudoparvulum</i> H. Kuetzing	Ogk-ind	al-h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema penillium</i> (Grun.) Reichenow & Lange-Bertalot	Ogk-ind	al-h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema spirophorum</i> Ehrenberg	Ogk-ind	al-h	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gomphonema subtile</i> Ehrenberg	Ogk-ind	al-h	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Gyrodigma procerum</i> Hustvedt	Ogk-ind	al-h	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1

表1. 建群分析結果稿

種 類	遺 体		種 群 標 本 数											
	遺 体	遺 体	SK	1147	SK	1150	SK	1157	SK	1160	SK	1180	SK	SK
<i>Prunella borealis</i> var. <i>linearis</i> M. Per.	ind	ind	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
<i>Prunella britannica</i> (Goult) Mills	Ogh-tub	ind				1								
<i>Prunella britannica</i> (Goult) Mills	Ogh-tub	f-ph		1	1						1			
<i>Prunella britannica</i> (Goult) (Babington)	Ogh-mid	ind	1											
<i>Prunella brevicornata</i> Clave	Ogh-ind	ind		1							1			1
<i>Prunella cornuta</i> Ehrh. & Carter	Ogh-urk	unk												
<i>Prunella divergens</i> W. Smith	Ogh-tub	ac-II			1						1	3	4	
<i>Prunella divergens</i> var. <i>dimorpha</i> (Goult) Kranner	Ogh-tub	ac-II												
<i>Prunella glabra</i> Ehrenberg	Ogh-mid	ind	8	13						5	11			1
<i>Prunella glabra</i> var. <i>linearis</i> (Hultak)	Ogh-tub	ac-II	4	2										
<i>Prunella hemiptera</i> (Goult) Clave	Ogh-tub	ind	2	2							1			
<i>Prunella hemiptera</i> Mills	Ogh-tub	ac-II												1
<i>Prunella lentilina</i> Clave	Ogh-mid	ind												1
<i>Prunella maculata</i> (Ehr.) Clave	Ogh-tub	ac-II								1				
<i>Prunella mesolepta</i> (Ehr.) W. Smith	Ogh-mid	ind		27	4	3				1				1
<i>Prunella microcarpa</i> (Ehr.) Clave	Ogh-mid	ac-II		1	2	2								
<i>Prunella monnageri</i> Kranner	Ogh-mid	ac-II			1									
<i>Prunella obscura</i> Kranner	Ogh-mid	ind			1	2	1		1					1
<i>Prunella ovulata</i> Hultak	Ogh-tub	ac-II	3											1
<i>Prunella rupestris</i> Hultak	Ogh-tub	ac-II		1										1
<i>Prunella rupestris</i> var. <i>curvata</i> Kranner	Ogh-tub	ac-II								2	1			
<i>Prunella subopifera</i> Kranner	Ogh-mid	ind			12	36	28	6	24					1
<i>Prunella stricta</i> (Hult.) Kranner	Ogh-mid	ind			8					2	2			2
<i>Prunella subopifera</i> (Goult) Clave	Ogh-mid	ac-II		1	1									
<i>Prunella subopifera</i> var. <i>fulvifolia</i> (Port.) Hultak	Ogh-tub	ac-II		2										
<i>Prunella subopifera</i> var. <i>fulvifolia</i> (Port.) Hultak	Ogh-mid	ind		8	20	19	6	15						2
<i>Prunella subopifera</i> var. <i>pauciflora</i> (Goult) Clave	Ogh-mid	ac-II		1	2	1	2							
<i>Prunella subopifera</i> Kranner	Ogh-tub	ac-II			1									
<i>Prunella subopifera</i> Hultak	Ogh-tub	ac-II		1	5									
<i>Prunella suevo-Slovenica</i>	Ogh-tub	ac-II								2	1			1
<i>Prunella virentissima</i> Kranner	Ogh-mid	ind								1				1
<i>Prunella viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-mid	ind	8	1	4					1	4			3
<i>Prunella viridis</i> var. <i>dimorpha</i> A. Meyer	Ogh-mid	ind			7	1								
<i>Prunella</i> sp.	Ogh-urk	unk		1	3							14	6	
<i>Seligsonia americana</i> (Ehr.) Merr	Ogh-mid	ac-II								1				
<i>Seligsonia bacillum</i> (Ehr.) Merr	Ogh-mid	ac-II		1										2
<i>Seligsonia laevissima</i> (Goult) Merr	Ogh-mid	ind												1
<i>Seligsonia papula</i> (Goult) Mieszkowsky	Ogh-mid	ind			2					4	3			2

表 1. 珪藻分析結果(3)

種 属	生 態 性		珪藻形態	SK	SK	SK	SK	SK	SK	SK	SK					
	水分	pH														
<i>Stauroneis acuta</i> W. Smith	Ogh-ind	at-ph		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
<i>Stauroneis arceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	T	-	1	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1
<i>Stauroneis brundis</i> (Grun.) Cleve	Ogh-unk	unk		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Stauroneis brigandii</i> Parfick	Ogh-ind	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Stauroneis legrumii</i> var. <i>affinitas</i> H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Stauroneis legrumii</i> var. <i>nipponea</i> (Skv.) K. Kobayasi	Ogh-hob	ac-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Stauroneis obesa</i> Lagerstedt	Ogh-ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	RB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	O	1	-	4	1	-	-	3	4	-	-	-	-	1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> fo. <i>hatsudai</i> Tsuzumura	Ogh-ind	ind	O	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	4
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>signata</i> Melitzer	Ogh-ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Stauroneis umihiki</i> Grunow	Ogh-ind	at-ph	U	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis tenera</i> Hustedt	Ogh-ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis spp.</i>	Ogh-unk	unk	RB	1	-	-	9	1	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Savillea linearis</i> W. Smith	Ogh-ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stradella ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	at-ph	U	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
海水生種				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水-汽水生種				1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種				0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
淡水-汽水生種				4	4	10	8	11	6	3	14	12	6	0	3	12
淡水生種				185	102	194	192	186	125	148	187	192	91	30	100	188
珪藻化石種数				200	106	204	210	201	138	182	201	204	100	30	109	200

凡例

凡例：塩分濃度に対する適応性

Rub-Meh：海水生種-汽水生種

Meh：汽水生種

Ogh-Meh：海水-汽水生種

Ogh-hil：真塩好適性種

Ogh-ind：真塩不定性種

Ogh-hob：真塩好適性種

Ogh-unk：真塩不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性

at-ph：真アルカリ性種

at-il：好アルカリ性種

ind：pH不定性種

ac-il：好酸性種

ac-bl：真酸性種

unk：pH不明種

C. R.：流水に対する適応性

l-bl：真止水性種

l-ph：好止水性種

ind：流水不定性種

r-ph：好流水性種

r-bl：真流水性種

unk：流水不明種

種名出典

C1：海水生種採集地 (小沢, 1985)

K：中-下流尾川(物産地, M：湖沼採集地, N：湖沼採集地付着種, O：湖沼採集付着種 (以上は安藤, 1980))

S：砂分富集種, T：北流好適性種, U：好清水性種 (以上はAsai and Watanabe, 1985)

R：肥水自属 (GA：A群, RB：B群, RI：未区分, 伊藤・藤野, 1971)

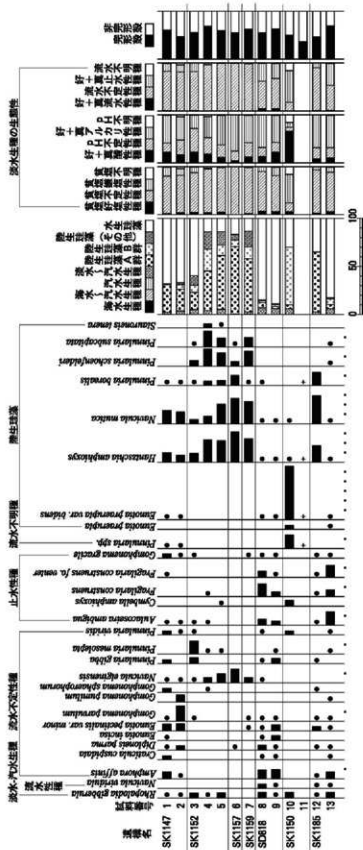


図1. 主要硅藻化石群集

淡水・汽水・淡水性種は全体数、各標本出率・各標本出率は全体数、淡水性種の比率は淡水性種の合計を基準として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された材料について示す。なお、●は4%未満、+は100個体未満の材料について検出した個数を示す。

性で中～下流性河川指標種群の *Navicula viridula* が産出する。中～下流性河川指標種群とは、河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現する種群である(安藤, 1990)。

・SK1150 (試料番号10, 11)

珪藻化石が産出した試料番号10は、陸生珪藻B群であり沼沢湿地付着生種群でもある *Eunotia praerupta* var. *bidens* が約60%産出し、同じく沼沢湿地付着生種群の *Eunotia praerupta*, *Pinnularia viridis* 等を伴う。

(2) 花粉分析

結果を表2、図2に示す。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するととどめておく。花粉化石の産出状況は全体的に良好で、試料番号12のみ定量解析が行えるだけの個体数を得ることができなかった。いずれの試料においても草本花粉の割合が高く、花粉化石群集は大きく3つに分けられる。

SK1147-SK1159 (試料番号1-7) をみると、木本花粉ではコナラ属アカガシ亜属が多産し、次いでマツ属、シイノキ属も多く認められる。その他ではスギ属、クマシデ属-アサダ属、コナラ属コナラ亜属、エノキ属-ムクノキ属、ブドウ属などを伴う。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科などを伴う。また、わずかではあるが、ガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミウアオイ属、ツリフネソウ属、サンショウモなどの水湿地生に由来する花粉・胞子も検出される。

SD818, SK1150, SK1185 (試料番号8-11) をみると、木本花粉ではアカガシ亜属が多産し、マツ属などを伴い、前述のSK地点と類似するが、シイノキ属の産出が少ない。その他の種類では、スギ属、クマシデ属-アサダ属、コナラ属、エノキ属-ムクノキ属などが認められる。草本花粉はイネ科が多産し、カヤツリグサ科などを伴う点でSK地点と類似するが、ヨモギ属の占める割合が低い。また、アブラナ科、キク亜科、タンポポ亜科なども少ない。また、ガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ヒシ属、ミズユキノシタ属、ゴキヅル属、サンショウモ、アカウキクサ属などの、水湿地生植物の種類数・検出量が多くなる。

SK1185の試料番号13をみると、木本花粉はシイノキ属が多産する点で他のSK遺構と類似した群集を示すが、草本花粉はアブラナ科、ヨモギ属キク亜科、タンポポ亜科などの産出が少ない点からSD, SX遺構と類似する。

4. 考察

(1) 珪藻分析からみた堆積環境

・土坑の堆積環境

土坑については、SK1147, SK1152, SK1157, SK1159, SK1185について珪藻分析を行った結果、何れも陸生珪藻と水生珪藻とが混在していた。その割合は、土坑や採取された層によって異なっている。

SK1152の試料番号4、5、SK1157の試料番号6、SK1159の試料番号7、SK1185の試料番号12では、陸生珪藻が優占していた。とくに、陸生珪藻A群が多く産出することから、土坑内の埋積土は水成堆積したのではなく好気的環境で徐々に堆積したことが推定される。これは、花粉分析の結果で土坑内からアブラナ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科など乾いた環境に生育する人里植物が多く認められることも調和的である。

表2. 花粉分析結果

種 類	SK147		SK150			SK 1157	SK 1159	SORB		SK150		SK156	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
木本花粉													
ツバキ属	3	2	2	-	3	2	5	3	-	-	9	-	1
モミ属	3	2	5	2	2	2	2	3	3	7	7	1	-
ツグミ属	1	-	1	1	3	1	1	-	1	5	3	-	1
トウヒ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
トウヒ属群聚型産果	15	11	-	3	6	3	3	74	30	41	25	-	11
マツ属(不明)	7	27	50	24	35	25	31	13	12	14	8	-	7
コウヤマキ属	1	1	1	-	-	2	-	2	2	-	2	-	-
スギ属	5	14	1	4	5	3	3	12	6	9	12	1	5
イナビ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1	-	1	1	-	-	-	2	-	1	1	-	3
マツウ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤマキ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヤマキ属	3	4	4	3	1	-	1	4	5	4	2	-	4
クルミ属	1	-	1	1	-	1	-	1	1	-	-	-	-
タマシロ属-アサゲ属	7	3	3	2	4	1	-	1	5	2	6	-	4
カバノキ属	-	-	-	2	1	-	-	1	1	-	-	-	-
ハンノキ属	-	2	2	1	-	1	-	1	1	-	1	-	3
ブナ属	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
コナラ属コナラ産果	11	13	5	4	7	10	4	8	17	13	15	-	12
コナラ属アカガシ産果	100	84	93	94	39	32	40	105	121	72	89	5	137
クワ属	1	1	1	-	1	2	2	1	1	1	1	-	3
セイヨウキ属	32	30	35	15	27	25	34	5	14	5	9	1	42
ニレ属-ケヤキ属	1	1	-	2	1	-	-	-	-	-	1	-	1
ニホキ属-ムクノキ属	8	6	5	1	1	1	1	4	5	4	12	-	7
ヤドリギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イスノキ属	1	1	2	-	1	1	-	-	9	5	2	-	2
ヤナギ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ユズリハ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
アカメガシワ属	-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-	-	1
シラキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ウルシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
モククワ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
カビダ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
トナリノ木属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	-	9	2	3	7	4	1	1	-	4	-	-	-
ノブドウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	3	-	-
クニ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ワコウ科	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ハイノキ属	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ユズノ木属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ライカカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
蕨類													
基本花粉													
ギョウモ属	2	-	-	1	-	-	1	-	2	1	-	-	2
ナゾモガカ属	-	1	-	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
オモダ属	1	-	-	1	1	-	-	1	6	-	-	-	5
イネ科	225	135	250	271	157	134	130	303	304	280	245	8	222
カヤツグダナ科	44	31	31	17	29	23	24	34	70	22	38	-	47
イボウ科	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-
フユクノ木属	1	2	4	1	2	1	1	-	1	7	1	1	1
ミズアオイ属	1	-	-	-	-	-	-	5	15	2	-	-	9
クリ科	10	17	3	-	2	3	10	-	2	1	-	-	5
桜科シダ属	6	4	6	5	1	-	-	2	1	5	4	-	-
ササユズ科-ウナギツカミ属	-	6	-	-	2	1	1	2	5	4	21	-	2
アサギ科	9	9	3	2	2	4	3	-	-	-	4	1	1
ナツシコ科	4	2	2	2	2	1	3	-	1	-	1	-	-
キンボウゲ科	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
アララギ科	5	14	12	9	11	14	47	-	-	2	10	-	-
プレモコ属	1	3	-	1	2	1	-	-	-	3	-	-	-
ハコ属	1	-	-	2	7	6	-	-	-	-	4	-	-
ソウマシ属	-	-	4	2	2	4	1	-	-	1	-	-	-
ノアズキ属	-	-	13	7	15	7	4	-	-	1	-	-	-
マメ科	6	4	-	1	1	2	1	-	1	-	2	-	2
フナフネツク属	3	1	-	1	1	2	1	-	-	-	-	-	-
ミソハシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ヒシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ミズユキノシタ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ヤリ属	3	3	8	7	3	23	9	2	2	25	7	1	2
イタコシラギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
オオノツメ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
オオハコ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヤムシロ属-アカ木属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
オニナシ属	-	-	1	1	-	1	2	-	-	4	3	-	7
ゴギキ属	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-
キョウリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヒモクシ属	29	147	162	130	152	157	172	8	15	15	21	2	22
オナキ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-
キタマツコ	2	13	33	27	41	15	13	-	2	9	16	-	-
オシロイ草科	3	34	23	15	19	17	25	-	3	11	5	-	1
不明花粉	11	8	21	11	10	10	13	-	12	6	9	-	5
シダ類胞子													
ヒメカズカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-
ゼンマイ属	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
イノホシツク属	2	-	-	2	-	3	-	1	2	1	2	-	-
オシロイ草属	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
アカカズカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
ミズユキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
他のシダ類胞子	59	101	313	203	300	252	253	29	45	100	103	7	10
計													
木本花粉	240	213	219	134	140	143	115	342	244	217	215	8	245
基本花粉	352	415	500	515	494	538	493	305	497	376	352	15	300
不明花粉	11	8	21	11	10	10	13	6	12	6	9	0	5
シダ類胞子	62	101	313	203	301	295	253	33	51	164	172	7	20
総計(不明を除く)	634	730	1130	842	925	898	897	643	782	787	779	30	604

一方、SK1147の試料番号1、2、SK1152の試料番号3、SK1185の試料番号13は、水生珪藻が多く産出し、全体の7割以上を占めている。本試料からは、沼沢湿地付着生種群を含む流水不定性種、止水性種、湖沼沼沢湿地指標種群等を含む群集が確認された。優占種がみられないことや生態性の異なる種群が認められることから、いわゆる混合群集の様相を呈しており、周辺および上流部の様々な環境に生育していた珪藻が氾濫等により土坑内に流入・堆積したことが推定される。

・河川跡の堆積環境

SD818の試料番号8、9は、ともに珪藻化石群集が近似しており、中～下流性河川指標種群を含む流水性種、沼沢湿地付着生種群を含む流水不定性種や止水性種、それに湖沼沼沢湿地指標種群等を含むことで特徴付けられた。本試料も混合群集の様相を呈していることから、河川内の流れが緩やかな場所に珪藻化石が集積していることが推定される。本試料の花粉分析では、浮葉植物のヒシ属、抽水植物のオモダカ属、ミズアオイ属、浮水植物のサンショウモ、アカウキサ属などの水生植物が検出されている。珪藻化石の中にも沼沢湿地の示標種が含まれており、周囲にはこれらの水生植物が生育できるような沼沢湿地のような環境が存在したことが推定される。

・不明遺構の堆積環境

SK1150の珪藻化石が産出した試料番号10は、陸生珪藻B群であり沼沢湿地付着生種群でもある *Eunotia praerupta* var. *bidens* が優占することで特徴付けられた。この結果から、本試料は沼沢や湿地のような場所で堆積した土壌と考えられる。なお、珪藻化石の少なかった試料番号11も同じような群集で構成されていたことからすると同じような水域環境が推定される。

これらの遺構については、現地における堆積構造等の観察結果等も含めて堆積環境を検討することが必要である。

(2) 花粉分析からみた古植生

・森林植生

広域の森林植生を反映する木本花粉についてみると、コナラ属アカガシ亜属が多産し、マツ属、シイノキ属なども多く認められる。その他ではスギ属、クマシデ属-アサダ属、コナラ属コナラ亜属、エノキ属-ムクノキ属、ブドウ属などを伴う。この結果は、出土した自然木・流木や柱材・礎板に認められた樹種とも調和的である。このうち、アカガシ亜属、シイノキ属は、暖温帯性常緑広葉樹林（いわゆる照葉樹林）の主要構成要素である。これらのことから、弥生時代の遺跡周辺域はアカガシ亜属を主体とした照葉樹林が成立しており、部分的にスギ属、マキ属、モミ属、ツガ属などの温帯針葉樹が分布し、林縁部などにはイヌノキ属やブドウ属なども生育していたと推測される。また、周辺の那珂川や御笠川などの河畔や自然堤防上には、クマシデ属-アサダ属、コナラ亜属、エノキ属-ムクノキ属などが生育していたと推測される。

比較的多く産出するマツ属のうち、亜属まで同定できたものは全て複雑管束亜属であった。マツ属複雑管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺など他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能である。また、極端な闊樹であり、やせた裸地などでもよく発芽し生育することから、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。マツ属の急増は日本各地で知られており、その原因は自然干渉の結果としての二次林や植林が増加したためとされている（たとえば波田、1987など）。

九州各地の遺跡や沖積平野の花粉分析結果をみると、アカガシ亜属、シイノキ属を主体としていた植生が衰退し、マツ属花粉が急激に増加し始めるのは弥生時代中期～古墳時代（約2000-1500年前）とされている（たとえば Hatanaka, 1985；畑中ほか、1998など）。今回分析対象とされている遺構群は弥生時代とされていることから、得られた花粉化石群集は、マツ属が増加し始めた時期のものである

可能性がある。また、土坑やSK1185でシノキ属の割合が高く、SD818・SK1150でシノキ属の割合が少ない点は、周辺植生への人為干渉の差異を示している可能性があり、若干の時期差を示している可能性が考えられる。

・低地の植生

草本花粉群集組成をみると、いずれの試料もイネ科が多産する。その他の種類では、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科などが検出される。これらは開けた明るい場所を好み、いわゆる「人里植物」を多く含む分類群であることから、遺跡内およびその周囲の草地に生育していたと推測される。また、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ヒシ属、サンショウモ、アカウキクサ属などの水生植物、ガマ属、ツリフネソウ属、ミズユキノシタ属、ゴキツル属などの湿地生植物も検出されることから、周辺域にこれらが生育する水湿地が存在したと推測される。

なお、SK群においてアブラナ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科などの人里植物が多く認められるのに対し、SD818・SK1150ではそれらの草本類が少ない。また、SD818・SK1150の方が、水湿地生植物に由来する花粉・胞子の種類数・個体数が多く認められる。これらのことから、多くのSK遺構周辺では比較的乾いた草地部分の環境を強く反映しており、SD818・SK1150では水湿地の環境を反映していると思われる。これは、遺構周辺の環境が異なっていた、あるいは遺構の利用形態の差により反映する環境が異なっていた可能性がある。

2. 第8次調査出土種実

1. 試料

種実分析は、弥生時代とされる各遺構から採取された土壌25試料（試料番号1～25）と、弥生～中世とされる各遺構から検出された種実単体試料について実施する。各試料の詳細は、結果と共に表3、4に示す。

2. 分析方法

土壌試料は200cc程度を水に一晩浸し、0.5mm目の篩を通して水洗する。篩の残渣と種実単体試料を、4、2、1、0.5mm目の篩を通して粒径別にシャーレに集め、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出する。ただし、種実単体試料は、10式（1000個体）を大幅に越える種実が確認されたため、栽培植物を優先して抽出する。

検出された種実遺体の形態的特徴を、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川、1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか、2000）等と比較し、種類を同定し個数を求めた。微砕片を含み個数の推定が困難である分類群は「+」、数字以上の個数が推定される分類群は「数字+」と表示した。種実単体試料の同定結果は、栽培植物のみの表示にとどめた。

分析後の種実遺体等は、試料別、種類毎にビンに入れ、70%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施す。

3. 結果

分析・同定結果を表3、4に示す。各土壌試料からは、木本6分類群22個、草本31分類群4592個の種実が検出された他に、種類不明の種実、植物のトゲ、炭化材、部位・種類共に不明の植物や炭化物、昆虫遺骸、土器の破片などが確認された（表4）。検出された種実遺体分類群は、草本類主体の種類組成で、栽培植物のイネが369個、メロン類が4個確認された。また、SK1147（No.4）やSK1185（No.25）ではカラムシ属が、SK1152（No.6、7）ではイネが、SD818（No.15,16）ではトウゴクサ

パノオが、SK1150 (No.21、22) ではチドメグサ属やイヌコウジュ属が多量検出されるなど、遺構別における種類組成の差異が認められた。

一方、種実単体試料から同定された栽培植物は、木本2分類群(スモモ、モモ)82個、草本8分類群(イネ、アワヒエ、オオムギ、コムギ、マメ類、エゴマ、メロン類、ヒョウタン類)1255個、計1337個であった(表3(単体栽培のみ))。時代別における検出状況は、第I面の中世とされる遺構からは、モモが3個確認された。第II面では、古代とされる遺構から、モモが19個確認された。古墳時代後期とされる遺構からは、スモモ1個、モモ16個、メロン類1個、ヒョウタン類23個が確認された。第III面の弥生時代とされる遺構からは、スモモ8個、モモ33個、イネ34個、アワヒエ1個、オオムギ1個、コムギ2個、マメ類15個、エゴマ123個、メロン類1054個、ヒョウタン類1個が確認された。

各試料から同定された種実遺体の遺存状況は、栽培植物のイネ、アワヒエ、オオムギ、コムギ、マメ類が炭化している以外は、比較的良好である。以下に、本分析にて同定された種実の形態的特徴などを、木本、草本の順に記す。

<木本>

・ブナ科 (Fagaceae)

果実の破片が検出された。黒褐色。破片の大きさは1.5cm以下。果実表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。着点は灰褐色でざらつく。コナラ属 (*Quercus*) やクリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) と思われる個体がみられる。

・ヤマゲワ (*Morus australis* Poir.) クワ科クワ属

種子が検出された。黄褐色で三角状広倒卵形。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。長さ2.2mm、径1.8mm程度。一辺が鋭利で、基部に爪状の突起を持つ。表面には微細な網目模様がありざらつく。

・マタビ属 (*Actinidia*) マタビ科

種子が検出された。茶褐色、両凸レンズ状楕円体。長さ2mm、幅1mm程度。基部はやや突出し、切形。種皮は硬く、表面には円形・楕円形などの凹点が密布し網目模様をなす。

・スモモ (*Prunus salicina* Lindley) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。レンズ状の広楕円体でやや偏平。径1.5cm、厚さ1cm程度。基部は丸く臍点がある。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線上に齧歯類(ネズミなど)によると考えられる食害痕が認められる個体がみられる。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みが不規則にみられる。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)の完形、半分以下の破片が検出された。灰褐色、広楕円体でやや偏平。先端部はやや尖る。基部は切形で中央部に湾入した臍がある。長さ2.5cm、幅2cm、厚さ1.5cm程度。1本の明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れた個体がみられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。表面が磨耗した個体もみられる。

・キイチゴ属 (*Rubus*) バラ科

核(内果皮)が検出された。淡黄褐色、半円形～三日月形。長さ1.8mm、幅1.5mm程度。腹面方向にやや湾曲する。表面には大きな凹みが分布し網目模様をなす。

・ノブドウ (*Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautv.) ブドウ科ノブドウ属

種子が検出された。灰褐色。広倒卵形、側面観は半広倒卵形で丸みがあり、基部はやや尖る。径4～4.5mm程度。背面にはU字状に開いたさじ状の模様がある。なお、同定根拠となる背面が欠損した破損個体を、ブドウ科 (Vitaceae) にとどめた。

表4. 土層試料の種別分析結果

試料 No.	遺構番号	地区	出土層	備考	cc	g	
1	S4020	土坑	H17	7 ①	150	2579	
2	S4084	土坑	H17	7 ②	300	3065	
3							
4	S4247	土坑	G14	下層	300	3985	
5	S4332	土坑	G20	第1層	300	2712	
6	S4332	土坑	G20	第2層	300	2984	
7	S4332	土坑	G20	第3層	300	2817	
8	S4384	土坑	G20	<65.1 下層	2層	300	2802
9	S4357	土坑	F21		100	1397	
10	S4357	土坑	F21		300	2805	
11	S4380	土坑	F21	第1層下層	1層	300	2801
12	S4385	土坑	H19	<65.1 上層	1層	300	3313
13	S4385	土坑	H19	<65.1 下層	2層	300	3235
14	S3838	溝	F10	<65.1 上層	300	2908	
15	S3838	溝	F10	<65.1 下層	300	3005	
16	S3838	溝	F10	下層	100	1387	
17	S3838	溝	H25/22	下層S区	130	1343	
18	S3838	溝	H20	<65.1 中層	300	2735	
19	S4005	不明遺構	H17		300	3819	
20	S4005	不明遺構	H17		100	1359	
21	S4330	土坑	F10		300	3072	
22	S4330	土坑	F10		187	200	
23	S4330	土坑	F10		300	2429	
24	S4385	土坑	H19	下層	200	3402	
25	S4385	土坑	H19	<65.1 第1層	300	2985	

土層分析結果		土層分析結果	
試料 No.	遺構番号	試料 No.	遺構番号
1	中層	1	中層
2	新石器層	2	新石器層
3	新石器層	3	新石器層
4	新石器層	4	新石器層
5	新石器層	5	新石器層
6	新石器層	6	新石器層
7	新石器層	7	新石器層
8	新石器層	8	新石器層
9	新石器層	9	新石器層
10	新石器層	10	新石器層
11	新石器層	11	新石器層
12	新石器層	12	新石器層
13	新石器層	13	新石器層
14	新石器層	14	新石器層
15	新石器層	15	新石器層
16	新石器層	16	新石器層
17	新石器層	17	新石器層
18	新石器層	18	新石器層
19	新石器層	19	新石器層
20	新石器層	20	新石器層
21	新石器層	21	新石器層
22	新石器層	22	新石器層
23	新石器層	23	新石器層
24	新石器層	24	新石器層
25	新石器層	25	新石器層

＜草本＞

・オモダカ属 (*Sagittaria*) オモダカ科

果実が検出された。淡黄褐色、倒卵形で偏平。径2.5mm程度。果皮は薄く翼状。翼の外形は欠損する。表面は微細な網目が縦方向に並ぶ。果皮は透き通るため、中の種子が透けてみられる。中の種子は茶褐色、倒U字状に曲がった円柱状で偏平。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縦筋が目立つ。

・オモダカ科 (Alismataceae)

種子が検出された。茶褐色、倒U字状に曲がった円柱状で偏平。径1.5mm程度。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縦筋が目立つ。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳と穎(果)が検出された。長楕円形でやや偏平。長さ4~7mm、幅2.5~3mm、厚さ1.5mm程度。胚乳は炭化しており黒色を呈す。基部の一端には胚が脱落した凹部がある。表面はやや平滑で、2~3本の縦溝が確認される。穎(果)は淡褐色、基部に円柱状の特徴的な果実序柄がある。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が規則的に縦列する。

・アワーヒエ (*Setaria itarica* (L.) P. Beauv.-*Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno) イネ科

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。広楕円形でやや偏平。径2mm程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。

・エノコログサ属 (*Setaria*) イネ科

果実が検出された。淡~黄褐色、狭卵形~半偏球体でやや偏平。長さ2.8mm、径1.5mm程度。果皮は薄く柔らかく、表面には微細な網目模様が縦列する。

・オオムギ (*Hordeum vulgale* L.) イネ科オオムギ属

胚乳の破片が検出された。炭化しており黒色を呈す。紡錘状長楕円形で頂部や基部がやや尖る。長さ5mm以上、径2.5mm程度。腹面は1本のやや深く深い縦溝があり、背面基部には胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

・コムギ (*Triticum aestivum* L.) イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。楕円形でオオムギよりも丸みを帯びている。長さ3.8mm、径3mm程度。腹面には1本のやや深く深い縦溝がある。背面基部には胚の痕跡があり、丸く窪む。表面はやや平滑。

・ホタルイ属 (*Scirpus*) カヤツリグサ科

果実が検出された。黒褐色、片凸レンズ状の広倒卵形。長さ2mm、径1.5mm程度。背面はやや高く峻がある。先端部は尖り、基部から伸びる逆刺を持つ髭状の腕が残る。表面は光沢があり、不規則な波状の横皺状模様が発達する。

・カヤツリグサ科 (Cyperaceae)

果実が検出された。ホタルイ属以外の形態上差異のある複数の種を一括した。淡~黒褐色。三稜またはレンズ状倒卵形。径1~1.5mm程度。頂部の柱頭部分がわずかに伸びる。表面には微細な網目模様がありざらつく。スゲ属 (*Carex*) と思われる個体を含む。

・イボクサ (*Aneilema keisak* Hassk.) ツクサ科イボクサ属

種子が検出された。灰褐色、半横長楕円形。径1.5mm程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。臍は線形で腹面の正中線上にあり、胚は一面面の浅い円形の凹みに存在する。種皮は柔らかく、表面は円形の小孔が多数存在する。

・ミズアオイ属 (*Monochoria*) ミズアオイ科

種子が検出された。淡褐色、楕円体。長さ1mm、径0.6mm程度。種皮は薄く透き通り、柔らかい。表面には縦に10本程度の隆起があり、隆起の間には横方向の密な隆線が配列する。

・カラムシ属 (*Boehmeria*) イラクサ科

果実が検出された。淡黄褐色、非対称な広倒卵形で偏平。径1.2mm程度。先端部や基部は尖り、中央部は両凸レンズ形。果皮は薄く表面はざらつく。

・カラムシ属 (*Boehmeria*) イラクサ科

果実が検出された。淡黄褐色、非対称な広倒卵形で偏平。径1.8mm程度。先端部や基部は尖り、中央部は両凸レンズ形。果皮は薄く表面はざらつく。

・カナムグラ (*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.) クワ科カラハナソウ属

種子が検出された。灰褐色、側面観は円形、上面観は両凸レンズ形。径4mm、厚さ1mm程度。頂部はやや尖り、縦方向に一周する稜に沿って半分に割れた個体がみられる。基部には淡黄褐色でハート形の臍点がある。種皮は薄く、表面は粗面。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実が検出された。形態上差異のある複数の種を一括した。黒色、丸みのある三稜状卵形で長さ2mm、径1.5mm程度、表面はやや平滑で光沢が強い、ハナタデ (*Polygonum caespitosum* Blume subsp. *yokusaianum* (Makino) Danser) またはイヌタデ (*Polygonum longisetum* De Bruyn) と思われる個体などがみられる。

・アカザ科 (Chenopodiaceae)

種子が検出された。黒色、円盤状でやや偏平。径1.2mm程度。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が同心円状に配列し、光沢が強い。

・ナデシコ科 (Caryophyllaceae)

種子が検出された。茶褐色、腎状円形でやや偏平。径1mm程度。基部は凹み、臍がある。種皮は薄く柔らかい。種皮表面には、臍を取り囲むように瘤状突起が同心円状に配列する。

・トウゴクサバノオ (*Isopyrum trachyspermum* Maxim.) キンボウゲ科シロカネソウ属

種子が検出された。淡褐色、球体。径0.7mm程度。種皮は薄く、表面には小突起が密布しざらつく。

・タガラシ (*Ranunculus sceleratus* L.) キンボウゲ科キンボウゲ属

果実が検出された。広倒卵形～広楕円形でやや偏平。径1mm、厚さ0.5mm程度。縁は黄白色のスポンジ状で、中心部はやや凹み淡黄褐色で平滑。水に浮きやすい。

・キンボウゲ属 (*Ranunculus*) キンボウゲ科

果実が検出された。淡黄褐色、非対称な広倒卵形で偏平。径1.8mm、厚さ0.5mm程度。先端部や基部は尖り、中央部は両凸レンズ形。果皮は薄くスポンジ状で表面はざらつく。

・アブラナ科 (Cruciferae)

種子が検出された。赤褐色、楕円形で偏平。長さ1mm、幅0.7mm程度。基部は切形で、両面の同一側には臍点から頂部へ伸びる1個の浅い溝がある。種子表面には微細な網目模様がある。

・キジムシロ属～ヘビイチゴ属～オランダイチゴ属 (*Potentilla-Duchesnea-Fragaria*) バラ科

核 (内果皮) が検出された。灰褐色、腎形でやや偏平。径1mm程度。内果皮は厚く硬く、表面は粗面で、数個の隆条が斜上する。

・マメ類 (Leguminosae) マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色を呈す。長楕円形で長さ4.5～5mm、径3.5mm程度。2枚からなる子葉の合わせ目上に長楕円形の臍がある。種皮表面はやや平滑で光沢があるが、焼け膨れ、崩

れている個体がみられる。遺跡出土の炭化マメ類について、子葉内面の幼痕や初生葉の形態から、ササゲ、アズキ、リョクトウなどを判別する試みが行われている(吉崎、1992)。一方、野生種との雑種も多いため、形態のみから現在の特定の種類に比定することは難しいとも考えられている(南木、1991;南木・中川、2000など)。また、最近では、DNA分析による判別が開発されつつある(矢野、2002)。今回検出されたマメ類は、遺存状態が悪いため、現時点では形態のみによる種類の特定は控え、今後の資料の蓄積を待ち検討したいと考える。

・カタバミ属 (*Oxalis*) カタバミ科

種子が検出された。黒褐色、倒卵形で偏平。長さ1.2mm、幅0.8mm程度。基部はやや尖る。種皮は薄く柔らかく、縦方向に裂けやすい。表面には4~7列の肋骨状横隆条が並び、わらじ状を呈す。

・エノキグサ (*Acalypha australis* L.) トウダイグサ科エノキグサ属

種子が検出された。黒褐色、倒卵形で長さ1.7mm、径1.2mm程度。基部はやや尖り、Y字状の筋がある。種皮は薄く硬く、表面は細かい粒状の凹みが密布しざらつく。

・コミカンソウ属 (*Phyllanthus*) トウダイグサ科

種子が検出された。淡~茶褐色、半広倒卵形。径1.2mm程度。背面は丸みを帯び、腹面の正中線は稜状。正中線の一端に臍がある。

・スマレ属 (*Viola*) スマレ科

種子が検出された。淡灰褐色、広倒卵形。径1.2mm程度。基部は尖りやや湾曲する。頂部は円形の臍点がある。表面には縦方向に走る1本の縫合線がある。種皮は薄く、種皮表面は細い縦筋が走りざらつく。種皮内面は横長の細胞が配列する。

・チドメグサ属 (*Hydrocotyle*) セリ科

果実が検出された。淡~黄褐色、半月形でやや偏平。径1mm程度。一端には太い柄があり、合生面は平坦。果皮は厚く、やや弾力がある。表面には1本の明瞭な円弧状の稜がある。

・セリ科 (Umbelliferae)

果実が検出された。黄褐色、狭披針形で偏平。長さ2mm、幅1.5mm程度。果実表面には数本の幅広い稜があり、その間に半透明で茶褐色の油管が配列する。

・サクラソウ科 (Primulaceae)

種子が検出された。茶褐色、倒合形。背面は平らで、楕円状、菱形、円形状などの4~5角形をなす。径1mm程度。腹面は長軸方向に薄くなり稜状で、稜上の中央付近に広線形の臍がある。表面は5~6角形の凹みによる網目模様がある。

・イヌコウジュ属 (*Mosla*) シソ科

果実が検出された。茶褐色、倒広卵形。径1.3mm程度。基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・エゴマ (*Perilla frutescens* (L.) Britt. var. *japonica* Hara) シソ科シソ属

果実が検出された。茶褐色、倒広卵形。径2.6mm程度。基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・メハジキ属 (*Leonurus*) シソ科

果実が検出された。淡灰褐色、広倒被針状六稜体。長さ2.4mm、径1.3mm程度。背面は丸みがあり、腹面の正中線上と左右の縁は稜をなす。基部は舌状。表面はやや平滑。

・キランソウ属 (*Ajuga*) シソ科

果実が検出された。淡褐色、狭楕円形。長さ1.5mm、径0.9mm。基部付近に果実の長さの2/3に達する大きな楕円形の着点痕の孔がある。果皮表面は深い凹みによる網目模様が分布する。

・ナス科 (Solanaceae)

種子が検出された。淡灰褐色、歪な腎臓形で偏平。径1.7mm程度。側面のくびれた部分に臍がある。種皮は薄く柔らかく、表面には星型状の網目模様が臍を中心に同心円状に発達する。

・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ5～8.3mm、幅3～4mm程度。基部に倒「ハ」の字形の凹みがある。表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。完形種子の多くは、藤下(1984)の基準によるマクワ・シロウリ型の中粒種子(長さ6.1～8.0mm)に該当するが、小型の雑草メロン型(長さ6.0mm以下)や、大粒のモルディカメロン型(長さ8.1mm以上)も確認されたことから、複数の品種が含まれている可能性がある。

・ヒョウタン類 (*Lagenaria siceraria* Standl.) ウリ科ヒョウタン属

果実の破片と種子が検出された。茶褐色、果実は、果皮表面はやや平滑で光沢があり、内面はスポンジ状。破片の大きき4cm程度。果皮断面は櫛状で厚さ5mm程度。淡灰褐色。倒皮針形でやや偏平。長さ9.8mm、幅6mm、厚さ2mm程度。頂部はやや角張り、基部に臍と発芽口がある。種皮表面はやや平滑で、両面外縁部の幅広く低い稜にある2本の縫線は不明瞭。

・キク科 (Compositae)

果実が検出された。淡灰褐色、狭倒皮針形でやや偏平。長さ2.5mm、径1.3mm程度。頂部は切形で円形の臍がある。果皮表面には微細な網目があり、ざらつく。

4. 考察

(1) 種実遺体単体試料からみた植物利用

スモモ、モモ、イネ、アワ、オオムギ、コムギ、マメ類、エゴマ、メロン類、ヒョウタン類は、古くから栽培のために渡来した植物である(南木, 1991)。弥生時代、古墳時代後期から確認されたスモモや、弥生時代、古墳時代後期、古代、中世から確認されたモモは、観賞用の他、果実や核の中にある仁(種子)などが食用、薬用等に広く利用される。弥生時代から確認されたイネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギ、マメ類は、胚乳や種子が食用される。弥生時代から確認されたエゴマは、果実が食用や油料に利用される。弥生時代から多量確認されたメロン類は、果実が食用に利用される。弥生時代、古墳時代後期から確認されたヒョウタン類は、果実が食用や容器等に利用される。これらの栽培植物の可食部である種実が、各時代の遺構から検出された状況を考慮すると、当該期の本遺跡周辺域で栽培もしくは持ち込まれ利用されていたことが推定される。

(2) 弥生時代の周辺植生

弥生時代の土壌試料からは、栽培植物のイネの類が多量とメロン類の種子が確認された。同時期の単体試料からもイネの胚乳や多量のメロン類が確認されていることから、本遺跡周辺域で栽培もしくは持ち込まれ利用されていたことが推定される。

栽培植物を除いた種実遺体分類群は、草本類主体の種類構成を示し、これまでに弊社が実施した本遺跡の古代や本遺跡に隣接する井相田D遺跡の縄文時代の分析結果と調和的である。井相田D遺跡では縄文時代の埋没林が確認されており、縄文時代の本遺跡周辺には平地林が広がっていたことが推定されている。縄文時代末には草地が急激に拡大し、稲作が行われ、弥生時代以降は、草地主体で低地林は丘陵地との林縁部や河畔などに限られていたことが推定されている。今回の分析対象である本遺跡の弥生時代の種実遺体分類群においても、これまでの成果を支持する結果となった。

検出された木本類は、高木類のブナ科、ヤマグワや、低木類のキイチゴ属、藤本類のマタタビ属、ノドウなど、林縁部や疎林地など明るい林地に生育する分類群である。多量検出された草本類は、

人里近くに開けた草地を形成する、いわゆる人里植物に属する種類を多く含むことから、調査区付近や上述の木本類が生育していた明るい林地などに生育していたものに由来すると思われる。オモダカ属を含むオモダカ科、ホタルイ属の一部、ミズアオイ属、イボクサなどの水生植物や、やや湿ったところに生える種類を含むカヤツリグサ科、タデ属の一部、タガラシ、セリ科などは、栽培植物のイネが共に検出されていることから、稲作に伴う水田雑草に由来する可能性がある。カヤツリグサ科、カラムシ属、カナムグラ、タデ属、アカザ科、ナデシコ科、トウゴクサバナノオ、キンボウゲ属、アブラナ科、キジムシロ属—ヘビイチゴ属—オランダイチゴ属、カタバミ属、エノキグサ、コミカンソウ属、スマレ属、チドメグサ属、セリ科、サクラソウ科、イヌコウジュ属、メハジキ属、ナス科、キク科などは、やや乾いたところに生育していたものに由来すると思われる。

なお、SK1152のイネ、SK1147、SK1185のカラムシ属、SD818のトウゴクサバナノオ、SK1150のチドメグサ属、イヌコウジュ属の多量検出など、遺構別に大きく異なる種類構成は、各遺構の局地的な堆積環境などの性格を反映している可能性がある。

3. 植物遺体分析

1. 試料

試料は、弥生時代・古墳時代・古代の遺構から出土した植物遺体を多量に含む土壌9点（試料番号1-9）である。

2. 分析方法

各試料の土壌を水洗し、残査を实体顕微鏡で観察して植物遺体を抽出する。イネ科の植物遺体が認められた場合、残存部が葉部の場合は灰像分析をする。桿部が残存している場合には横断面の組織観察を実施する。種実遺体および葉が残存していた場合には、それぞれ種実同定と葉同定を行う。木材・炭化材が残存していた場合には樹種同定を実施する。各分析の方法を以下に示す。

(1) 灰像分析

植物遺体を燃焼させ、灰中に含まれている植物珪酸体を含む組織片の形態を観察し、その特徴から種類を同定する。

(2) 桿の観察

剃刀を用いて、試料の横断面の切片を作成し、ガム・クロールで封入し、プレパラートとする。試料が脆い場合には、合成樹脂で包埋し、固化した後にダイヤモンドカッターによる切断と切断面の研磨を行い、プレパラートを作成する。プレパラートは生物顕微鏡で組織を観察する。

(3) 種実同定

上記種実同定と同じ手法を用い、形態的特徴と現生標本の比較から種類を同定する。

(4) 葉同定

葉を1枚ずつ剥離し、各部が破損しないように台紙上に広げる。葉の形態と現生標本の比較から種類を同定する。同定後の葉は乾燥しないように濡れた状態で封入する。

(5) 樹種同定

試料の木口面、柾目面、板目面の切片を作成し、ガム・クロールで封入し、プレパラートとする。プレパラートを生物顕微鏡で観察し、木材組織の特徴から種類を同定する。試料が炭化材の場合には、乾燥させた上で3断面を实体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で観察し、種類を同定する。

3. 結果

各試料からは枝状、葉状等の植物遺体が検出されたが、種実遺体および葉は確認できなかった。枝

状の植物遺体は、木材の枝とイネ科等の桿と考えられるものがあるが、いずれも保存状態が悪く脆い。したがって、分析は樹種同定の手法を用いて、各試料の枝状や葉状の物質の切片を作成し、組織観察からの同定を実施した。試料は、無作為に各試料から5点を選択した。同定結果を表16に示す。同定の結果、広葉樹の枝やシダ類と考えられるものが認められるが、いずれも小片で観察範囲が狭いため、ほとんどは種類の同定に至らなかった。以下に試料毎に観察結果を記す。

・試料番号1

小枝と葉状の繊維が認められる。小枝のうち、径が最も大きく(約5mm)、比較的保存状態の良い1点と、葉状の繊維4点について組織観察を実施した。

小枝は、横断面でほとんどが髄であるが、当年性の木材組織も一部認められる。木材組織は、道管がほぼ単独で散在する散孔材で、穿孔板は階段状となる。放射組織は異性、1-4細胞幅、1-100細胞高以上となり、鞘細胞が認められる。以上の特徴から落葉広葉樹のウツギ属に同定される。

葉状の繊維は、繊維物質は認められるものの切片の作成が不可能である。樹脂に包埋しての切片作成も試みたが、ダイヤモンドカッターによる切断の過程で全て破損し、研磨薄片も作成できなかった。そのため種類については不明である。

・試料番号2

小枝と葉状の繊維が認められる。小枝は試料番号1に比較して小径(2mm程度)のものが多く、比較的保存状態の良い1点と、葉状の繊維4点について組織観察を実施した。

小枝は、横断面でほとんどが髄であるが、当年性の木材組織も一部認められる。木材組織は、小径の道管がほぼ単独で散在しているが、観察範囲が狭く、道管配列の詳細は不明。柎目および板目の切片が作成できず、放射組織の形態等は不明である。そのため、広葉樹であることは明らかであるが、種類の同定には至らない。

葉状の繊維は、試料番号1と同様の物質であり、切片ができなかったため種類の同定には至らない。

・試料番号3

葉状の繊維のみ認められ、枝状の植物遺体は認められない。葉状の繊維のうち、1点は切片が作成できたが、残りの4点は試料番号1と同様の物質で切片が作成できなかった。切片が作成できた1点も縦断面のみの観察で、短冊状の細胞が軸方向に配列する様子が認められる。イネ科等の組織に近いが、種類の同定には至らず草本類とした。

・試料番号4

葉状の繊維のみ認められ、枝状の植物遺体は認められない。葉状の物質は、全て試料番号1と同様の物質で切片が作成できなかったため、種類は不明である。

・試料番号5

微細な木片と葉状の繊維が認められる。木片1点と、葉状の繊維4点について組織観察を実施した。

木片は、横断面で単独の道管が散在し、年輪界に向かって径を漸減させる散孔材。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-20細胞高となる。全体的に保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。

葉状の繊維は、試料番号1と同様の物質であり、切片ができなかったため種類の同定には至らない。

・試料番号6

小枝状と葉状の繊維が認められる。小枝状1点と、葉状の繊維4点について組織観察を実施した。

小枝状は、横断面で繊維細胞を主とし、道管や放射組織が認められない。軸方向の断面では、繊維内にらせん肥厚が認められる。このことから、樹木ではない。組織の特徴はシダ類に似ているが、観察した範囲では特徴が捉えきれず、種類の同定には至らない。本報告ではシダ類?とする。

葉状の繊維は、試料番号1と同様の物質であり、切片ができなかったため種類の同定には至らない。

・試料番号7

小枝と葉状の繊維が認められる。小枝は試料番号1に比較して小径（2mm程度）のものが多く、比較的保存状態の良い1点と、葉状の繊維4点について組織観察を実施した。

小枝は、横断面でほとんどが髄であるが、当年性の木材組織も一部認められる。木材組織は、小径の道管がほぼ単独または2個が放射方向に複合して散在しているが、観察範囲が狭く、道管配列の詳細は不明。柾目および板目の切片が作成できず、放射組織の形態等は不明である。道管配列はアワブキ属に似ているが、当年性であること、観察範囲が狭いこと、放射組織が観察できないことなどから種類の同定には至らない。

葉状の繊維は、試料番号1と同様の物質であり、切片ができなかったため種類の同定には至らない。

・試料番号8

小枝と葉状の繊維が認められる。小枝は試料番号1に比較して小径（2mm程度）のものが多く、比較的保存状態の良い1点と、葉状の繊維4点について組織観察を実施した。

小枝は、切片作成の過程で崩壊したため、破片を封入して観察した。横断面でほとんどが髄であるが、当年性の木材組織も一部認められる。木材組織は、小径の道管がほぼ単独で散在しているが、観察範囲が狭く、道管配列の詳細は不明。柾目および板目の組織がほとんど観察できず、放射組織の形態等は不明である。そのため、広葉樹であることは明らかであるが、種類の同定には至らない。

葉状の繊維は、試料番号1と同様の物質であり、切片ができなかったため種類の同定には至らない。

・試料番号9

小枝と葉状の繊維が認められる。小枝は試料番号1に比較して小径（2mm程度）のものが多く、比較的保存状態の良い1点と、葉状の繊維4点について組織観察を実施した。

小枝は、横断面でほとんどが髄であるが、当年性の木材組織も一部認められる。木材組織は、小径の道管がほぼ単独または2-3個が複合して散在しているが、観察範囲が狭く、道管配列の詳細は不明。柾目および板目の切片が作成できず、放射組織の形態等は不明である。そのため、広葉樹であることは明らかであるが、種類の同定には至らない。

葉状の繊維は、試料番号1と同様の物質であり、切片ができなかったため種類の同定には至らない。

4. 考察

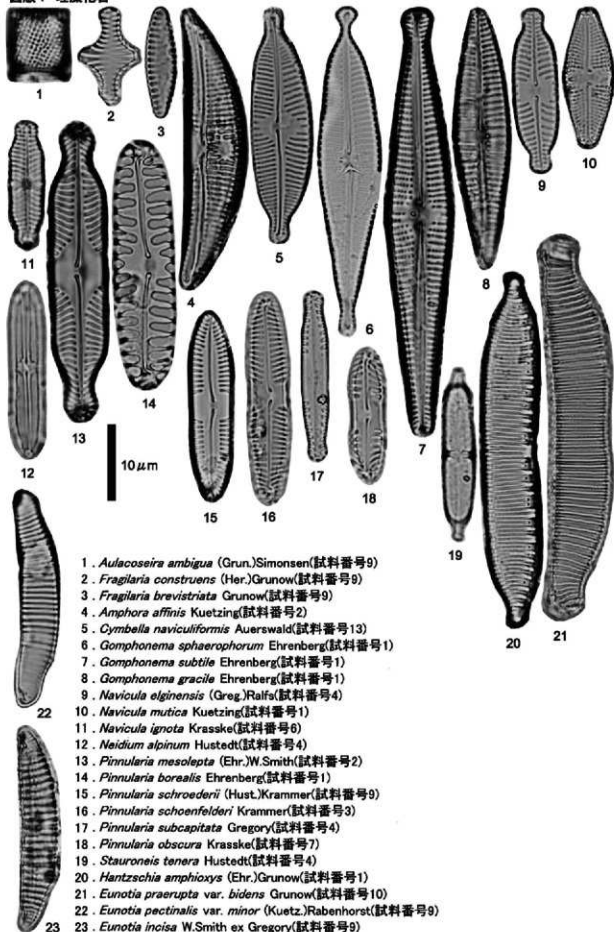
出土した植物遺体は遺跡周辺あるいは上流部に生育していたものが遺跡内に堆積したと考えられる。1点を除いて種類の同定には至らなかったため、どのような植物遺体が堆積したのか詳細は不明である。同定されたウツギ属は、杭材に認められており、木材も利用されていたことが推定される。ウツギ属は、落葉低木で径も太くはならない。日当りのよい場所に普通に生育していることから、低地の河畔等にも生育していた可能性がある。

引用文献

- 安藤 一男、1990、淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理、42、73-88。
 Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, 35-47.
 藤下 典之、1984、出土遺体よりみたり科植物の種類と変遷とその利用法。古文化財の自然科学的研究、古文化財編集委員会編、同朋舎、638-654。
 原口 和夫・三友 清史・小林 弘、1998、埼玉の澤類 珪藻類。埼玉県植物誌、埼玉県教育委員会、527-600。
 橋本 鉄男、1979、ろくろ（ものと人間の文化史31）。法政大学出版局、44p。

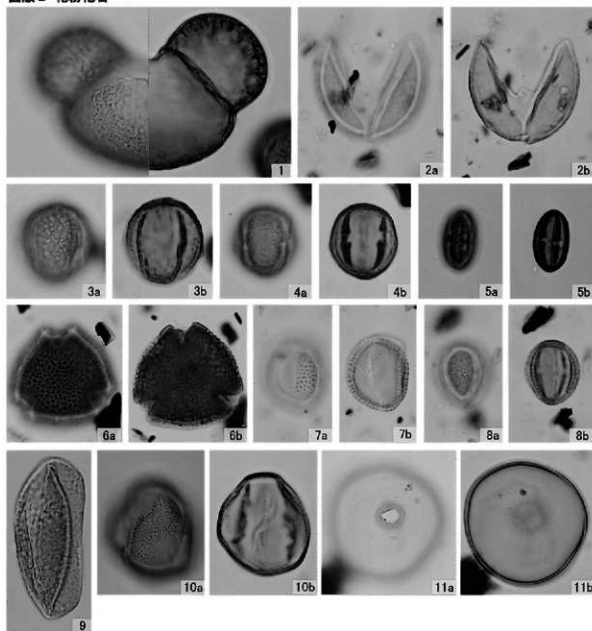
- 波田 善夫、1987、松くい虫被害対策として実施される特別防除が自然生態系に与える影響評価に関する研究—松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の擾乱とその動態について—。資料集、日本自然保護協会、41-49。
- Hatanaka, K., 1985, Palynological studies on the vegetational succession since the Wurm glacial age in Kyushu and adjacent areas. *Journal of the Faculty of Literature, Kitakyushu University*, 18, 29-71.
- 畑中 健一・野井 英明・岩内 明子、1998、九州地方の植生史。安田 喜憲・三好教夫(編著)、図説 日本列島植生史、朝倉書店、151-161。
- 林 弘也・松本 陽、1980、瑞穂遺跡から出土した木製遺物の樹種同定。「瑞穂 福岡市比恵台地遺跡」、日本住宅公団、209-216。
- 石川 茂雄、1994、原色日本植物種子写真図鑑、石川茂雄図鑑刊行委員会、328p。
- 伊藤 良永・堀内 誠示、1991、陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用。珪藻学会誌、6、23-45。
- 小杉 正人、1988、珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用。第四紀研究、27、1-20。
- Krammer, K., 1992, PINNULARIA. eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J. CRAMER, 353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1986, Bacillariophyceae. 1. Teil: Naviculaceae. In: *Suesswasserflora von Mitteleuropa*. Band2/1. Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1988, Bacillariophyceae. 2. Teil: Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. In: *Suesswasserflora von Mitteleuropa*. Band2/2. Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991a, Bacillariophyceae. 3. Teil: Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. In: *Suesswasserflora von Mitteleuropa*. Band2/3. Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991b, Bacillariophyceae. 4. Teil: Achnantheaceae, Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In: *Suesswasserflora von Mitteleuropa*. Band 2/4. Gustav Fischer Verlag, 248p.
- 松本 陽・林 弘也、1979a、門田遺跡谷地区出土の木材片の樹種名について。「山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第11集 春日市大字上白水字門田・辻田所在門田遺跡谷地区の調査」、福岡県教育委員会、159-161。
- 松本 陽・林 弘也、1979b、辻田遺跡から出土した木材試料の樹種同定について。「山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第12集 春日市大字上白水所在辻田遺跡の調査」、福岡県教育委員会、144-155。
- 南木 睦彦、1991、栽培植物、古墳時代の研究 4 生産と流通 I、石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編、雄山閣、165-174。
- 南木 睦彦・中川 治美、2000、大型植物遺体。琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 3-2 粟津湖底遺跡 自然流路(粟津湖底遺跡 III)、滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会、49-112。
- 中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志、2000、日本植物種子図鑑。東北大学出版会、642p。
- 能城 修一・高橋 敦、1996、中・近世における木材利用。第11回植生史学会シンポジウム「中世・近世の植生史」発表要旨、7-11。
- 嶋倉 巳三郎、1976a、木材の材質。「福岡市埋蔵文化財調査報告書第35集 板付 一市営住宅建設にともなう発掘調査報告書1971-1974-」、福岡市教育委員会、67-75。
- 嶋倉 巳三郎、1976b、福岡市鶴町遺跡出土木質遺物の材質調査報告。「福岡市埋蔵文化財調査報告書第37集 福岡市西区大字免 鶴町遺跡」、福岡市教育委員会、63-68。
- 嶋倉 巳三郎、1977、福岡市板付遺跡H-5 地点から出土した木質品の樹種について。「福岡市埋蔵文化財調査報告書第38集 板付周辺遺跡調査報告書(4)」、福岡市教育委員会、111-114。
- 嶋倉 巳三郎、1981、樹種の鑑定。「福岡市埋蔵文化財調査報告書第72集 福岡市博多区 那珂深ヲサ遺跡 I」、福岡市教育委員会、67-70。
- 矢野 梓、2002、遺跡から出土した小型豆のDNA分析、DNA考古学 Newsletter 3。
- 吉崎 昌一、1992、古代雑穀の検出。月刊考古学ジャーナル、No.355、2-14。

圖版1 珪藻化石



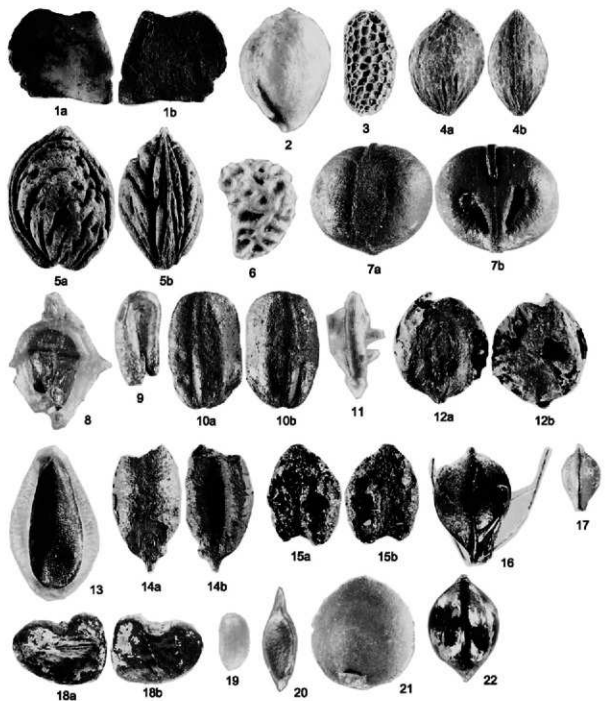
1. *Aulacoseira ambigua* (Grun.) Simonsen (試料番号9)
2. *Fragilaria construens* (Her.) Grunow (試料番号9)
3. *Fragilaria brevistriata* Grunow (試料番号9)
4. *Amphora affinis* Kuetzing (試料番号2)
5. *Cymbella naviculiformis* Auerswald (試料番号13)
6. *Gomphonema sphaerophorum* Ehrenberg (試料番号1)
7. *Gomphonema subtile* Ehrenberg (試料番号1)
8. *Gomphonema gracile* Ehrenberg (試料番号4)
9. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (試料番号4)
10. *Navicula mutica* Kuetzing (試料番号1)
11. *Navicula ignota* Krasske (試料番号6)
12. *Neidium alpinum* Hustedt (試料番号4)
13. *Pinnularia mesolepta* (Ehr.) W. Smith (試料番号2)
14. *Pinnularia borealis* Ehrenberg (試料番号1)
15. *Pinnularia schroederii* (Hust.) Krammer (試料番号9)
16. *Pinnularia schoenfelderi* Krammer (試料番号3)
17. *Pinnularia subcapitata* Gregory (試料番号4)
18. *Pinnularia obscura* Krasske (試料番号7)
19. *Stauroneis tenera* Hustedt (試料番号4)
20. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (試料番号1)
21. *Eunotia praerupta* var. *bidens* Grunow (試料番号10)
22. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst (試料番号9)
23. *Eunotia incisa* W. Smith ex Gregory (試料番号9)

図版2 花粉化石



- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. マツ属複維管束亜属(試料番号8) | 2. スギ属(試料番号5) |
| 3. コナラ亜属(試料番号1) | 4. アカガシ亜属(試料番号1) |
| 5. シイノキ属(試料番号8) | 6. ノズキ属(試料番号3) |
| 7. アブラナ科(試料番号7) | 8. ヨモギ属(試料番号7) |
| 9. ミズアオイ属(試料番号9) | 10. イスノキ属(試料番号9) |
| 11. イネ科(試料番号1) | |

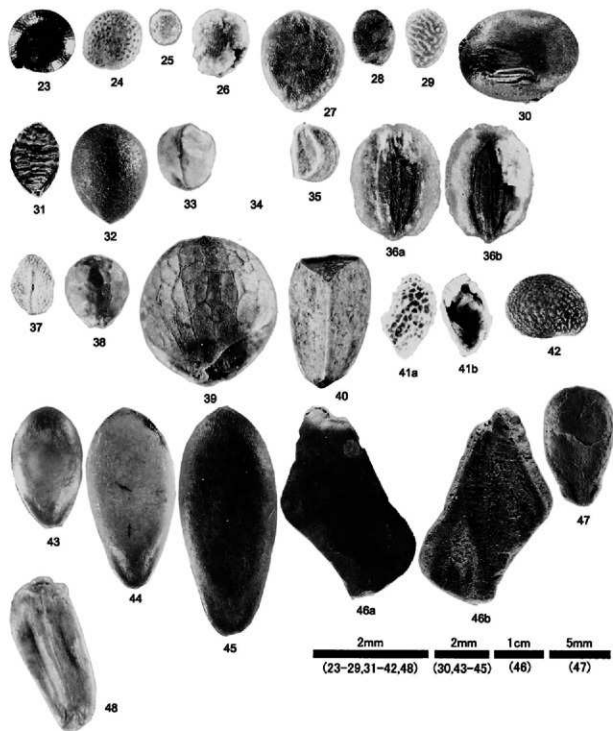
図版3 種実遺体(1)



1cm (1,4) 2mm (2,3,6,8,9,12,13,16-20,22) 2mm (7,10,11,14,15,21) 1cm (5)

- | | | |
|------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 1. ブナ科 果実(土壌No.8) | 2. ヤマグワ 種子(土壌No.3) | 3. マタタビ属 種子(土壌No.19) |
| 4. スモモ 核(第3面単体No.12) | 5. モモ 核(第1面単体No.1) | 6. キイチゴ属 核(土壌No.23) |
| 7. ノドブ 種子(土壌No.21) | 8. オモダカ属 果実(土壌No.15) | 9. オモダカ科 種子(土壌No.17) |
| 10. イネ 胚乳(第3面単体No.41) | 11. イネ 穎(土壌No.6) | 12. アワーヒエ 胚乳(第3面単体No.38) |
| 13. エノコログサ属 果実(土壌No.3) | 14. オオムギ 胚乳(第3面単体No.8) | 15. コムギ 胚乳(第3面単体No.17) |
| 16. ホタルイ属 果実(土壌No.21) | 17. カヤツリグサ科 果実(土壌No.25) | 18. イボクサ 種子(土壌No.3) |
| 19. ミズアオイ属 種子(土壌No.5) | 20. カラムシ属 果実(土壌No.25) | 21. カナムグラ 種子(土壌No.3) |
| 22. タデ属 果実(土壌No.25) | | |

図版4 種実遺体(2)



- | | | |
|---|---------------------------|--------------------------|
| 23. アカザ科 種子(土壌No.9) | 24. ナデシコ科 種子(土壌No.6) | 25. トウゴクサバナオ 種子(土壌No.15) |
| 26. タガラシ 果実(土壌No.15) | 27. キンボウグ属 果実(土壌No.22) | 28. アブラナ科 種子(土壌No.5) |
| 29. キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属 核(土壌No.9) | | 30. マメ類 種子(第3面単体No.12) |
| 31. カタバミ属 種子(土壌No.10) | 32. エノキグサ 種子(土壌No.9) | 33. コミカンソウ属 種子(土壌No.3) |
| 34. スミレ属 種子(土壌No.3) | 35. チドメグサ属 果実(土壌No.21) | 36. セリ科 果実(土壌No.22) |
| 37. サクラソウ科 種子(土壌No.10) | 38. イヌコウジュ属 果実(土壌No.22) | 39. エゴマ 果実(第3面単体No.20) |
| 40. メハジキ属 果実(土壌No.8) | 41. キランソウ属 果実(土壌No.12) | 42. ナス科 種子(土壌No.25) |
| 43. -45. メロン類 種子(第3面単体No.13(43:純草メロン型 44:マクワ・シロウリ型 45:モモルディカメロン型) | | |
| 46. ヒョウタン類 果実(第2面単体No.6) | 47. ヒョウタン類 種子(第2面単体No.10) | 48. キク科 果実(土壌No.25) |

4. 第8次調査出土遺物の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・
Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani

1. はじめに

下月限C遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行った ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲、暦年校正に用いた年代値を、図1に暦年校正結果をそれぞれ示す。暦年校正に用いた年代値は、今後暦年校正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年校正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代（yrBP）の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年校正の詳細は以下の通りである。

暦年校正

暦年校正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（ ^{14}C の半減期5730 \pm 40年）を校正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年校正にはOxCal3.10（校正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年校正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

参考文献

- Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon, 37(2), 425-430.
- Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A), 355-363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代. 3-20.
- Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) Radiocarbon 46, 1029-1058.

表1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-5555	位置: H-16区 遺構: SK1075 その他: No.1	試料の種類: 炭化物・材 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5556	位置: H-17区 遺構: SK1084 その他: No.2	試料の種類: 炭化物・材 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5557	位置: H-17区 遺構: SK1085 その他: No.3	試料の種類: 炭化物・材 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5558	位置: G-14区 遺構: SK1147 層位: 東側第2層下層 その他: No.4	試料の種類: 炭化物・植物遺体 (単子葉類の茎) 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5559	位置: G-14区 遺構: SK1147 層位: W-25 その他: No.5	試料の種類: 炭化物・材 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5560	位置: I-14区 遺構: SP46 その他: No.6	試料の種類: 炭化物・材 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5561	位置: F-12区 遺構: SP351・352 (SB1253) その他: No.7	試料の種類: 炭化物・材 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5562	位置: H-19区 遺構: SP486 その他: No.8	試料の種類: 炭化物・材 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5563	位置: F-19区 遺構: SK1150 その他: No.9	試料の種類: 炭化物・材 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5564	位置: G-20区 遺構: SX1190 その他: No.10	試料の種類: 炭化物・材 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH

表2 放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲		暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
			1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
PLD-5555	-26.76 \pm 0.17	1900 \pm 20	<u>75AD(68.2%)125AD</u>	<u>50AD(95.4%)140AD</u>	1900 \pm 21
PLD-5556	-28.94 \pm 0.15	2400 \pm 20	<u>510BC(54.4%)430BC</u> <u>420BC(13.8%)400BC</u>	<u>720BC(2.9%)690BC</u> <u>540BC(92.5%)390BC</u>	2400 \pm 22
PLD-5557	-30.28 \pm 0.22	2425 \pm 25	<u>540BC(68.2%)410BC</u>	<u>750BC(15.4%)680BC</u> <u>670BC(3.4%)640BC</u> <u>550BC(76.7%)400BC</u>	2427 \pm 23
PLD-5558	-11.13 \pm 0.17	1930 \pm 20	<u>50AD(53.8%)90AD</u> <u>105AD(14.4%)120AD</u>	<u>20AD(95.4%)130AD</u>	1929 \pm 21
PLD-5559	-29.53 \pm 0.16	1865 \pm 20	<u>80AD(55.9%)180AD</u> <u>190AD(12.3%)210AD</u>	<u>80AD(95.4%)220AD</u>	1866 \pm 22
PLD-5560	-31.38 \pm 0.14	1845 \pm 20	<u>125AD(44.3%)180AD</u> <u>185AD(23.9%)215AD</u>	<u>80AD(4.2%)110AD</u> <u>120AD(91.2%)240AD</u>	1846 \pm 22
PLD-5561	-28.47 \pm 0.14	1885 \pm 20	<u>75AD(68.2%)135AD</u>	<u>60AD(95.4%)220AD</u>	1884 \pm 22
PLD-5562	-30.51 \pm 0.19	1830 \pm 20	<u>135AD(54.3%)200AD</u> <u>205AD(13.9%)225AD</u>	<u>120AD(95.4%)240AD</u>	1828 \pm 22
PLD-5563	-31.45 \pm 0.19	1945 \pm 20	<u>25AD(68.2%)80AD</u>	<u>AD(87.2%)90AD</u> <u>100AD(8.2%)130AD</u>	1944 \pm 21
PLD-5564	-31.41 \pm 0.23	1850 \pm 20	<u>125AD(45.0%)180AD</u> <u>185AD(23.2%)215AD</u>	<u>80AD(5.5%)110AD</u> <u>120AD(89.9%)240AD</u>	1848 \pm 22

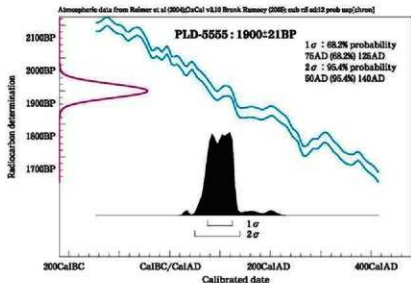


図1-① 暦年校正結果

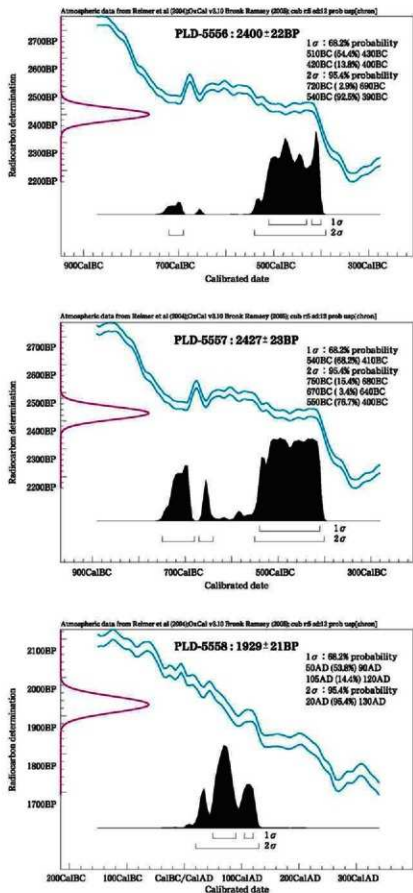


圖 1-② 曆年校正結果

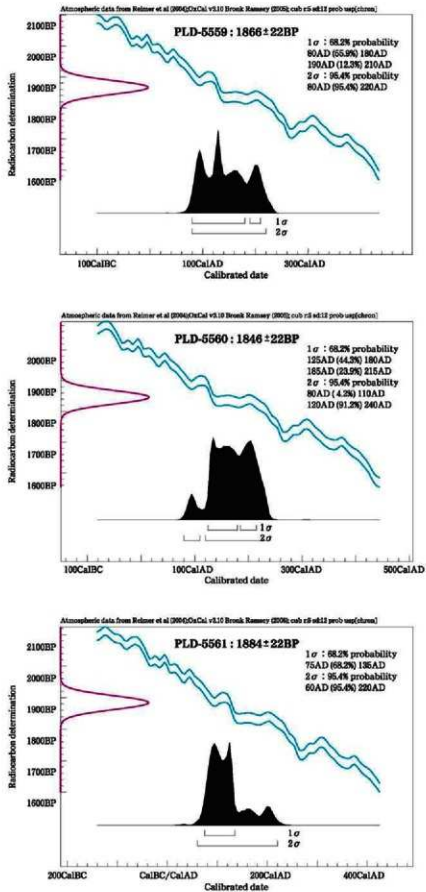


圖 1-③ 曆年校正結果

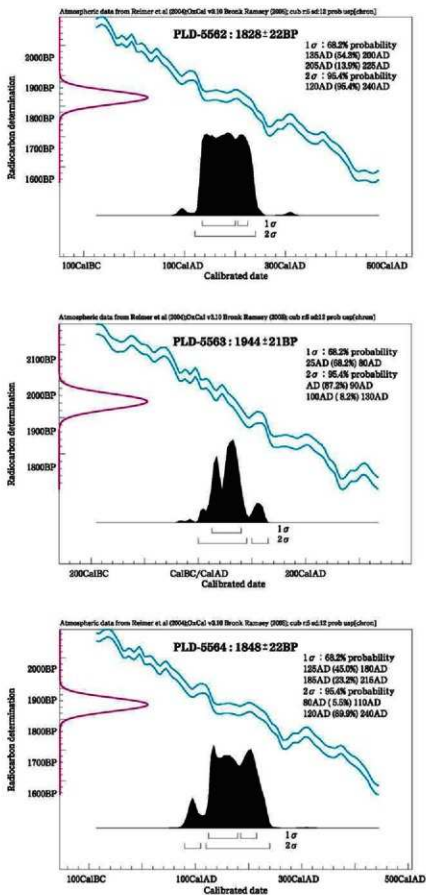


圖 1-④ 曆年校正結果

5. 第8次調査出土木材の樹種分析

1. 試料

当初樹種同定は、合計593点が対象とされていた。しかし、試料採取時の確認でリストにあるが、実際には点数が足りないもの、リストよりも多く遺物があるもの等があり、リスト通りの試料採取ができなかった。また、試料採取時に状態が悪いと判断されたものもあった。このことから、リストよりも多く遺物がある場合には現状を優先して、予定点数よりも多く試料を採取し、予備試料も含めて合計で指定点数より試料が多くなるようにした。最終的には、指定点数よりも5点多い598点について試料を採取した。内訳は、第8次第1面の木器53点、木サンプル20点、第Ⅱ面の木器78点、木サンプル54点、第Ⅲ面の木器307点、木サンプル86点である。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に表1-5に記した。樹種同定用試料は、各木製品から木片を採取したが、完形の板材等については木片の採取が困難であったため直接切片を採取した。なお、第Ⅰ面木器No.12と第Ⅲ面木器No.23は炭化しており、生木部分での試料採取が不可能であったため、炭化した部分を試料とした。

2. 分析方法

木片については、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製する。各切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

炭化材は、乾燥させた後、3断面の割断面を作成し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表1-5に示す。保存状態が悪いために樹種の同定に至らない試料があった。それらの試料については、観察できた範囲での結果を記した。その他の木材は針葉樹9種類（マツ属複雑管束亜属・モミ属・スギ・ヒノキ・サワラ・ヒノキ科・マキ属・イヌガヤ・カヤ）、広葉樹44種類（ヤナギ属・コナラ属コナラ亜属クスギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ツブラジイ・スタジイ・ムクノキ・エノキ属・ケヤキ・ニレ属・クワ属・シキミ・クスノキ・タブノキ属・クスノキ科・ツバキ属・サカキ・ヒサカキ・ウツギ属・モモ・バクチノキ・サクラ属・カマツカ・バラ科ナシ亜科・ネムノキ・ユズリハ属・キハダ・ムクロジ・アワビキ属・モチノキ属・クストイゲ・ミズキ属・クマノミズキ類・ハリギリ・ジャシャンボ・カキノキ属・タイミンタチバナ・ハインキ属サワフタギ節・トネリコ属・チシャノキ・キリ・ガマズミ属・ツクバネウツギ近似種）とイネ科タケ亜科に同定された。

なお、紙面の都合から樹種同定の部分を削減するよう要望されたため、結果の一覧表と木材組織の記載は割愛した。また、写真図版は、1ページに4図版を縮小して掲載することとした。

4. 考察

(1) 弥生時代中期～古墳時代前期の木材利用

第Ⅲ面の試料が該当し、今回の分析試料中最も多い307点について同定を実施した。木製品は、柱や礎板が多く、他に平鋸、鋸の刃先、農耕具、桶、しゃもじ、脚、用途不明品（加工木製品、不明木製品、板材など）がある。表1～3に第Ⅲ面出土木器の遺構別・器種別種類構成を示す。

柱材と礎板には、針葉樹・広葉樹合わせて29種類が確認された。クリやシノキ属を中心とした広葉樹材の利用が多くみられ、針葉樹の利用は少ない。このことは、第6次調査区の樹種同定結果とも調和的である。最も多くみられたクリは、重硬で強度や耐久性に優れた材質を有する。クリ以外の樹種をみても比較的硬で強度の高い種類が多く、柱材や礎板として強度の高い木材を選択していたことが推定される。これらの木材は、基本的には遺跡周辺に生育していた種類を利用した可能性があるが、栽培種のモモも認められることから、周辺で栽培していた樹木も利用していたことが推定される。今回同定された種類の中には、クスドイゲが2点認められた。クスドイゲは、現在本州（近畿以西）・四国・九州・琉球の海岸近くの林内に生育する常緑低木であり、それほど大きくならないため、柱材として利用できたか疑問が残る。クスドイゲは、遺跡からの出土例も少ないため、現時点では過去の利用状況は不明であり、今後の資料蓄積が必要である。

木製品では、平鋸と鋸の刃先がいずれもアカガシ亜属であった。この結果は、第6次および第7次調査区の樹種同定結果とも調和的である。また、福岡市内でも板付遺跡など多くの遺跡で弥生時代から古墳時代にかけての鋸・鋸類について樹種同定が実施されているが、今回と同様にアカガシ亜属が多い結果が得られている（嶋倉，1976a, 1976b, 1977, 1981；松本・林，1979a, 1979b；林・松本，1980）。アカガシ亜属は、一般に重硬で強度の高い材質を有することから、こうした材質面が利用の背景に考えられる。同じく強度に優れ、柱材などに多く認められるクリやシノキ属が全く利用されていないことから、強度が高い樹種の中でもアカガシ亜属を特に選択していたことが推定される。

槽にはツバキ属が認められた。第7次調査区で出土した槽は全てクスノキであり、今回の結果とは異なる。ツバキ属は、重硬で強度が高く、クスノキに比較すると加工が困難であり、材質的にも大きく異なる。本遺跡では、材質の大きく異なる2種類が槽に利用されていたことになる。

(2) 古墳時代後期～奈良時代の木材利用

第Ⅱ面の試料が該当し、木製品78点について樹種同定を実施した。木製品は、建築材、柱、礎板、鋸、下駄の歯、芥串、曲物等があるが、用途不明の製品も多い。表3に第Ⅱ面木器の器種別種類構成を示す。

合計で22種類が認められ、全体的には広葉樹材の利用が多いが、スギ、ヒノキ、サワラなど、針葉樹類の占める割合が第Ⅲ面よりも高くなる傾向がある。このことは、第6次および第7次調査区の結果とも調和的である。針葉樹類の利用が多くなる背景には、曲物等割裂性を利用して加工する製品が出土するようになり、割裂性が高い針葉樹類が利用されるようになったことを反映していると考えられる。

針葉樹が利用される製品を除くと、鋸類のアカガシ亜属、建築材（建築材・柱・礎板）のアカガシ亜属、クリ、シノキ属など、第Ⅲ面と似た木材利用が認められる。

(3) 中世の木材利用

第Ⅰ面の試料が該当し、木製品53点について樹種同定を実施した。木製品は、建築部材、桶の底、曲物、漆器椀、しゃもじ、箸、下駄等がある。このうち、下駄の中には月星のマークが入ったゴム紐の鼻緒のものもあり、現代に近い遺物も含まれていると考えられる。表4に第Ⅰ面木器の器種別種類構成を示す。全体ではスギとヒノキ科を中心とした針葉樹が多くを占めており、広葉樹の利用は少ない。

曲物や桶の底板など板状の加工を施す製品にスギやヒノキ科が多い結果は、2層の花粉分析結果とも調和的であり、引き続き同様の木材利用が行われていたことが推定される。下駄は、一木で台と歯をつくる連歯下駄と台に別材から作った歯を差し込む差歯下駄の2種類がある。また、連歯下駄のうち、No.14-3はすり減った歯に別材で制作した歯を継ぎ足している。下駄にスギやヒノキ科が多い結果は、第7次調査区の結果とも調和的である。スギやヒノキは、中世から近世にかけての下駄材として最もよく利用されている種類であり、多くの報告例が知られている（能城・高橋，1996）。

漆器では、椀がケヤキ、破片が樹皮であった。ケヤキの漆器椀は第7次調査区でも出土している。ケヤキは、民俗事例でも椀・皿の素材として利用される種類である（橋本，1979）。一方、樹皮は、

通常木材を加工する際に外される部分であり、樹皮付きの木材が漆製品に加工された可能性は低い。そのため、漆製品の破片については、樹皮製品に漆が塗布された可能性がある。

(4) 古植生について

本遺跡からは自然木も多数出土している。これらは木サンプルとして一括されているが、木サンプル中には杭材も多く含まれている。杭材も基本的には遺跡周辺で入手可能な木材が利用された可能性があり、古植生を反映していることが推定される。したがって、本報告では、自然木と杭材とを合わせて古植生に関する検討を行う。なお、木器試料中にも杭材が認められたため、集計にあたっては木器の杭材試料も含めた。表5に自然木・杭材の層位別種類構成を示す。

樹種同定を行った自然木・杭材は、第Ⅰ面が21点、第Ⅱ面が70点、第Ⅲ面が121点である。第Ⅲ面ではクスギ節を中心に23種類が確認された。全て広葉樹であり、針葉樹は認められない。基本的には第6次および第7次調査区の自然木・杭材で確認された種類と調和的である。ツブラジイ、スダジイ、タブノキ属、アカガシ亜属は暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）を構成する種類である。その他の種類にも照葉樹林中に生育する種類が多く含まれている。一方、クスギ節やコナラ節は、森林伐採後の二次林を構成する種類であり、クリやヤマグワ等も二次林内に生育する。遺跡の立地を考慮すれば、周囲の台地上等には常緑広葉樹を中心とした植生やクスギ節やコナラ節等で構成される二次林が見られたことが推定される。一方、比較的多く見られたヤナギ属には河畔など水分の多い土地にも生育する条件の良い場所に生育する種類が含まれていることから、周囲の低地等に生育していたことが推定される。

第Ⅱ面は、22種類が確認され、スダジイやサカキが多い。基本的には第Ⅲ面と同様の植生が推定される。なお、第7次調査区では第Ⅱ面で針葉樹の複雑管束亜属が多くなる傾向が認められたが、今回の試料では1点も認められなかった。

第Ⅰ面では、試料数が少ない上に、全て杭材である。確認された種類が遺跡周辺で入手できたことが推定される。

参考文献

- 松本 易・林 弘也、1979a、門田遺跡谷地区出土の木材片の樹種名について。「山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第11集 春日市大字上白水字門田・辻田所在門田遺跡谷地区の調査」、福岡県教育委員会、159-161。
- 松本 易・林 弘也、1979b、辻田遺跡から出土した木材試料の樹種同定について。「山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第12集 春日市大字上白水所在辻田遺跡の調査」、福岡県教育委員会、144-155。
- 南木 睦彦、1991、栽培植物古墳時代の研究 4 生産と流通 I、石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編、雄山閣、165-174。
- 南木 睦彦・中川 治美、2000、大型植物遺体菟湖湖発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3-2 粟津湖底遺跡 自然流路（粟津湖底遺跡Ⅲ）、滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会、49-112。
- 中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志、2000、日本植物種子図鑑、東北大学出版会、642p。
- 能城 修一・高橋 敦、1996、中・近世における木材利用。第11回植生史学会シンポジウム「中世・近世の植生史」発表要旨、7-11。
- 嶋倉 巳三郎、1976a、木材の材質。「福岡市埋蔵文化財調査報告書第35集 板付 一市官宅宅建設ともなる発掘調査報告書1971-1974-」、福岡市教育委員会、67-75。
- 嶋倉 巳三郎、1976b、福岡市鶴町遺跡出土木質遺物の材質調査報告、「福岡市埋蔵文化財調査報告書第37集 福岡市西区大字免 鶴町遺跡」、福岡市教育委員会、63-68。
- 嶋倉 巳三郎、1977、福岡市板付遺跡H-5地点から出土した木製品の樹種について。「福岡市埋蔵文化財調査報告書第38集 板付周辺遺跡調査報告書(4)」、福岡市教育委員会、111-114。
- 嶋倉 巳三郎、1981、樹種の鑑定。「福岡市埋蔵文化財調査報告書第72集 福岡市博多区 那珂深ヲサ遺跡 I」、福岡市教育委員会、67-70。

表1 第8次第Ⅲ面柱材・礎板の遺構別種類構成

遺構・整理	樹種	採得地別遺構													遺構不明	合計																
		スギ	ヒノキ	マキ	カヤ	クスノキ	コナラ	アカガシ	タリ	フナギ	スダジ	ムクノキ	カワノキ	クスノキ			タブノキ	タスノキ	ツバキ	ヤナギ	モモ	ハナノキ	マカサ	ネハダ	ムズロハ	アワキ	クスノキ	ハシノキ	サシノキ			
SB1250	礎板								1																				1			
	柱														1														1			
SB1248	礎板								2		3					1								1					7			
	柱								2						2									1					5			
SB1251	礎板											2															6		8			
	不明							1																					1			
SB1252	礎板			7					1																		1		9			
	柱												3																3			
SB1253	礎板									1	1																		2			
	柱											8																	9			
SB1255	礎板			1																									1			
	柱											1																	1			
SB1256	礎板															1		1											2			
	柱																												2			
SB1259	礎板					1																							1			
	柱															1													1			
SB1274	礎板					1																							1			
	柱															1													1			
SB1403	礎板																												1			
	柱																2	2											4			
SB1405	不明																												2			
SB1405	礎板										1	2															2		5			
SB1406	礎板									7																	1		8			
SB1404	礎板									2				14	2														18			
	柱									1	1		1												1			4				
SB1406	礎板																												3			
SB1413	柱				1	1																							2			
SP184	礎板										1																		1			
SB1255	礎板										3																		3			
SB1254	礎板										2																		2			
SB1253	礎板												1																1			
	柱											2																	2			
SB1412	礎板									1																	1		2			
	柱										1															3			4			
SP170	柱																1												1			
SB1414	礎板																												2			
	不明																												2			
SP125	柱												1																1			
SB1410	礎板																									4			4			
SP199	礎板片																									1			1			
SP1291	礎板											1	1																2			
SP150	礎板											2																	2			
SP172	柱																								1				1			
SB1411	不明											3																	3			
SB1411	礎板										1																		1			
SD1148	柱礎											1																	1			
SK1161	柱		1																										1			
SK1185	柱礎																												1			
SK1209	柱																												1			
W-1	柱																												1			
遺構不明	礎板																												27			
	柱																												45			
合計		1	7	1	4	5	4	7	9	47	12	22	1	16	3	3	4	10	17	3	4	2	1	1	1	6	2	2	11	1	3	212

※遺構のうちSBについては、入籍時までに遺構番号が確認していなかったため、仮番号順のまま作表したが、校正時に確定したので変番した。そのため順不同の配列となっていることをお詫言います。

表2 第8次第Ⅲ面木製品の種類構成

器種	樹種	殺菌管質虫属	モミ属	スキ	カヤ	クスギ節	コナラ節	アカガシ節属	クリ	ツラクリ	ツラクリ	ムクノキ	クワ属	クスノキ	タブノキ属	クスノキ	クスノキ科	ツバキ属	サカキ	ヒサカキ	シキミ	サクラ属	カマツカ	ムクロシ	モチノキ属	アワキ属	シタシタゴ	ヘリキリ	キリ	不明	合 計
建築材				2				1		2	1											1			1					8	
平敏							1	1																						1	
鎌の刃先							1	1																						1	
農耕具			1				2																							3	
農耕具の柄							1	1																						1	
不明農耕具							1	1																						1	
槽																		1												1	
しゃもじ									1																					1	
脚								1																						1	
木器未製品											1																			1	
矢板																							1							2	
板材			2					1	2						1	1														7	
杭				10				4	1	3		2	1			2	1	3	2	2					2	1				35	
杭か建築材										1																				1	
深い板材								1																						1	
加工板材								1																			1			1	
構材加工品			1					1						1										1						4	
方柱状の角材			1																									1		2	
不明木材				1	1																									2	
不明木製品			1					6																						7	
加工木製品							1	1											1											1	
加工木片		1																												2	
加工品																														1	
木製品			1																											1	
不明							3	1	1	1																				1	
合 計		1	1	6	1	16	1	22	7	5	8	2	1	1	1	3	2	5	2	2	1	1	1	1	1	3	1	1	1	95	

表3 第8次第II面木製品の器種別種類構成

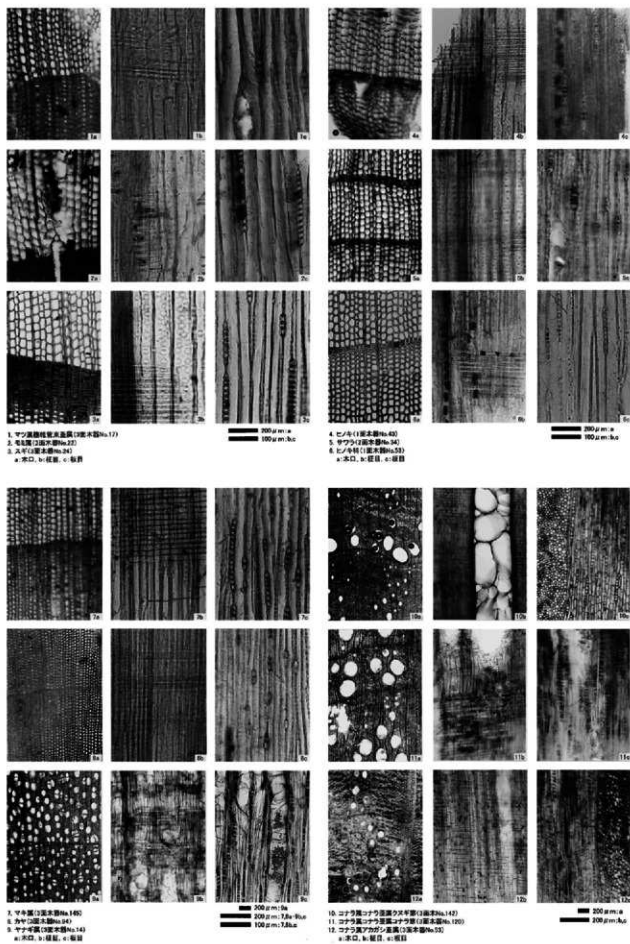
器種	樹種														種類不明	樹皮	合計									
	スギ	ヒノキ	サワラ	ヒノキ科	イヌガヤ	クスノキ	コナラ	アカガシ	ツブラジイ	スダジイ	ケヤキ	クスノキ	クスノキ科	シキミ				ツバキ	サカキ	ウツギ	カマツカ	アワブキ	ガマズミ	タケ		
建築材								1		1									1	1						4
柱								1		1																2
礎板						1				1																2
杭					1		1			2	5	1	1	2			1						2			16
矢板										1																1
鎌ほぞ穴									1																	1
ニ又鎌									1																	1
下駄の歯			1																							1
齋串		1																								1
祭祀具																1										1
曲物底板	1																									1
曲物側板	1	1																								2
曲物蓋				2																						2
曲物椀				1																						1
曲物	1	1																								2
木製品	1																									1
木片	1	1		1				1														1				5
割材								1																		1
板皮																									1	1
板切れ			1	1																						2
板材	4			1						1			1													7
角材										1																1
加工板材	1	1	1						1																	4
加工材		1																								1
加工木材										3	1															4
加工木片	2		1	1				1		1	1					1										8
不明木製品								1				1														2
不明								1						1					1							3
合計	12	5	4	8	1	1	1	8	2	8	10	1	2	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	78

表4 第8次第I面木製品の器種別種類構成

器種	樹種		スギ	ヒノキ	ヒノキ科	針葉樹	アカガシ亜属	ワラビ科	フタバ科	スタジイ	ケヤキ	シキミ	サクラ属	トネリコ属	広葉樹	樹皮	合計
	複葉樹	単葉樹															
建部材	1	1															2
杭	1																1
桶の底?		1															1
曲物側板			1														1
曲物底板		1		2													3
漆器碗											1						1
漆製品の破片?									1							1	1
しゃもじ																	1
箸		1		2													3
角材		1															1
下駄		5		5									1	1			12
下駄脚				1	2												3
差菌下駄の台				1													1
差菌下駄の歯				1	1												2
槍											1						1
玩具															1		1
板材		9	1	2	1												13
部材		1															1
構・下駄										1							1
構状木製品		1															1
木製品							1						1				2
合計	2	21	4	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	53

表5 自然木・杭の層位別種類構成

樹種	1面	2面	3面
マツ属短葉松亜属	10		
イスガヤ	1		
ヤナギ属			14
コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1	36	
コナラ属コナラ亜属コナラ節	1	1	3
コナラ属アカガシ亜属	3	2	10
クリ	1	1	7
フアラジイ	4	4	7
スタジイ	2	14	5
ムクノキ			2
ニレ属			2
クワ属			1
クスノキ		1	
クスノキ科	2	3	5
シキミ		5	4
ワバキ属	1	3	2
ヒサカキ		10	5
ウツギ属		1	2
サクラ属		1	1
バラ科ナシ亜科		1	
ネムノキ			1
ユズリハ属	1		
ムクロジ		2	
モチノ木属		1	1
アワブキ属		6	7
タイミンタチバナ		2	
クマノミズキ類	1		
シヤシヤンボ		2	1
カキノ木属		2	1
ハイノ木属サワタバコ節	1	1	1
トネリコ属		1	
チシヤノキ			1
ワマズミ属		2	
ワカバネワツバ属近位属			1
広葉樹(穿孔材)		5	2
合計	21	70	121



※木標番号は本報告の遺物番号に一致しない

図版1 出土材・木材組織光学顕微鏡写真(1~12)

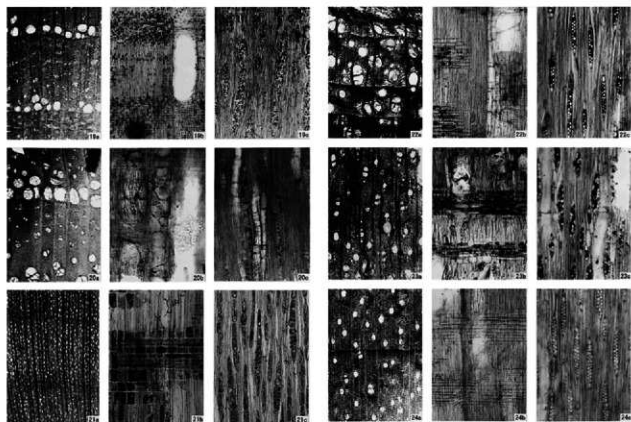


13. クサリ(遺木跡No.119)
14. ツブツブイ(遺木跡No.15)
15. スダツイ(遺木跡No.123)
a: 本口, b: 径目, c: 断面

200 μm a
200 μm b,c

16. ムクノキ(遺木跡No.82)
17. エノキ(遺木跡No.162)
18. ツブツブイ(遺木跡No.83)
a: 本口, b: 径目, c: 断面

200 μm a
200 μm b,c



18. ニシキ(遺木跡No.21)
19. クサリ(遺木跡No.82)
20. クサリ(遺木跡No.13)
21. クサリ(遺木跡No.13)
a: 本口, b: 径目, c: 断面

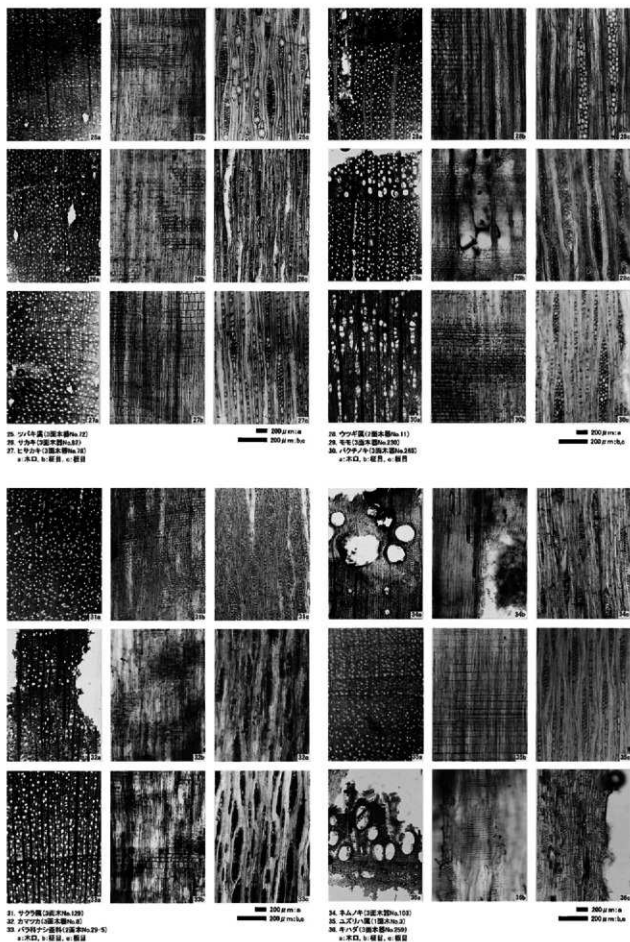
200 μm a
200 μm b,c

22. クスノキ(遺木跡No.164)
23. クスノキ(遺木跡No.21)
24. クスノキ(遺木跡No.117)
a: 本口, b: 径目, c: 断面

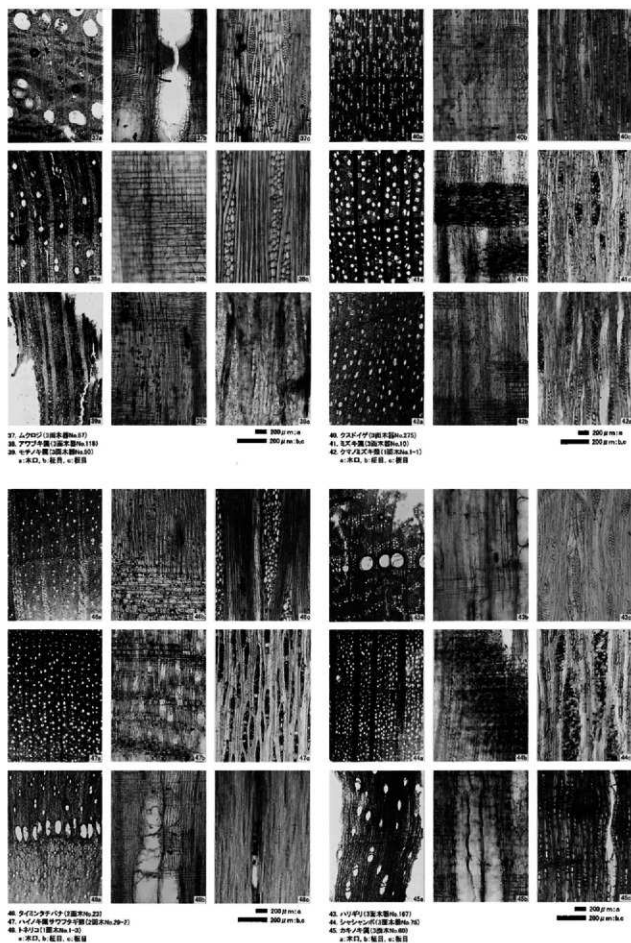
200 μm a
200 μm b,c

※木跡番号は本報告の遺物番号に一致しない

図版2 出土材・木材組織光学顕微鏡写真(13~24)

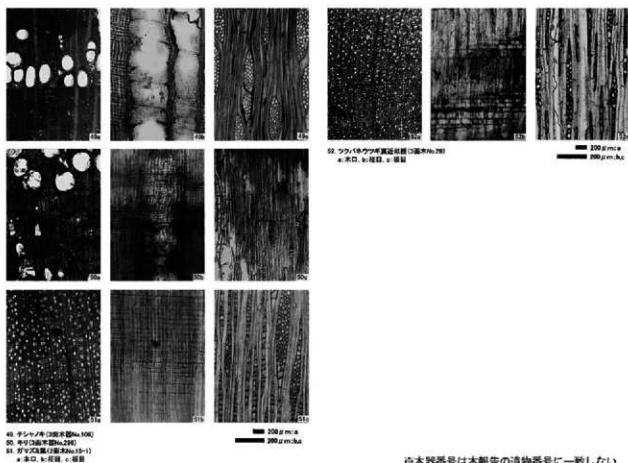


図版3 出土材・木材組織光学顕微鏡写真(25~36)

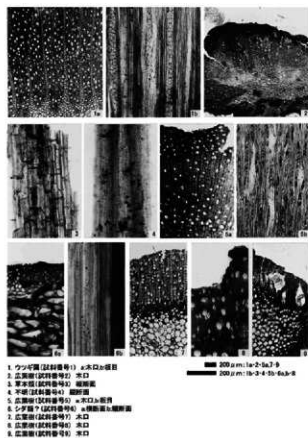


※木目番号は本報告の遺物番号に一致しない

図版 4 出土材・木材組織光学顕微鏡写真 (37~48)



図版 5 出土材・木材組織光学顕微鏡写真(49~52)



図版 6 植物遺体光学顕微鏡写真

第Ⅶ章 総括

1. 下月隈C遺跡を中心に条里・河川について考える

日野尚志

はじめに

筑前国席田郡について若干述べた¹⁰ことがある。『倭名類聚抄』によれば、石田・大國・新居の3郷からなる小郡で、他の筑前国14郡には小郡は存在していなかった。この郷数が9世紀中頃の史料によって作成されたものであったとしても奈良時代と同じであったか否かは別問題である。しかし、奈良時代に関する席田郡の史料は存在しない。同じ郡名が美濃国にあって、『続日本記』霊龜元年(715)7月27日条に「尾張国外從八位上席田君邇近及新羅人七十四家。貫于美濃国。始建席田郡焉。」とあり、715年に成立した事が判明するが、その位置から本果郡から分離独立した可能性が高い。『倭名類聚抄』によれば、4郷からなる下郡で、筑前国席田郡と類似しているといえよう。

筑前国席田郡も美濃国席田郡と同様ではなかったと推測されるが明確でない。それは隣接する粕屋郡から「加麻又郡」と記された墨書土器¹¹が出土し、出土地点近くに蒲田の遺跡地があるので、この加麻又郡が消滅した時に郡の再編があって席田郡が誕生した可能性もあるからである。

その席田郡は中世でも史料に乏しいが、小郡であったために時代が進むにつれて郡域が蚕食された可能性が高く、古代の郡域を明確にするには至っていない。

下月隈C遺跡では出土遺物から9世紀に施行されたと想定される条里地割も検出されていることに注目したい。それは仁明天皇の皇女高子内親王家領があって、9世紀後半観世音寺の寺田との間に土地争いがあり、その位置を想定し、また、そこがどのような景観であったかを検討することによって条里、土地争いの要因、河川流路跡などの問題にアプローチすることが可能ではないかと考えたからである。

1 席田群の図と里の比定について

席田郡の条里地割はかつて述べた¹⁰ように那珂・席田・粕屋(郡の一部)、御笠(郡の一部)4郡にわたって一町方格の地割が連続し、同一の規格のもとに施行されたことが判明している。また、里界線も郡境で異なることがない。さらに六町間隔の里界線が郡境と無関係に連続していることがわかる。

このような状況から考えて、図と里の呼称制度も4郡で統一されていたのではないかと考えられるが、五畿七道諸国をみて郡を単位にしている事例が圧倒的に多いことを考慮すると図と里の比定には慎重に対処すべきであろう。なお、筑前国には条の代わりに図を使用する。類例は紀伊国のみである。これは各郡の各条ごとに1巻(1図1巻という)を作成したので、図を使用したのであろう。

前述¹⁰したように那珂郡には3図8里の史料が唯一あるのみで、水域以北の御笠郡には史料が存在しない。粕屋郡では施行単位の異なる地割が多々良川下流域の兩岸、その支流の金出川流域と須恵川以西の席田郡に接する3地域に分布する。幸い条里関係の古文書が存在し、金出川流域を除く2地域の図と里の復原が可能であるが断案とはいえない。

席田郡に連続する粕屋郡では坪並の原則からすれば、条は西から東へ、里は北から南へと数え進まなければならないが、著者の想定した図と里の比定では坪並の原則と一致しない。この比定も一つの想定にすぎないが、同一の条里区に属する粕屋郡須恵川流域の条里地割が席田郡境から東へ図、北から南へ里を数え進むと考えられることから、席田郡も同様であった可能性が高い。そうであれば席田郡でも坪並の原則と一致しないことになる。

古代の席田郡域がどの範囲であったか明らかでない。著者はかつて席田郡域を想定¹⁰したことがあるが、再考して条里地割の北限である箱崎付近と考え、西限は山陽道の大路まで、南限は御笠森までであったと考えたい。その場合、考えておかなければならない事がある。それは史料にみえる「6図

8里27坪1反」の「8里」は「同里」の誤りと判断して考慮を進めたい。その理由は条里地割の分布から、東西方向に8里を数えることは不可能であること、反対に東西方向に6図（1図と6図は東西方向に1町強しか存在しない）を数えることが殆ど不可能であるからである。以上の条件をつけて図と里を考えてみたい。

坪並は第1図に示したように上臼井の小字「佐ノ坪」・「市ノ町」、青木の小字「先八ノ坪」・「九ノ坪」、東光寺の小字「サノ坪」の位置から西北隅を1ノ坪、西南隅を36ノ坪とする連続式であることが判明する。坪付小字名は他に若干存在するが必ずしも本来の位置にあるとは限らない。

条(図)に関する小字名は存在しない。里に関する小字名としては比恵の小字に「一里山」があるが、ここに「山」があったとは考えにくい。御笠川下流域左岸に沿うことから、土砂の推積した微高地であったことは間違いない。しかし、条里地割は認められない。著者が考えるように山陽道の大路までを席田郡とすると「一里山」は2里に属するが、第1図からも判明するように西北端近くは1里と2里の境界線の延長線に接する。一方、この「一里山」を1里の遺称地として山陽道から以西の1町強のはみ出しを無視して里を数え進むと4里が丘陵地になり、耕地のない丘陵地で9世紀に土地争いがあったとは考えにくいので、山陽道の大路から里を数え進んだと判断したい。ただし、1里は若干存在していたとみるべきであろう。図は地割の北限から南に1図・2図と数え進んだと判断したい。以上、条件づきで図と里を比定したのが第1図である。

次に席田郡に関する条里関係の古文書²⁾について述べておきたい。貞観9年(867)3月26日条の古文書を始めとして、同年10月12日条、同年閏12月25日条、貞観11年(869)10月15日条の古文書があり、土地争いになった地点が図・里・坪で記されている。

これらの古文書で注目しておきたいのは延暦11年(792)3月13日観世音寺に施入された寺田が国郡図帳に寺田と記入されていたこと、また、承和14年(847)に「校田図帳目録」さらに「検席田郡仁寿2年(852)班田帳」とあり、少なくとも869年までは席田郡に田図・校田図・班田図があったことに留意したい。

多数の古文書にみえる図・里・坪を図ごとに整理しておきたい。

3図3里13坪

4図2里31坪 4図3里5坪・21坪・5坪(15坪のミスか)16坪・19坪

5図3里23坪・27坪 5図4里14坪・15坪・22坪・24坪

6図3里28坪・29坪・30坪・34坪

6図4里18坪・19坪・27坪・28坪・29坪・30坪・34坪

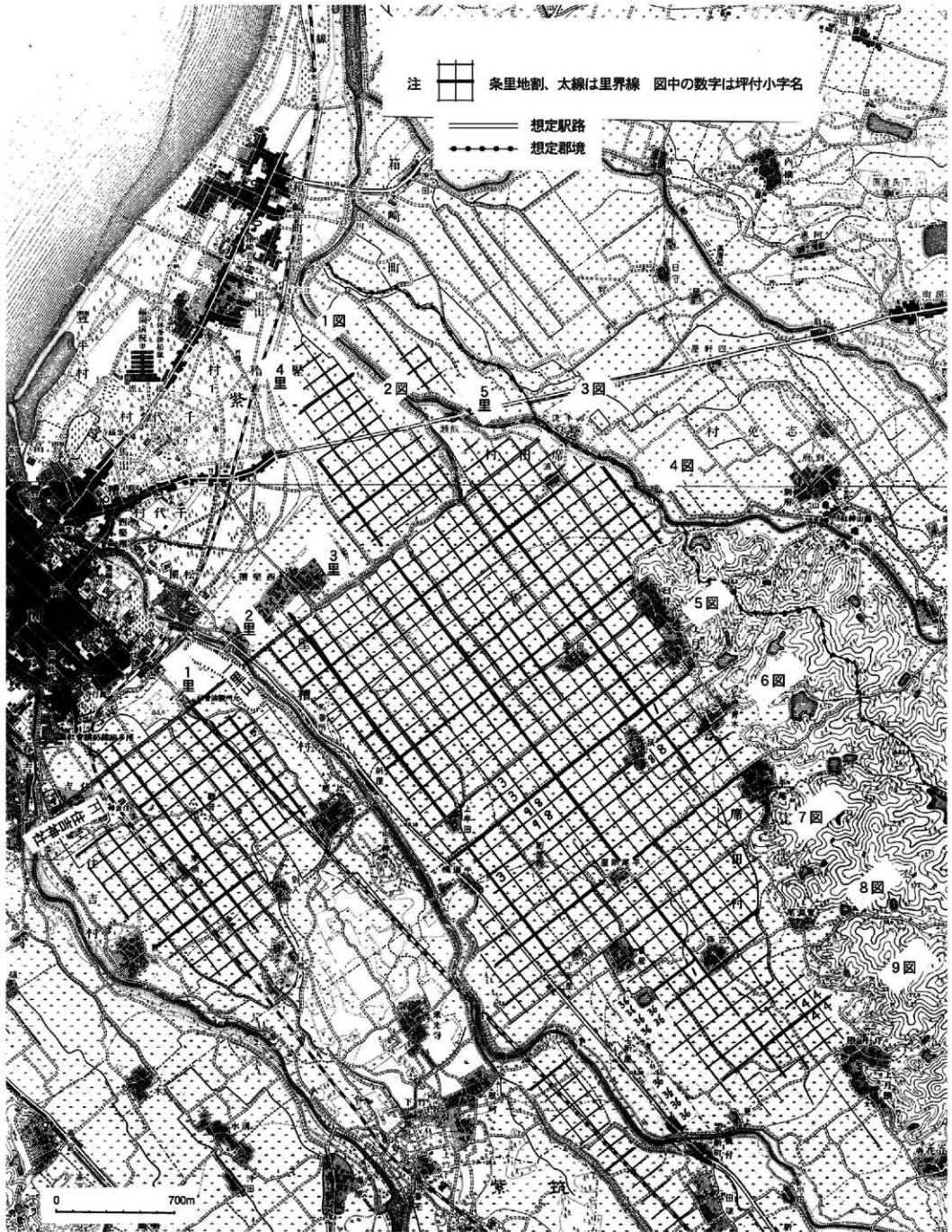
これらのことから図が3図から6図まで、里は2里から4里までは確認できる。

2 観世音寺の寺田と高子内親王家領との土地争いについて

なぜ観世音寺と高子内親王家との間に土地争いが生じたのか、古文書だけでは把握できないので別の方法はないかと考えてみた。そこで注目されるのが、図・里・坪記載のなかで6図4里18坪牟多田、同里30坪牟多田である。今日の小字的地名がつけられている。席田郡には上臼井に「牟田々」、下臼井に「牟田々」の2つの小字名があって両者は南北に連続している。この2つの小字名が6図4里18坪・30坪になれば大変注目されるが残念ながら一致しない。しかし、「牟田々」地名が9世紀中頃までさかのぼる可能性があることに注目したい。そこで御笠川下流域の小字図を作製し、そこに古文書に出てくる地点を記入して考察を始めたい。

著者がかってトレーシングペーパーに写していた小字図から作製したのが第2図である。長い年月の間に東光寺の一部を紛失し、空白地区が生じている。この空白地区は丘陵地で条里地割は存在しない。

第3図には429の小字があるので検討してみたい。その最大の狙いは御笠川の旧河道を暗示する小字名があるか否かの検討である。小字名は大別して「古川・川原田」などの河川を暗示する地名、河



第1図 席田郡の桑里地割 (南部は除く)

川の後背地にあって、しばしば洪水を受け、土砂の推積があるような場所を暗示する「サコ・ツル・コモリ・ムタ」地名に分類できるのではないかと考えられるが、ここでは8つのパターンに分類してみたい。

1. 河川地名（古川・川原田・正フリ川）、「フリ」は「フル」と同じで関西以西に分布し「古い」を意味する。
2. 牟田地名（上牟田・中牟田・無(牟)田々）、湿地・沼地を意味する。
3. サコ(ザコ)地名（サゴ・砂子・砂入・真砂）、サコ地名は湿地・砂地を意味する。
4. ショオコ地名（正頃田）、ショオコ地名は川の曲流部の砂地⁹⁹をいみする。
5. ツル地名（長尾鶴）、ツル地名は水路・水路のある低地⁹⁹を意味する。
6. コモリ地名（古森）、コモリ地名は沼地・窪地⁹⁹を意味する。
7. ショーズ地名（正津）、ショーズ地名は細流⁹⁹を意味する。
8. ツ地名（津屋）、「交通位置」の「ツ」から船着場や港⁹⁹（ここでは河港）を意味する。

参考地名

1～8と比較して取扱いに留意する地名。

「深」のつく地名（深田・深町）、「深」地名は低湿地を意味する。

「水」のつく地名（水町）、「水」地名は低湿地を意味する。

以上のように参考地名を含めて10パターンを考えてみた。いうまでもなく、これらのパターンに属する小字名がすべて1～10パターンに記した「意味する」ことに記したような景観に由来するかどうか明確ではない。しかし、それなりに意味があって、その土地につけられた呼称と考えるべきであろう。

第4図は1～10までのパターンに属する小字名を記号化して記入したものである。一方、空中写真にみえる旧河道跡、それに続く曲線を描いた小字境（糸里施行地域では直線状の小字境が多い）、発掘で確認された旧河道跡の位置を考慮した場合、現在の御空川東側に5本の旧河道跡が推定できようである。そこで想定されるそれらのルートを第6図に記入し、8つのパターンに分類した小字図に寺田・係争地を記入した第5図とを対比してみると、1の河川地名、3のサコ(サゴ)地名、4のショオコ地名、6のコモリ地名、7のショーズ地名などが河道跡と想定される部分にあることが判明する。これら5本の旧河道のうち、第6図のA点は下月限C遺跡の西北端で河道跡が確認されているので、A-B間は9世紀までは機能していたと考えたい。また、調査区東側で検出された古墳時代後期から古代前期にかけて西南から東北方向に流れていた河川は9世紀頃には南北方向の流路となり、中世まで継続して流れていたことが判明している。しかし、調査区の北側では明確でないが、小字「杭手」(X点)が河川に杭を打って護岸工事をしていた地点を意味すると考えれば、ここを流れてD点に達し、D-E間の旧河道跡を流れていたであろう。残る2本の旧河道跡の変遷は不明であるが、K-N間は、さらにその南側でも約6.5kmにわたって旧河道跡が確認され、その間も含めて旧村境になっていたことに注目したい。そのなかでも旧那珂・下月限村境のM-L間に旧河道跡を示す部分(堤防を含めて約30m)があり、また、その南側の旧板付・上月限村境のK-J間にも河道跡(堤防を含めて約30m)がある。他の旧河道跡よりも川幅が広いことから、御空川の本流であったと考えてよいのではないだろうか。

御空川の本流を上流域の井相田付近から第6図のJ点に達していたと考えると比較的直線状に流れていたことになる。K点の北にもみられる旧河道跡はN点まで追跡可能であるが、この間も御空川の本流であったとすれば、川幅も広く舟運があって、その河口部に近い比恵の小字「津屋」(第7図参照)に河港(上流に向かうための乗り換える拠点)とすれば、N点から北上すれば「津屋」に達することができる。このことは御空川の本流(主流)であったから河港があったと考えるのが当然であろう。

ところで、発掘調査区⁹⁹から9世紀代に埋まったことが判明しているP点は東隣に小字「伊賀町(Y点)」がある。「イガ」は「イカ」と同じで、洪水の起こりやすい平地⁹⁹の意味があり興味深い。この発掘地点より北のルートは明確でないが、直線北上すれば、Q点からS点までの旧河道跡に達し、S

点の北でN点から来た御笠川の本流と合流していたとすれば、そこが小字「津屋」である点に注目したい。一方、Q点からさらに北上すれば、現在の流路に一致する。

以上のようにP点から北上する河川がどこを流れていたのか想定してみたが、2つのルートに絞られるといえよう。前者であれば、2つの河川が「津屋」で合流することになり、著者にとっては都合がよいことになる。N点から南は仮に直線と南下してO点に達したとすれば、8世紀代まではO-Z間の曲流部の御笠川は流れていなかったと考えられる。それは発掘調査で確認された複数の駅路跡を直線で結んだルートがこの曲流部に来て、2度渡ることになる。古代の駅路が短い区間で2度も同じ河川を渡るとは考えられないからである。

著者の想定する御笠川本流をN点から南下して井相田付近までとし、その南は空中写真から判読できる流路跡、現在の御笠川の流路から考えて、水城を出る山陽道は旧博多駅南側付近までの間、水城の北で1度御笠川を渡るだけであったと思われる。

次に、これら10パターンを記号化した地図に観世音寺の一切経由の位置と高子内親王家との間で紛争になった地点を記入（第5図参照）して考察を進めたい。

最初に感じることは延暦11年（792）に観世音寺に施入された寺田が10パターンのいずれかに一致するか、それに近い地点にあることから、施入当時は水利の便がよく、水田耕作に好都合の良田が選定されたのではないだろうか。しかし、下月限C遺跡で検出された旧河道跡から、9世紀になって洪水が発生するようになって席田郡では河川が荒れて、土地が削られてくぼんだり、あるいは流路が変化してそれまでの景観が大きく変わり、土地争いに発展したのであろう。貞観11年（869）10月15日条の古文書によれば、仁寿2年（852）の班田図には6図3里・4里の8町内に観世音寺・高子内親王領があって、そこは両者とも「治田不注」が多く、そのために景観が変わったあとで、少しでも有利な地点を自己の所領といったのではないだろうか。

さて、土地争いの焦点であった6図3里28・29・30・34坪、6図4里18・19・29・30坪のなかで注目されるのは、6図4里18・30坪に記される「牟田々」である。そこが温田か沼田であったのであろう。第6図からも判明するように30坪は旧河道に沿い、18坪は1町弱離れているが、下月限C遺跡の旧河川跡と同様に9世紀代になってしばしば洪水が発生し、そのために河川沿いの地区が後背湿地化したために、「牟田々」と呼ばれるようになったのではないだろうか。そうであれば、上白井・下白井にある小字「無田々」も地名の由来が9世紀中頃までさかのぼることも考えられよう。

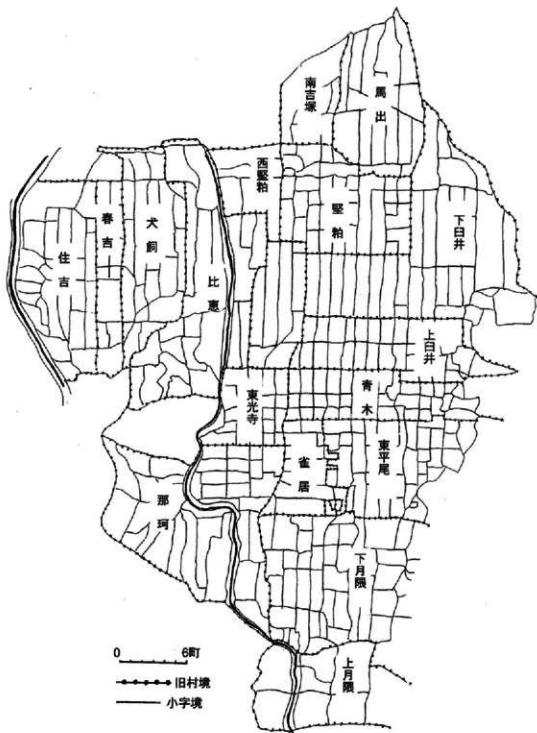
土地争いの地点が旧河道沿であれば、E-D間の旧河道跡は9世紀代には機能していた可能性が強い。

なお、伊勢守源冷家に妨取られた5図3里23坪も旧河道跡（第6図参照）にあたるので、こども河川の洪水、それに伴う景観の変化での妨取とすれば、Q-Sを結ぶ旧河道跡が9世紀代にここを流れていたことを物語るといえよう。

旧河道の一つであるA-B間は下月限C遺跡で検出された旧河道に絡がることは、その位置から確実である。B点から以北では「古川」と「長尾鶴」の間を流れ北上していたとみられる。その場合、2つの小字名「水町」が河川に沿うことになる。

一方、F点からG点、少し北上してH-I間にも旧河道跡が想定される。H-G間は直線で結ぶことが可能であるが、I点から北ははっきりしない。直線で延長すると、こども2つの小字名「深田」「深町」に沿うことになる。

このルートは古森集落のほぼ中央を流れていたが、おそらく自然堤防上に位置していたとみられ、そこに小字「ツバクラ」（第3図参照）があり注目される。それは「ツバクラ」に倉庫の意味⁹があり、河川に沿って倉庫が設置されていたことに由来するのではないだろうか。しかし、9世紀代にここを流れていた有力な手がかりはないが、貞観11年（869）10月15日条の古文書に記す観世音寺、高子内親王領の土地争いの地点が、この旧河道跡上にあるので当時は流れていたと考えたい。



第2図 御笠川下流の旧村名



第3図 御笠川流域の小字名の位置

田倉赤村
1. 藤田 2. 早松 3. 高橋路 4. 中水 5. 敷町 6. 八ノ溝 7. 溝田 8. 三宮村
9. 結川 10. 宮崎 11. 菅田 12. 三宅田 13. 大野

田窪赤村

1. 宮後 2. 高松 3. 坂瀬 4. 井筒町 5. 高尾 6. 沖 7. 辻 8. コノ坪 9. 平田
10. 小野 11. 福留 12. 藤沢 13. 水沢 14. 久保 15. 樋口 16. 光田 17. 中津 18. 天上田
19. 水ノ下 20. 出口 21. 吉川 22. カイタ 23. 南小野 24. 水ノ谷 25. 飯田

田式赤村

1. 堀田 2. 上野崎 3. 中野崎 4. 下野崎 5. 龜崎 6. ヲコナ 7. 神歌 8. 舞子町
9. 白羽田 10. 杉本 11. 下杉本 12. 大野 13. 中次郎 14. 橋久 15. 八反田 16. 野入
17. ビシガ 18. 新倉丸 19. 八ノ溝 20. 高田 21. 池田 22. 池田 23. 長井

田比赤村

1. 富田 2. 松木 3. 藤崎町 4. 八反田 5. 三ヶ子川 6. 出津町 7. 一里山 8. 龜崎
9. 延ノ町 10. 穴原田 11. 箕野 12. 門ノ内 13. 土御田 14. 井手山 15. 2町 16. 藤子
17. 湯野 18. 大野 19. 井沢 20. 吉野 21. 池田 22. 小林 23. 花巻

田西原赤村

1. 野田 2. 西之町 3. 吉野 4. 前田 5. 飯高野 6. 結本 7. 千町 8. ヤサキ町
9. 野井 10. 津屋 11. 中野田 12. 千太郎 13. 大野 14. 吉田 15. 赤川 16. 中野田

田室赤村

1. 久保田 2. カキノヘ 3. 裏 4. 志小路 5. 辻 6. 藤田 7. 高尾町 8. 畑ノ田
9. 八ノ溝 10. 内八ノ溝 11. 御田田 12. 舟尾田 13. 乙ノ口 14. コノ坪 15. 鳴止
16. 敷田町 17. 八郎町 18. 千代 19. 大溝 20. 平三郎 21. 入道町 22. 小柳 23. 花巻
24. 八反田 25. 土社 26. 持田町 27. 津町 28. ノリ原 29. 松木 30. 津波 31. 五月田
32. 九郎田 33. 水町 34. 御田 35. 大門 36. 飯高野

田南原赤村

1. 北庄 2. 藤田町 3. 今町 4. 松原 5. 吉野 6. 藤田

田馬田赤村

1. 雲室田 2. 大馬田 3. 立平井田 4. 平井田 5. 早野町 6. 宮野 7. 互田 8. 溝田
9. 小原町 10. 藤田田 11. 水町 12. 中野町 13. 初野 14. 新野 15. 久保田

田下野赤村

1. 大野 2. 大野 3. 畑田 4. 芝田 5. 津田 6. 小野町 7. 手平尾 8. 東町 9. 穴石
10. 大野 11. 藤田 12. 大野原 13. イナ 14. 下津 15. 山崎 16. 小島 17. 藤田
18. 百田 19. 藤ノ下 20. ハ 21. サツマ 22. コノ 23. 藤田 24. 藤田 25. 山次
26. 正野田 27. 津田 28. 藤田 29. 四角 30. 小柳 31. 深町 32. 藤田

田上野赤村

1. 野ノ前 2. 柳町町 3. 藤崎町 4. 宮田町 5. 八木 6. 藤田 7. 野田 8. 東町
9. 三ノ木 10. 島ノ島 11. 寺ノ下 12. 公道 13. 尾野 14. 草野町 15. 赤松田 16. 池田
17. 天神池 18. 橋田 19. 松木 20. オウゴン 21. 川原田 22. 藤田 23. 杉入 24. 幸田々
25. 入道町 26. 高田町 27. 用水 28. 中ノ坪 29. 天塚 30. 武土町 31. 佐ノ野 32. 十ヶヶ辻

田宮本赤村

1. 子ノ子 2. 藤田 3. 前田 4. 八雲 5. 尾野原 6. 吉ノ口 7. スイキ 8. 藤田
9. 赤木 10. タケノ 11. コノ 12. 藤田 13. 藤田 14. 藤田 15. 乙ノ下 16. 乙ノ下
17. 松ノ木 17. 松ノ木 17. 志留野 18. 火薬 20. セ 21. 津口 22. 藤田 23. 藤田
24. 入道町 25. カノカ 26. 小野 27. 水町 28. 中野町 29. 藤田 30. 平田 31. 八ノノ坪
32. 草刈 33. 須佐 34. 九ノ坪 35. 大野 36. ビシガ 37. 下田 38. 上田 39. 鳥砂

田宮田赤村

1. ビシガ 2. ヒヤノ 3. 小坂 4. 小野 5. 津波原 6. 藤田 7. 茂原 8. 松田
9. 互田 10. 正ノ野 11. 大野 12. 雲室 13. オコノ 14. 一ノ木 15. 宮野 16. 角田

田宮野赤村

1. 宮ノ前 2. 中ノ坪 3. 藤田町 4. 藤田町 5. フスダン 6. 野入 7. 吉野ノ後
8. 井沢 9. 松田 10. 藤田 11. 藤田 12. 藤田 13. サガ 14. 土穴 15. 内野町
16. 尾川野 17. 宮宮尾 18. ササキ 19. 藤田 20. 草野 21. コノ 22. 高井田 23. 池田
24. 藤田 25. 藤田 26. コノ 27. カノカ 28. 下野原 29. コノカ 30. 藤田 31. 長尾崎
32. コノカ 33. 花巻 34. 水町 35. 藤田 36. 吉川 37. 津波原 38. 藤田

田上月赤村

1. 宮宮尾 2. 小石谷 3. 小島 4. 鳥崎 5. 藤ノ後 6. 天神池 7. 赤 8. 沼田
9. 水町 10. 九ノ坪 11. 藤田 12. 藤田 13. 大野 14. 長手 15. 久保田 16. 友田
17. 松本 18. 鳥砂 19. 宮野 20. 一ノ坪 21. 高橋 22. 平田 23. 角上 24. 中野 25. 宮野
26. 持田 27. 竹野 28. 藤田 29. 赤木 30. 天神池 31. 藤田 32. 藤田 33. 高尾
34. 三ノ木 35. 藤田 36. 正野町 37. 藤田 38. 藤田 39. 藤田 40. 藤田 41. 藤田 42. 藤田
43. 藤田 44. 吉川 45. 藤田 46. 藤田 47. 藤田 48. 藤田 49. 藤田 50. 藤田

田上月赤村

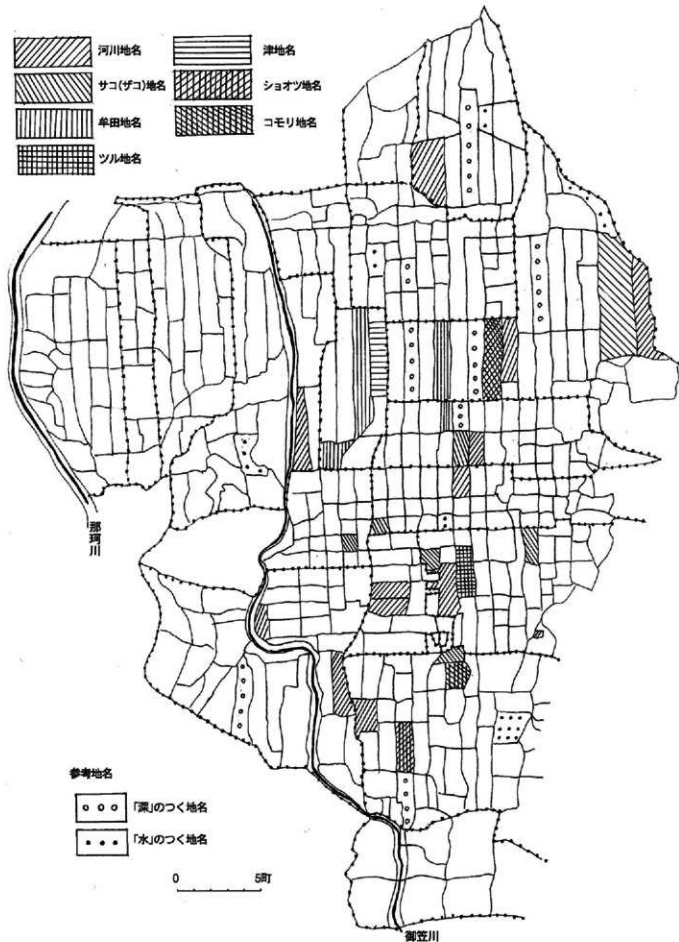
1. 山崎 2. ムシロコト 3. 天神池 4. 大手木 5. 周中 6. 藤ノ後 7. 丸田 8. 田中

田宮寺赤村

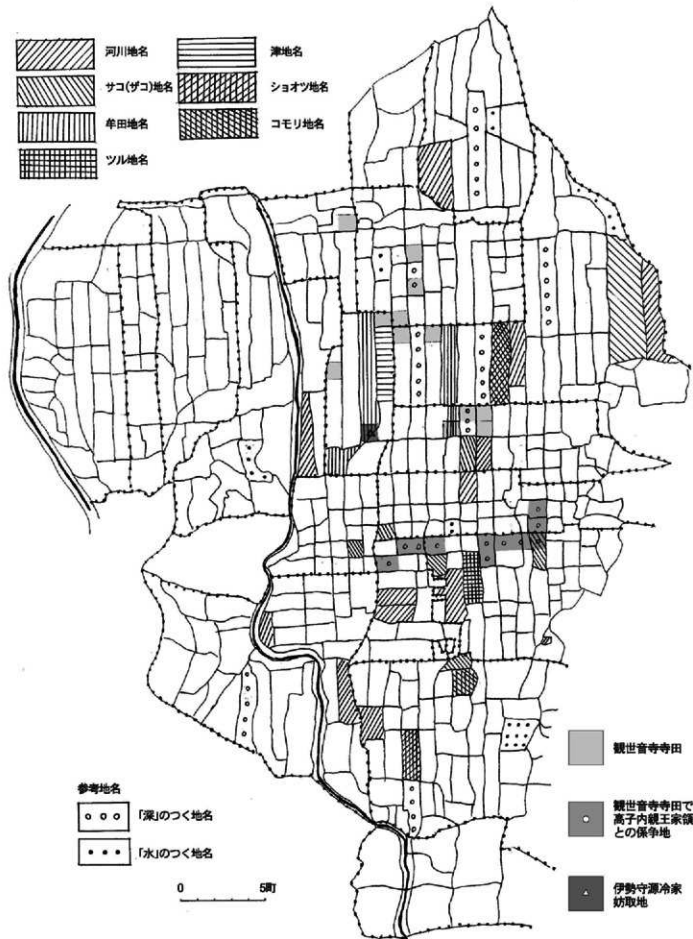
1. 入道町 2. サツマ 3. 高田田 4. 高尾 5. 吉野町 6. ヲノ坪 7. 藤田町 8. 丸田
9. 藤田 10. 藤田 11. 藤田 12. 藤田 13. 藤田 14. 藤田 15. 藤田 16. 藤田
17. 才野田 18. 穴原田 19. 長田 20. 金高 21. 藤田 22. 藤田 23. 藤田

田野赤村

1. 高尾 2. 藤田町 3. 藤田町 4. 宮野 5. 入道町 6. 赤手 7. 伊野町 8. 藤田
9. 田中野 10. 伊野町 11. 土穴 12. 大野 13. 互ノ坪 14. 三百田 15. 赤田 16. 互田
17. 藤田 18. 三ツ穴 19. 大野 20. 藤田 21. 藤田 22. 藤田 23. 藤田 24. 藤田 25. 藤田
26. 藤田 27. 藤田 28. 藤田 29. 藤田 30. 藤田 31. 藤田 32. 藤田 33. 藤田 34. 藤田 35. 藤田
36. 藤田 37. 藤田 38. 藤田 39. 藤田 40. 藤田 41. 藤田 42. 藤田 43. 藤田 44. 藤田 45. 藤田
46. 藤田 47. 藤田 48. 藤田 49. 藤田 50. 藤田



第4図 小字名の分類



第5図 観世音寺の寺田・係争地と小字名との関係

以上、席田郡の中央部よりやや北側における旧河道跡について述べてみた。下月隈C遺跡で検出された2つの大きな河道跡のうち西北側のは第6図のA-B間、東側のほぼ南北方向に流れる旧河道跡はD-E間の旧河道跡とそれぞれ絡がっていたと考えれば、現在の地表表面にみえる旧河道跡は9世紀代まで機能していただけでなく、その後も長く機能していたと考えたい。そうであれば、F-G・H-I、K-N・O-P-Q-S間もそれぞれ同様とみてよいであろう。第6図に示したように5つの旧河道跡を想定してみたが北部ははっきりしない。そこで憶測に憶測を重ねて考えてみたい。第7図に示したように御笠川の本流をN-Tとした場合、その北は「津屋」に至ったことは間違いない。その場合、S点までの旧河道跡も「津屋」で合流していたのであろう。現在の御笠川に分流もなかったとすれば、著者の想定した人工水路^④も「津屋」に達していたことが考えられる。ここを河港とすれば、想定される山陽道までは3町の距離となる。「津屋」の北ははっきりしないが、A-B-C-D-E、C-F間が旧村境であったことを重視して、この旧村境に沿って御笠川が流れていたのではないだろうか。E点一帯の犬飼の大字「堀田」は東西に細長く、それが川幅と河川跡を示すとみられる。

第7図のような流路を想定するとC点で2分することになるが、C点の北には海岸砂丘があって北に流れることが出来ずに2分されたのではないだろうか。

他の3つの旧河道跡の北側を想定するのは困難である。その中でH点から北はおそらくG点に達していたことは間違いないだろう。そうであればG-F間に人工水路があっても不自然ではない。F点から西に人工水路らしき痕跡がないのはC-F間が御笠川の本流で現在の御笠川(仮に分流があったとしても)がなかったとしても延長する必要はなかったことになる。この西堅泊・堅泊の集落と水田は昭和2年(1927)12月17日に区画整備が完了し、条里地割も消滅してしまった。

次に9世紀代の風水害等についてみてみたい。『日本文徳天皇実録』の天安2年(858)6月20日条に、5月1日に大風暴雨が九国ニ嶋に大きな損傷を与えたと記されるのを始めとして、『日本三代実録』貞観6年(864)12月26日条に阿蘇山、同9年(867)2月26日条に鶴見田岳、同16年(874)7月2日条に開聞岳の爆発と10年の間に3つの火山爆発があった。また、この間の貞観11年(869)7月14日条に肥後国大風雨とあるなど、西海道で860年前後に不安定な気象状況が続き、大きな災害が発生したと考えられる。席田郡の土地争いに関する古文書の年代が貞観9・10・11年に集中しているのも、大きな災害が発生したことと無関係ではないだろう。

下月隈C遺跡の条里地割について

下月隈C遺跡では古墳時代後期から古代前期遺構面と古代遺構面(8-9世紀)が検出されている。前者は発掘範囲では旧河川の流路が検出され、その旧河道にはさまれた地区に亀ノ甲状の水田区画が多数検出されている。いずれも小区画で統一性があるとは考えにくい。

これに対して古代遺構面は南北に直線状に伸びる大群が一つ、東西方向に同じような大群が二つ、それぞれ検出されている。この方位はN35°Eで、水城以北の条里はN37°Eを基準にしているのので、若干のずれが生じているが、この程度の相違は問題ではないと思われる。しかし、その東西方向の大群の間隔は報告書^⑤の800分の1の図面上で計測しても約100mで、1町(約109m)より若干短い。また、この南北方向の大群より東に古代から中世にかけて南北にほぼ直線状に流れていた河川が坪界線に相当するが、この間も約100mとなっている。これがなんらかの理由でこだけが基準より約1割短くなったのか限られた発掘範囲内で結論を求めるのは無理と考えたい。

大群に囲まれた範囲内では小さな直線状の小群によって小区画に分割されており、古墳時代後期に造成された亀ノ甲状の水田区画が一掃されたと考えることができよう。古墳時代に不規則な小区画が形成された水田地区に条里地割が施行される場合、その亀ノ甲状の土地区画の上に一町方格の網(水路又は道路)をかぶせる事例もあるが、ここではそのような処置がとられていないので、条里地割の施行に際して強力な権力が働いた事例の一つといえよう。

下月限C遺跡では9世紀に条里水田の始まりを想定しているが、『平安遺文』第1巻の延喜5年(905)の『観世音寺資財帳』に記す「那珂郡3図6里31世良田2反130歩、12大野田1反^〇」は「坪」が記されないかわりに原初的な地名(今日の小字地名に近い)である「世良田・大野田」が記されている。このような形式は奈良時代の古文書にみられる特徴である。おそらく「世良田・大野田」と呼ばれた水田に条里地割を施行し、その後に条里呼称制度を導入した際に1~36までの番号をつけ、その際に地割施行前に呼ばれていた呼称を併記したとみられる、やがて呼称制度に慣れてくると小字的の地名は除かれ、数字の次に「坪」がつくようになった。その初見は『平安遺文』第1巻の『山城国紀伊郡司案』にみられる延暦19年(800)である。従って那珂郡と同じ条里区に属する席田郡の条里地割も8世紀代までに大部分は施行されていたとみられる。

限られた発掘範囲ではあるが、現在の地表面に残る地割との関係性をみておきたい。

8-9世紀の直線状の大畔を福岡市刊行の地形図に示すことは可能である。しかし、現在の地表面の地割は月限C遺跡付近では整然とした条里地割とはいいがたい。そこで整然とした条里地割の残る古森・雀居付近から一町方格を地形図に示して下月限C遺跡付近に至り、報告書に記される大畔を記入してみると殆ど一致する。従って厳密には若干の誤差が生じている可能性もあるが、現在の地表面の条里地割が埋没していた条里地割を踏襲しているといえよう。

大阪府の城山遺跡⁹⁷では埋没していた条里地割を囲む一町方格と現在の地表面の坪境線と42mの相違があることが判明している事例もあるので、下月限C遺跡の条里地割の検出は貴重な事例といえよう。

ところで、下月限C遺跡は席田郡の9図4里と想定されるが、検出された南北方向の大畔の一町西側が里境線になるが、発掘範囲外である。里境線の水路(又は畦畔)が坪境線の水路より広いのかといった点にも興味もたれる。

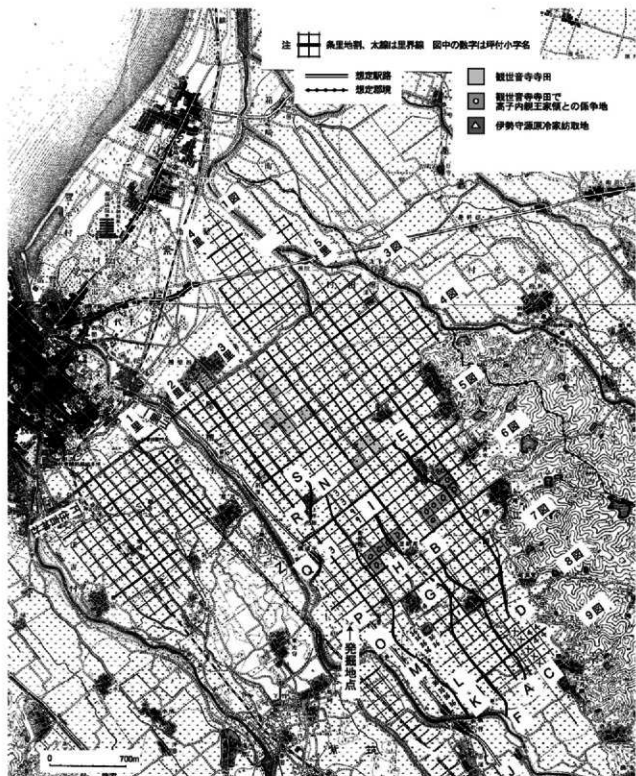
おわりに

下月限C遺跡で検出された条里地割・旧河川跡と古文書から席田郡の条里と埋没条里との関係、小字名から河川の流路を憶測し、土地争いなどの問題点に触れてみた。大胆な検測に終始し、問題点も多い。今後、御笠川の流路に関するデータが豊富になり、流路に関する論述が出ることを期待したい。

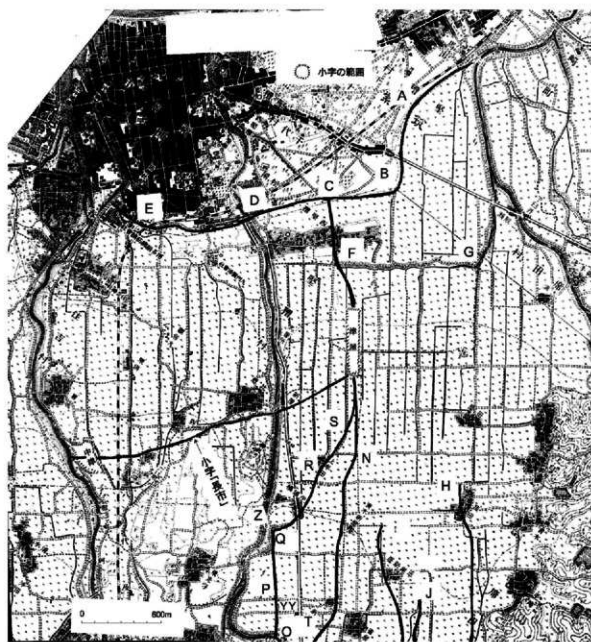
最後に発掘現場での説明、文献・地図等で福岡市教育委員会の山崎龍雄氏には大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

注

- (1) 日野尚志(2005):「比恵・那珂遺跡群を中心にして諸問題を考える」、『那珂38』(2005)、福岡市埋蔵文化財調査報告書第842集
- (2) 『江辻遺跡』(2002): 粕屋町文化財調査報告書、粕屋町教育委員会
- (3) 日野尚志(1976):「筑前国那珂・席田・粕屋・御笠4郡における条里について」、『佐賀大学教育学部研究論文集』第24集(1)
- (4) 前掲(3)
- (5) 前掲(1)
- (6) 『平安遺文』第一巻(1967):・154、・160、・161、・162
- (7) 『日本の地名』(1964):角川書店、18頁
- (8) 前掲(7)、12・48頁
- (9) 前掲(7)、58頁
- (10) 前掲(7)、29頁
- (11) 前掲(7)、52頁
- (12) 前掲(7)、57頁
- (13) 『東那珂遺跡1』(1986):福岡市埋蔵文化財調査報告書第821集
- (14) 前掲(7)、19頁
- (15) 前掲(7)、57頁
- (16) 前掲(8)
- (17) 前掲(1)
- (18) 飯田育功(1988):「大阪平野の条里遺構」、『条里制研究』第4号、条里制研究会 79-105頁



第6図 席田郡の条里地割（南部は除く）



第7図 検測御笠川下流域の流路

2. 各面のまとめ

月限調節池建設に伴う調査は、平成10～15年度まで実施した調査総面積45,749㎡の大規模な調査であった。調査では弥生時代前期初頭から中世にわたる各時期の遺構を確認した。当地は御笠川右岸に立地した沖積地であるため、各時期での地形の変化が読みとれる貴重な遺跡であることが判明した。本書は第8次・第9次調査の報告ではあるが、報告書としては最終年度の報告になる為、今次のまとめを中心に、第4～9次調査全体の簡単なまとめと気づいた点について触れ若干の考察行いたいと思う。また調査では、古代の時期の墨書土器、木簡、木製祭祀具など、通常集落では出土し得ない重要な遺物が出土しており、それらについて若干の考察を行なった。

1) 古代末～中世のまとめ

調査では第1面である。主な遺構としては、第8次・第9次調査では水田遺構と、席田郡条里の南北方向坪境に沿った幅4～6mを測る溝を検出した。この南北溝に沿って近世～近代の水路があり、間に洪水砂や客土の間層を挟むものの、当地が現代まで連続と地割に基づいた基幹水路を踏襲し水田を営んで来たことが分かる。Fig. の第4～9次調査全体の遺構配置図では、西側第4～6次調査区で集落があり、東側第7～9次調査区は水田となる。その下の第2面（古代後期）では調査区全域が水田であるので、この両面の間に大きな地形変化が起こっている。本書の日野尚志氏の考察でも触れられているが、席田郡一帯は大宰府観世音寺領と高子内親王家、後の内蔵領の所領が錯綜しており、9世紀代には度重なる大雨で御笠川が氾濫し耕地が荒れ、両者で所領争いが起こっている、御笠川旧河道に近い西側一帯は特に洪水の影響を受けやすく、水田に洪水砂が厚く堆積し自然堤防として微高地化していたものと思われる。その荒れた耕地を再開発するために、中世に微高地上に集落が進出し、後背地である集落東側に条里規制に沿った南北溝を掘削し、その周りに水田を営んでいたものと考えられる。第7・8次調査区のSD720の両岸に多数打込まれた護岸杭は洪水などによって崩れた岸を補強するために打込まれた結果である。またこの時期、水田区画は前代の条里地割りを踏襲するもの、中央半分に東西方向の杭を打込んだ畦があり、それを基準に南北に細長い水田区画とする半折形区画となっている。

2) 古墳時代後期～古代のまとめ

調査では第II面、第4・6次調査では第II面・第III面に該当する。東側を南北に走る中世水路SD720以西では条里地割に基づいた水田畦畔が良好に検出された。畦畔には1町四方の大畦も検出され、地割を考察する上で良好な資料を得ることができた。これらの畦畔の時期は6次で9世紀代の洪水流路に切られていることから9世紀初頭を降らず8世紀代に遡る可能性がある。第5、6次調査で下層から南北の大溝と重なる溝が検出されたことから第II面の時期を遡って条里地割が敷かれていた可能性が高い。

古墳時代後期の畦畔は5次調査で良好に検出された。北東方向へ蛇行する流路に沿った地形に合わせ畦畔が築かれている。7次調査の西側の畦畔下には粗朶が敷かれ水防の備えが為されていた。問題なのは7次調査の中央部で検出された畦畔と水路SD734の時期である。畦畔は直線的で5次調査で検出された畦畔ともやや異なる。また、8次調査のSD735の水口から発した水路の方向とほぼ同じであることから、8世紀代を大きくは遡らないように思われ、条里地割が施行される直前に近い形状の可能性もある。また、水路SD734も8世紀後半に埋没したSD735と大きくは隔たらない時期と思わ

れる。なお、7次調査では近世に継がれていく水防の技術も数多く見受けられた。

特記すべきことに7次調査の流路SD735から「皇后宮職」が書かれた木簡が出土したことである。当地の性格や遺跡を解釈していく上で鍵となるべきもので、当初、平安遺文に書かれた高子内親王との関係が想起されたが、時期的には通ることが判明した。文書内容から郡符木簡クラスが考えられ、近くに官衙の存在が思い浮かべられた。しかし、示唆するものは現在までに「里長」と書かれた墨書土器が唯一の遺物で他は「戌」「美」「福」などの吉祥句を書いた墨書土器や人面土器、人形など祭祀遺物が多い。今後周辺の調査成果を含め再検討する必要がある。

3) 弥生時代前期初頭～古墳時代前期ころのまとめ

調査では第Ⅲ面、第4・6次調査では第Ⅳ面に当たる。第8次・第9次調査区では、微高地部に掘立柱建物を主体とする集落と、谷部に展開する水田面を検出した。第5～7次調査区でも低地部で水田遺構らしき痕跡、また高所部土坑などから多量の炭化米、数多くの農耕具、ネズミ返しなどの出土から集落周辺で水田耕作が行なわれていたことは間違いない。

集落は、各微高地上にFig. 160のように3カ所は存在する。集落の開始時期については、縄文時代早期からの遺物も僅かに見られるが、弥生時代前期初頭、板付I式古段階の時期からである。ただ集落の中心は、豊富な出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の時期である。前期の遺構は土坑SK1075・1084・1085、SD1104・1131などが中心となるが、掘立柱建物SB1259・1260などからも前期の遺物が出土しており、粕屋町の江辻遺跡や福岡市早良区の入部遺跡などで検出されている細長い掘立柱建物例などから同時期の建物と考える。また北側第7次調査区と合わせて計56棟、第6次調査区も合わせると76棟となる。建物の約6割が1×2間規模の建物で台地周縁に沿って建て替えられていった状況が窺える。これに反し竪穴住居跡は第6次調査区で3～4棟、第7次調査区2～3棟しか検出されていない。後世の開発で削平された可能性もあるが、湿気が多い沖積地の住まいであることや、洪水などの水害を避けるために、高床の建物を住居としていたと考える。集落の中心時期が後期後半から終末期であるのは、安田喜憲氏によれば（安田喜憲『気候と文明の盛衰』1990）、弥生時代中期の温暖期から後期は一転寒冷期になるとする。当地一帯では海水面の低下が地下水位の低下をもたらし、比較的微高地が安定化し居住するのに適するようになっていたことによると考える。掘立柱建物の柱穴には、沖積地の特性からか礎板・柱が遺存していた。前期の建物は、礎盤はなく柱のみである。後期の建物は礎板が出現している。礎板・柱の樹種は第6～8次ともクリなどの広葉樹が多く、周辺で容易に入手できるものである。第6次調査区では集落周囲を環状に巡る溝を確認している。

また第7次調査では銅戈の鋳型が1点出土している。本遺跡で青銅器生産が行なわれていたことは、間違いないが、工房跡は不明である。ただ第8次調査で確認した鍵孔型に巡るSD1181は内部に明瞭な建物施設はないものの、春日市などの工房跡出土例などからそれに類するものとする。

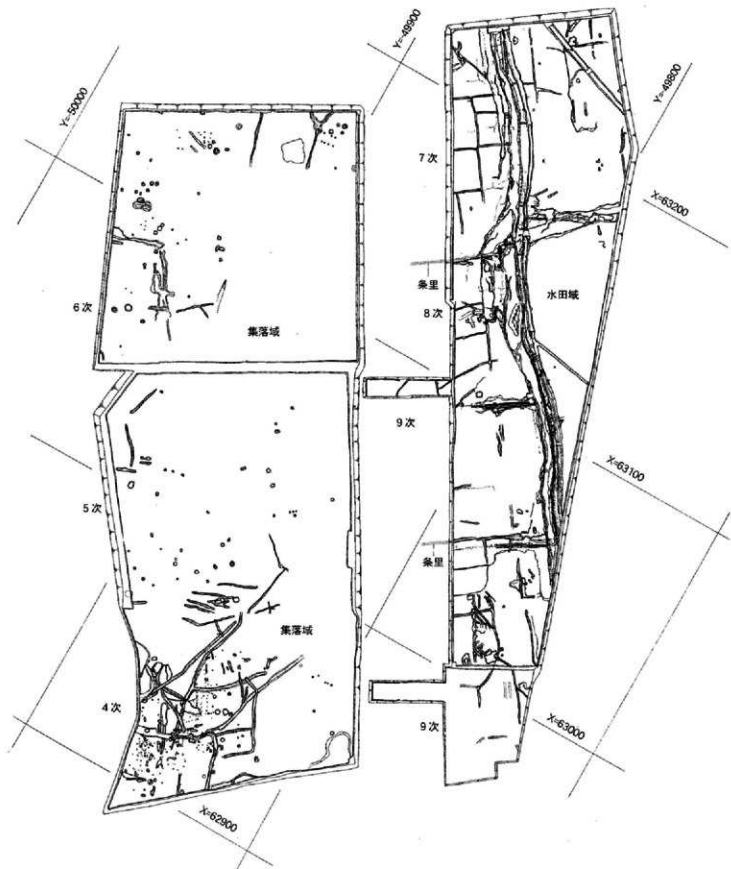


Fig.157 第4～9次中世遺構面 (1/1,500)

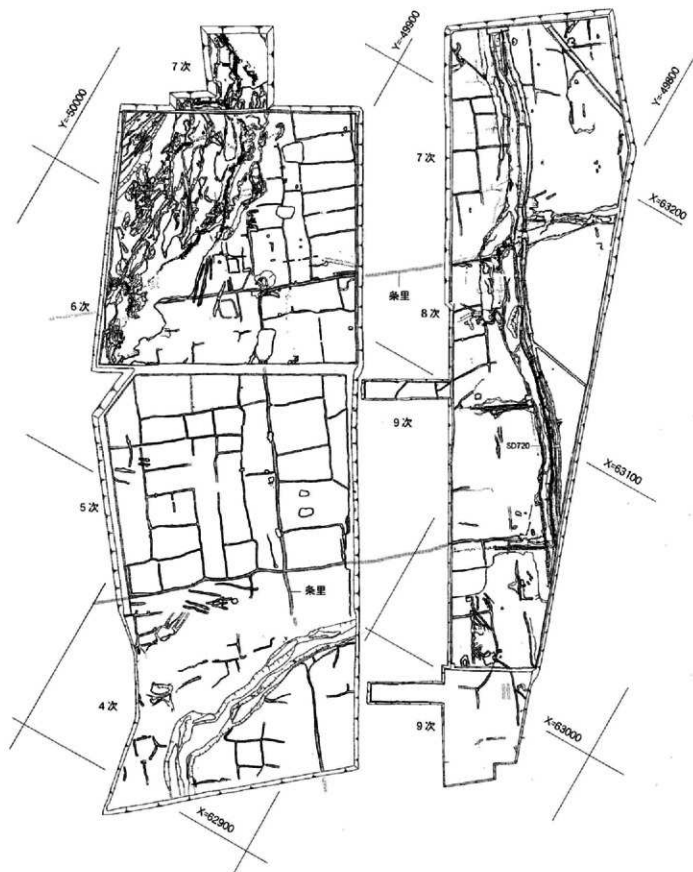


Fig.158 第4～9次古代遺構面 (1/1,500)

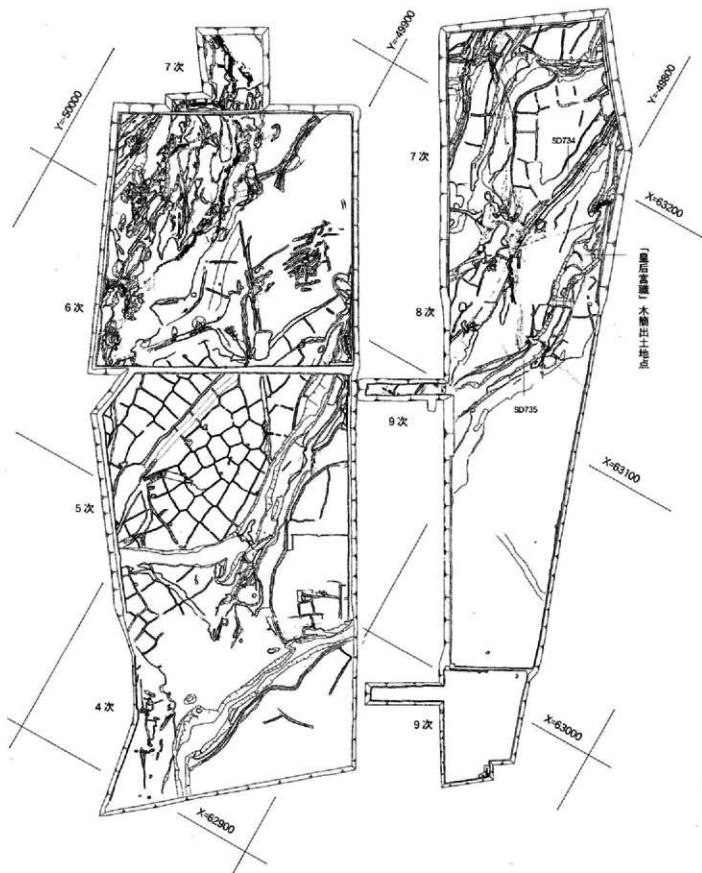


Fig.159 第4～9次古墳時代後期から古代前期遺構面 (1/1,500)

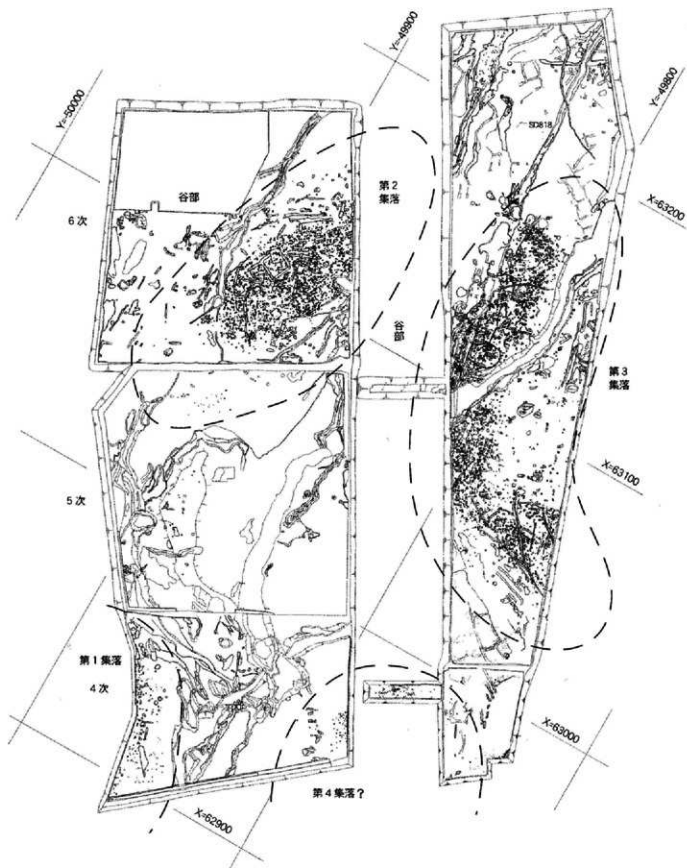
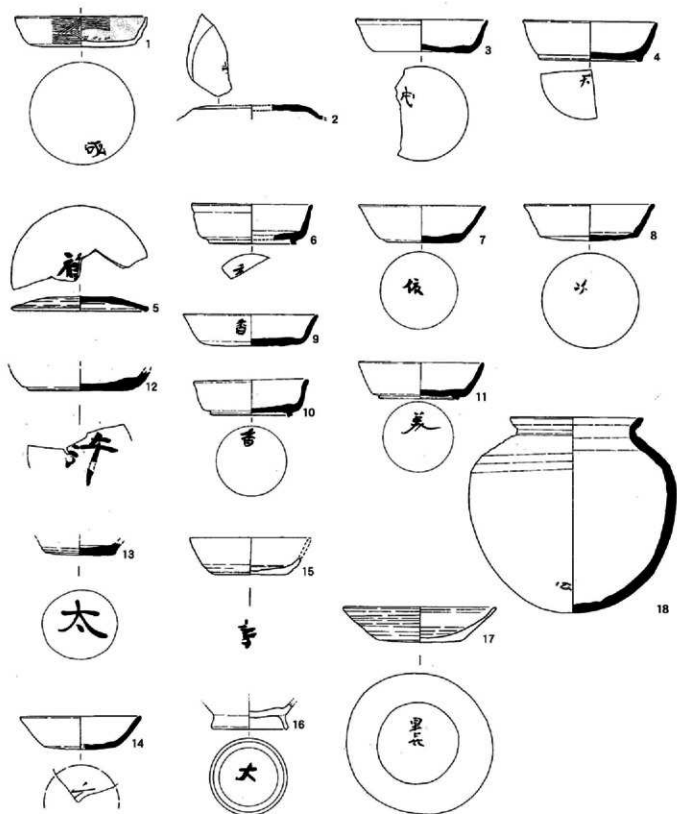
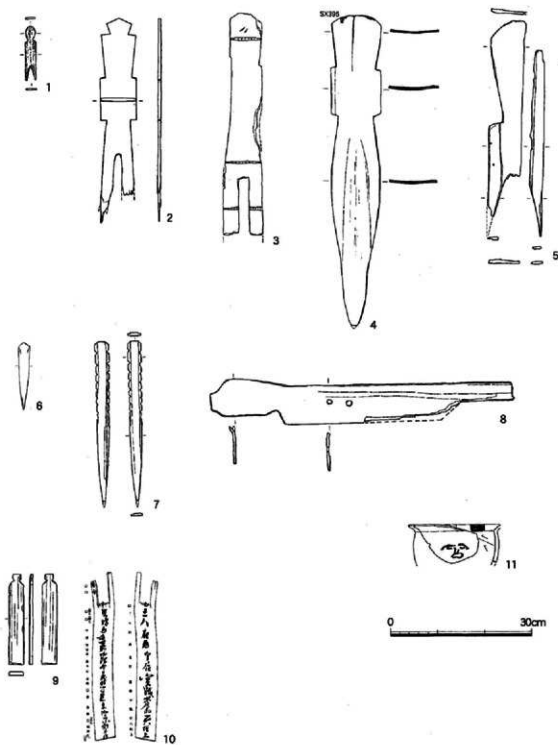


Fig.160 第4～9次弥生時代前期から古墳時代前期遺構面 (1/1,500)



1~4・6、7次 SD735、5、7次 SX932、7~11、8次 SD735、12、8次 SD703、13、7次 SD362、14、6次 SD402、15、6次 SD305、16、6次 SX395、17、7次 SX933、18、7次 SD735

Fig.161 第6~8次調査出土墨書土器 (1/4)



1、8次 SD735(SX1050)、2・5・7・8・9、6次 SX395、3、6次 SX403、4、7次 SX395、
6、7次 SD735(SX744)、10、7次 SD735(SX744)、11、8次 SD735

Fig.162 第6～8次調査出土祭祀木器と木簡 (1/8)

報告書抄録

ふりがな	しもつきぐましーいせき なな
書名	下月限C遺跡Ⅶ(本文編)
副書名	福岡空港周辺整備事業に伴う下月限C遺跡第8・9次発掘調査報告一
巻次	Ⅶ
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	932
編著者名	山崎龍雄/荒牧宏行/森勇一/パレオ・ラボ株式会社/パリオ・サーヴェイ株式会社/日野尚志/屋山洋
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8-1 TEL.092-711-4667
発行年月日	西暦2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °N	東経 °E	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
下月限C遺跡群第8次調査	福岡市博多区月限4丁目	40132	2625	33°34'15"	130°27'41"	20020401~ 20030331	7,400	調整池工事
下月限C遺跡群第9次調査	福岡市博多区月限4丁目	40132	2625	33°34'12"	130°27'42"	20030401~ 20031031	2,000	調整池工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下月限C遺跡第8次調査	集落・水田	弥生時代、古墳時代、古代、中世後期、近世	弥生時代-掘立柱建物+土坑+溝+古墳時代-溝+自然流路+水田+土坑/古代-溝+川跡+堰+水田/中世-溝+水田+堰/近世以降-溝	弥生時代-弥生土器+石器+銅鐻+鉄器+ガラス玉+木器/古墳時代-土師器+須恵器+木器/古代-土師器+須恵器+燕書土器+木器+木製祭祀具/中世-土師器+中国産陶磁器+木製品+木製品/近世-国産陶磁器+木製品	奈良時代の川跡から人形・人面燕書土器、また弥生時代集落では30棟を超える掘立柱建物を検出した。
下月限C遺跡第9次調査	水田・流路	弥生時代、古墳時代、古代、中世	弥生時代-溝+水田+ビット/古墳時代-溝+水田/古代-水田/中世-水田	弥生時代-弥生土器+石器+ガラス玉+木器/古墳時代-土師器+須恵器+木器/古代-土師器+須恵器+木器/中世-土師器+中国産陶磁器+木製品	
要約	調査地が所在する下月限C遺跡は福岡空港南側に隣接する一帯で、御笠川東側の沖積微高地上に立地する遺跡である。調査は洪水対策の調整池建設に伴って平成10年から15年迄実施した。第8次調査 弥生時代から中世にかけての遺構の調査を行った。第1面は古代末から中世後期の時期で、条里地割された群跡と第7次調査に続く水路と思われる溝である。溝からは埴が検出された。第2面は古墳時代後期から奈良時代頃の時期で、水田面と奈良時代に埋没した川跡がある。川跡中からは人形や人面燕書土器などが出土した。第3面は弥生時代中期から古墳時代前期迄の時期である。この面では第7次調査区から続く高所部で掘立柱建物跡から構成される集落を検出した。また北西側では弥生時代後期末から古墳時代初め頃の溝などを検出した。溝内には埴があった。また南西側低地部には水田があったようである。第9次調査 建設予定地の南東隅部と、調整池通水管部分の調査である。各面で水田面と、自然流路・溝を検出した。				

下月限C遺跡Ⅶ — 本文編 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第932集

編集・発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神一丁目8-1
平成19年3月30日

印刷 大野印刷株式会社
福岡市博多区榎田2丁目2-65